



千葉大学医学部同窓会報 第163号 題字 故鈴木五郎 (大11卒 元みのほな同窓会長)

編集発行者 千葉大学医学部 みのほな同窓会報編集部 〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学医学部内 みのほな同窓会 電話 (043) 202-3750 FAX (043) 202-3753 e-mail : info@inohana.jp HP : http://www.inohana.jp/



新みのほな同窓会館の完成を願って

千葉大学長 齋藤 康



医学部創立135年を祝して同窓会館の建設を計画され、同窓生をはじめ千葉大学医学部を心で支える多くの方々によって着々と進められていることに、みのほな同窓会の伝統の力を感じますとともに、後輩に寄せる先輩の方々の強い心意気を感じるところでございます。千葉大学には工学部、薬学部にもそれぞれの記念の年に同窓会館というべきものが建設されています。最近では園芸学部で松戸キャンパスに創立100周年記念事業として約2億円をかけた同窓会館が設立され、大学に寄附されています。先輩が先輩に寄せる思いを、後輩が先輩から学ぶという思いをいろいろな形の交流を通じて行われています。そして先輩から後輩への支援をするという趣旨からも全学的に校友会が平成14年に磯野元学長の発案で設立され、その輪はSEEDS基

金というシステムを生み、同窓生、保護者、教職員などからのご寄附が行われるようになりました。この基金では学生の海外研修支援、学生の研究に対する支援、総合学生支援センターの建設費の一部などの費用として拠出されています。また一年一回の総会での学生と同窓生の交流会、大学祭における卒業生サロンの設置、そこでは学生が今日の大学キャンパスを案内するといふ企画がなされ、久しぶりの大学だけでも変わったね、など会話がなされて、先輩後輩の交流が進んでいきます。また校友会の交流を通じて会社を経営する立場になつていらっしゃる方々による交流も行われ多くの同窓生から千葉大学を話題にすることが多くなつたといわれています。とかく愛校心が生まれにくいといわれる国立大学ですが、それは母校を思う気持ちがないのではなかつたかと思つています。寄附をお願いする立場から申し上げますと、この社会経済情勢の中、誠に心苦しいところでありますが、法人化した今、大学はそれを構成する多くの関係者とともに、地域を考え、国を考え、世界を考えて発展して

- 平成25年度みのほな同窓会総会を左記により開催いたします。
- 日時 平成25年6月29日(土) 午後4時より
 - 場所 三井ガーデンホテル千葉 電話 043-224-1131
 - 議事等
 - 1) 名誉会員の推薦について
 - 2) 年次活動について (報告事項)
 - ① 庶務部報告
 - ② 事務部報告
 - 3) 平成24年度決算について
 - ① 決算報告
 - ② 監査報告
 - 4) 平成25年度事業計画について

みのほな同窓会総会 開催のお知らせ

前野哲博 先生 「大学における地域医療教育の現状と課題」 講演内容については23面に掲載 懇親会 午後6時より 於…三井ガーデンホテル 千葉 会費 一万円 学生会員は無料 (当日受付にて申し受けます)

医学研究院長・医学部長就任挨拶

横須賀 収 (昭50)



このたび、平成25年4月1日より中谷晴昭教授の後任として医学研究院院長ならびに医学部長を拝命するこ

とになりました。この長い伝統を誇る千葉大学医学部の医学研究院長を務めさせていただきますことは、大変光栄に思いますと同時に、その責任の重さに身の引き締まる思いで一杯であります。千葉大学医学部・医学研究院の使命は良い医師・優れた医学者を育て、先輩方

- ⑤ 平成25年度予算案について
 - (6) 役員の選出について
 - ① 会長、副会長、参与、監事
 - ② 理事
 - ③ 常任理事 (理事会を総会と兼ねる)
 - ④ 評議員
 - (7) 新みのほな同窓会館設立事業について
 - (8) その他
- 特別講演 筑波大学医学医療系地域医療教育学教授

紙面紹介

総会開催のお知らせ	1	会員から	24
就任挨拶	1~4	地区のみのほな会報	24~25
叙勲感想	4~6	学内情報	26~27
卒業祝辞	7	雑文雑談	27
最終講義	8~10	課外活動団体だより	28~29
論点	11	医学教育	30
各地区会長挨拶	12~13	卒業研修先	31
各地のみのほな会	14~16	入学者名	32
クラス会	17~18	人事異動	33
研修プログラム	19~20	議事要旨	33~34
研修医だより	21	オンライン会報	36~37
追悼文	22	会館設立	38~43
著書紹介	22~23	編集後記	44

(齋藤先生のつづき)
ていくという仕組みになっ
ていると思います。決して
国は放置しているというわ
けではありません。昭和39
年に建設された素晴らしい
医学部記念講堂も老朽化が
みられ、改修の必要にせま
られていましたが、このた
び国から予算化がなされ改
修されることになりました。
このたびの同窓会館の建
設には物価の変動もありご

苦勞されておられること
伺っています。SEEDS
基金では多額のご寄附者
は校友会総会の時に感謝状
を贈呈したり、またそのご
厚意を長く留めておくため
に刻印して感謝の意を表明
しています。園芸学部での
基金募集活動でもご寄附者
の額と名前を公表されてい
ます。額を競うのが寄附で
はないと思いますが、ご寄
附による集金額は洋の東西

を問わず常に多額の寄附者
を得て初めて達成されると
いわれます。
先輩と後輩の絆をしっかりと
作り上げるためにも、
同窓会館の建設を成功させ、
後輩が先輩とのつながりを
胸に頑張る姿を思うだけで
も千葉大学の夢が広がる思
いがします。どうぞご支援
のほどよろしくお願いいた
します。

(横須賀先生のつづき)
良い、教育が必要と考えて
います。医学教育では海外
に飛翔するためにもグロー
バルな基準に見合った5-
6年次の臨床医学教育の充
実が求められており、本格
的な医学教育をより早期か
ら始めなくてはならない状
況になっております。しか
しながら、現状では1-2
年次にはゆつたりとした教養
教育が行われているために、
急に3-4年次からの医学
教育負担が多くなり、詰め
込み教育の弊害が出ている
と思われまます。本学では平
成12年度より学士入學制度
(M-PhDコース)が導
入されておりありますが、それ
が3年次編入であるため、
本格的な医学専門教育の開
始が3年次となっております
。比較的少数の学士入學
者のための教育が、多くの
通常入學者の教育の妨げに
ならないように、通常入學
者の2年次から医学専門教
育をさらに充実させること
を検討し、医学教育カリキ
ュラムの改善を図って参り
たいと思っております。

これまでかなりの教員数の
削減が実行されてきました
が、今後も引き続き教員数
の削減が求められる可能性
があります。特に基礎教室
の人員減は著明であり、教
室運営が危惧されます。
一方、医師不足に対応す
るために、医学部入學定員
は増加しており、教員数の
減少は、教育・研究・診療
活動の著しい低下を招く恐
れがあります。これに対応
するために、医学部・医学
研究院では組織機構を簡素
化し、より機動的な体制を
敷こうとしております。ま
た、基礎と臨床の統合を
促進し、より効率的な教育
研究体制を整備したいと考
えております。

また、卒後研修必修化以
降、全国の大病院におい
て研修を受ける卒業生が減
少しました。本学も例外
ではなく、本学卒業生が都
心の病院で研修することも
多くなっております。本学
出身の優秀な人材が県外に
流出することは、本学の将
来を考えると由々しき事態
であります。宮崎勝附属病
院長と協力して、卒業生の
大学への回帰へ向けて様々
な方策を考えて参りたいと
思っております。卒業後の
研修プログラムの充実化ば
かりでなく、研究や診療の

面でも本学がさらに魅力的な
医学部・医学研究院となる
ように努力し、「やはり千葉
大が一番」と思わせる必要
があると考えています。幸
いなことに、後期研修医な
ど最終的な入局者は未だそ
れほど減少しておりません。
何とか今のうちに研修医の
大学離れを食い止め、帰学
者の増加を図りたいと思っ
ています。
このような厳しい状況の中、齋藤学長、徳久理事は
じめ多くの教員の皆様のご
努力で、グローバルCOEの
採択に引き続き、リーディ
ング大学院が採択されまし
た。また、子どもの心の大
学院やスーパー社会医学大
学院の予算を獲得できてお
ります。附属病院では全国
でも少数の臨床中核病院の
一つに選出され、大型予算
が獲得されております。
運営費交付金の減少を補
填するためにも、今後も外
部資金の獲得に努めると共
に、基礎・臨床教室の交流
をより盛んにして、若手研
究者を積極的に育成し、教
員数減少を補って余りある
ような研究の活性化、教育
の充実化を図って参りたい
と思っております。
最後になりますが、待ち
に待った千葉大学医学部創
立135周年記念事業によ

日本細菌学会の最高賞「浅川賞」受賞



野田公俊教授 (千葉大学大学院医学研究院病原細菌制御学) が「浅川賞」を受賞しました。平成25年3月19日に千葉市の幕張メッセで開催された第86回日本細菌学会総会で、表彰式と記念講演が行われました。



*日本細菌学会

「浅川賞」の由来

明治41年(1908年)に「日本の細菌学の父」とよばれる北里柴三郎博士等により設立・実施された伝統ある賞。北里博士の高弟で若くして病死した浅川範彦博士の学勲を記念して設けられ、105年の歴史を持つ。昭和34年(1959年)より日本細菌学会の最高賞として、同学会が選考・授与するスタイルになった。

昨今、大学を取り巻く環境は極めて厳しく、国からの運営交付金は毎年一定割合減額され、それに見合った人員の削減が求められております。医学研究院でも

また、卒後研修必修化以降、全国の大病院において研修を受ける卒業生が減少しました。本学も例外ではなく、本学卒業生が都心の病院で研修することも多くなっております。本学出身の優秀な人材が県外に流出することは、本学の将来を考えると由々しき事態であります。宮崎勝附属病院長と協力して、卒業生の大学への回帰へ向けて様々な方策を考えて参りたいと思っております。卒業後の研修プログラムの充実化ばかりでなく、研究や診療の

面でも本学がさらに魅力的な医学部・医学研究院となるように努力し、「やはり千葉大が一番」と思わせる必要があると考えています。幸いなことに、後期研修医など最終的な入局者は未だそれほど減少しておりません。何とか今のうちに研修医の大学離れを食い止め、帰学者の増加を図りたいと思っています。

今後、大学の選別化がますます激しさを増すと思われまます。しかし、何とか生き残り、競争を勝ち抜かなければならないと考えております。もとより、浅学非才の身ではございますが、教職員の皆様と一緒に、魅力ある千葉大学医学部とするよう努力致したいと存じます。そして、本学の卒業生が日本の医学および医療を支えるリーダーに育ってくださるよう教育して参りたいと思っております。るのほな同窓会の先生方の更なるご指導とご支援を切にお願い申し上げます。



就任挨拶

千葉大学医学部附属病院

薬剤部 教授

石井 伊都子 (千葉大薬・昭63)



平成24年9月1日付で、千葉大学医学部附属病院薬剤部の教授を拝命致しました。私は千葉大学薬学部を卒業し、これまで薬学研究院および薬学部において研究や教育に当たってきました。この間も、あのはな同窓会の諸先生方とはご縁があり、共同研究を行う他、医・看護・薬学部の3学部で専門職連携教育 (Inter-Professional education, IPE) を立ち上げる等、貴重な経験を積ませて頂きました。医学部の先生方から教わった最も重要なことは、研究においても教育においても、「患者さんが最も大切な教科書である」ことです。薬学部の中において患者さんに触れていなかった私にとっては大きな課題であり、いつかこの原点に触れてみ

たいという気持ちを静かにもっておりました。

近年、薬剤師の仕事は大きく拡大してきました。「業あるところに薬剤師あり」とばかりに、その職能が幅広く認められるようになりました。薬剤師は薬剤部内で調剤をすること以外に、病棟における薬剤管理指導、注射薬の一施用毎の取り揃え、処方提言や薬学的管理、更には手術部における麻酔薬や麻薬の管理、入退院センターにおける患者さん個々の服薬・情報管理、外来化学療法室における抗がん剤治療の薬学的管理等、病院内における薬剤師へのニーズが日々拡大している状況です。現在の薬剤部は54名の薬剤師を抱える大所帯ですが、この人数でも対応しきれないのが現状です。増員はもともとですが、個々の薬剤師の力量を上げ、患者さんに満足して頂けるような薬物治療が提供できるように、薬剤部として研鑽を積んで参りたいと思いま

す。

このような業務拡大の中、患者の皆様には安心で安全な薬物治療を提供しなくてはなりません。そのためにも、安心材料として業務改善の数値化を図る、あるいは薬物治療においての不具合な点について原因を明らかにし、より良い方法をご提案するといった課題も研究として取り上げ、同時に進めて参りたいと思います。

千葉大学大学院看護学研究科

基礎看護学講座

機能・代謝学教育研究分野 教授

小宮山 政敏 (東農工大・昭57)



平成25年3月1日付で千葉大学大学院看護学研究科機能・代謝学の教授を拝命いたしました。これまでお世話になりましたあのはな同窓会の諸先生方には心より感謝申し上げます。

私は昭和57年に東京農工大学農学部獣医学科を卒業し、昭和59年に同大学院農学研究科獣医学専攻を修了したのち、千葉県勝浦市に

業務改善や研究は、患者

さんにより安全でより安心な薬物治療を提供するためのものです。患者さんの声に耳を傾け、患者さんの状態を良く理解することを常に意識しながら取り組みたいと思っております。それは、あのはな同窓会の皆様のご指示を欠くことができません。どうぞ、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い致します。

新設された国際武道大学解剖学教室の助手となりました。その年の10月より当時の医学部解剖学第一講座において委託研究生として嶋田裕先生に師事させていただきましたこととなり、以来ずっと千葉大学にお世話になっています。平成2年には医学部解剖学第一講座の助手となり、博士号の学位取得後はスイス連邦工科大学に留学させていただきました。嶋田先生の下では主に筋原線維の形成メカニズムに関する研究に従事いたしました。厳しくも温かいご指導を賜り、それが現在の私に

とつての礎となっております。

平成12年には森千里先生が解剖学第一講座の教授となられ、また大学院化に伴って教室名は環境生命医学となりました。そこで私は内分泌攪乱化学物質(環境ホルモン)の影響に関する研究に携わることになり、マイクロアレイ等を用いたリスク評価の開発などを手がけました。平成14年には講師に昇任させていただきました。平成15年からは柏の葉キャンパスに設置された環境健康フィールド科学センターに勤務することになりました。そこでは、園芸学部、教育学部、看護学部、薬学部の先生方と知り合いになり、植物や園芸の療法的な活用などに関して共同研究をさせていただきました。

平成20年には准教授として医学研究環境生命医学に戻り、それまでずっと携わってきた肉眼解剖学教育を、実質的に任されるようになりました。また、解剖実習で大変お世話になっている篤志献体団体千葉白菊会の理事ならびに副会長の役割を拝命し、白菊会、医学部、環境生命医学(解剖学教室)が三位一体となって肉眼解剖学教育が推進できるよう、微力ながらも尽力してきました。

した。

このように、私はこれまで多くの方々に支えられてきました。この度昇任させていただきましたのも、今までお世話になりました多くの皆様方のおかげであり、この場をお借りして改めて御礼を申し上げます。

看護学研究科機能・代謝学では、学部教育として主に形態機能学Ⅰ・Ⅱ(解剖学・生理学)、代謝栄養学(生化学、薬理学を担当し、また大学院教育として博士課程前期(修士)・後期(博

この度、落合直之前教授(現筑波大学名誉教授)の後任として、平成24年12月1日付をもちまして筑波大学医学医療系整形外科の教授職を拝命いたしました。これもひとえに皆様のご支援ご厚情の賜物と深く申し上げます。

私は昭和58年に千葉大学

筑波大学医学医療系

整形外科 教授

山崎 正志 (昭58)



士)の多くの教育にも携わります。スタッフは私の他に准教授1名と助教1名がおります。何分にもまだ慣れていないので多少戸惑うこともありませんが、従来からのスタッフと協力して、看護対象者のからだの中で何が起きているのか、豊かな感性をもってイメージできるような看護師を輩出できるよう努力して行きたいと思っております。あのはな同窓会の皆様、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

医学部を卒業し、当時、井上駿一教授が担当されていた千葉大学整形外科教室に入局いたしました。その後、守屋秀繁教授のご指導を受け、平成2年に千葉大学大学院医学研究科博士課程を修了し、平成20年から高橋和久教授のもとで准教授を務めておりました。

私の専門は脊椎外科、その中でも、特に頸椎、胸椎が専門です。最も力を入れてきた仕事は、脊髄損傷や後縦靭帯骨化症などに伴う重度脊髄障害に対する治療

法の確立です。手術の手法という点では、脊髄除圧やインストゥルメンテーション手術（特に上位頸椎の手術を多く手がけました）の精度、安全性向上のための工夫に主眼をおいて研究を行ってまいりました。基礎研究では、脊髄再生の研究を行いました。そして、基礎研究での結果をもとに、GCSFを用いた脊髄再生の臨床試験を4年前から行っております。GCSFで動員された自己の造血系幹細胞を脊髄へ移植する治療につきましても、臨床試験をなるべく早い時期に始めたいと考えております。もう一つの流れの研究としてましては、後縦靭帯骨化症の成因解明を目的として、異所性骨形成の機序の研究を行いました。これに関連して、骨折骨癒合過程の分子生物学的な機序の解明とその促進、特にPTT間欠投与による骨癒合促進について研究を行いました。骨粗鬆症についても、基礎的、臨床的な研究を進めております。私が筑波大学に赴任するにあたり、大きく期待しているものが2つございます。第1は、研究学園都市としてのつくばの恵まれた環境です。産総研、JAXAなどの日本の最先端の科学技術

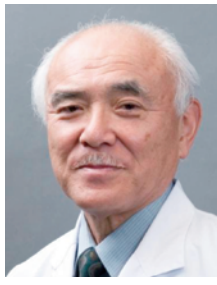
を有する研究機関が、大学の周囲に多数位置しています。現在でも、これらの研究機関との共同研究は行われていますが、私はこれらの研究をさらに進めて、筑波大でしかできない新しい形の研究を進めたいと思います。第2は、異なった2つの文化（流儀という方が適切かもしれません）の融合です。筑波大学には、初代の吉川先生、2代目の林先生、3代目の落合先生が築き上げられた、素晴らしい医療の知識、技術、そして高いレベルの研究があります。私もこれまで、千葉大学の先輩の先生方から多くのものを教えていただきました。今後、2つの流儀が一緒になることによって、筑波大ならではの新しい基礎研究、基礎研究に根差した治療法の開発というものが可能になると信じております。

最後にありますが、整形外科のさらなる発展と地域・社会貢献の実現を目指し、教育・診療および研究に一層の努力をいたす所存でございます。今後とも皆様の尚一層のご指導・鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

受章の挨拶

瑞宝中綬章

叙勲に当たって



24年度秋の叙勲で瑞宝中綬章を頂きました。1966年千葉大学医学部を卒業、第一内科白壁先生の研究室に入りました。しかし国試ポイコット組で、医師資格ないまま白壁先生の関係で四国地方がんセンターに臨床検査技師の資格で出向。1968年白壁先生が順天堂大内科教授になられ、私は四国から順天堂大に最も若いメンバーとして馳せ参りました。千葉大学第一内科には国試合格後に行われた2週間の医局新人教育に通ったのみであります。1971年順天堂大を辞し、医師不足の陸上自衛隊に入隊、自衛隊中央病院に配属。そこで内科部長、外来部長、高等看護学院長を経て、1992年に防衛庁（現防衛省）陸上幕僚監部（いわゆる参謀本部）の衛生部企画室長に転出、完全に

白濱龍興（昭41）

退職しました。1昨年の東日本震災の時の自衛隊の活動、自衛隊災害医療の礎を作ったものの一人として誇りに思います。今回の叙勲は、自衛隊の組織人としての評価を頂いたものであり、長きにわたり一緒に働いて頂いた方々に代わっての叙勲であります。

瑞宝小綬章

信州るのはな会と叙勲

熊谷信夫（昭28）



現在は、かつて閉鎖中であった銚子市立病院の再開に関わり奮闘中であり、これを機にますます精進し、現役の医師として精一杯銚子で頑張りたいと思っております。今後ともよろしくご指導・鞭撻のほどお願い申し上げます。

昭和23年日本医療団から県立に移管され、26年に河合直次先生のお力添えで第一外科の関連病院となり、森川不二男先生が副院長で赴任した。以来50年間、学園紛争の時も、今回のような医師不足の折にも、かわりなく確固たる関連が続いている数少ない施設である。昭和33年の2月、恩師河合先生の「君は須坂だよ」の一言で、須坂を「終の棲家」と定めたが、この時すでに50年後の叙勲の運命まで決まっていたような気がしてならない。

我々の出身母体が「千葉」すなわち「おのはな会」であることは言うまでもないが、この50年間にのびのび会をはじめ、一外科、地域の皆さんなどから数々のご指導、ご芳情をいただきましたことに、紙面をかりて感謝とお礼を申しあげ筆を措く。



瑞宝小綬章 叙勲の感想



飯田龍一 (昭41)

平成24年秋の叙勲の末席に連ならせて頂きました。もとより何の手柄もあつたわけではないので、面映ゆい感を拭えませんが、40年間社会保険病院に勤務し、30年間病院長を務めたことに対する公的証明書として、ありがたく拝受させて頂きました。

これまでの人生、常に批判的・懐疑的精神を失わないうことだけに努めました。「権力に逆らうものは、野良犬といえども取り敢えず支持する」という姿勢を貫くことが大切だと思つて来ました。この勲章が、どんな小さなものであつても、世の中の振子が大きく振れて、また戦前の暗黒時代に戻るような事態となつた時：この日本においては十分あり得ることですが、破壊的危険人物ではないと保証される手形にもなるのではないかと期待しています。

入学が60年安保の年で、卒業がインターン闘争の真っ只中でした。第二内科入局後、供血者の採血ミス事件が発生し、その後教官層と無給医が対抗抗争する事態となりました。全国的には安保反対闘争から引続き大学改革運動の波が高まり、特に封建的雰囲気の高い医学部は、あちこちの大学で紛争改革の波に揉まれることとなりました。本学においても、医学部運営委員会が設置され、教授会と改革勢力の間で定期的会合がもたれ、激しい議論が交わされました。こうした改革の機運も、大学立法が成立すると勢いを削がれ、潮の引くように消え去つて元の木阿弥に戻ることとなりました。卒業後の5年間、紛争改革運動の中で経験したことが、その後の人生の様々な場面で大いに役立つと思つています。

1971年4月、新宿の社会保険病院に内科医として就職し、1977年5月、社会保険山梨病院に移り、1981年6月、前任院長の後を継いで病院長となり、2011年3月定年退職しました。

現役を退いた今、執着の気持ちも薄らぎ、物事を冷めた目で見る事ができるようになりました。

旭日双光章 叙勲の榮に浴して



三枝一雄 (昭32)

うになったと思います。全刊買い揃えた岩波文庫をほちほち読むことだけに、楽しみを感じています。

平成二十四年秋の叙勲で旭日双光章を受賞致しました。今回、るのはな同窓会報に記事を掲載したいから執筆するようにというお便りを編集長から頂戴しました。私は昭和7年、千葉県富津市の開業医の家に生まれ、地元木更津高等学校より千葉大学に進学しました。昭和32年に卒業し、成田赤十字病院でインターンを行いました。その後外科医を目指し翌33年、第一外科(河合直次教授)に入局しました。河合先生はまもなく退官され、次期教授の綿貫重雄先生の下で10年ほど修業させて頂きました。昭和43年、三枝病院を開業し、今は院長を辞して譲って、併設した老人保健施設の施設長を引き受けて今日に至つて

おります。私が叙勲となつたのは、千葉県医師会の推挙で、平成6年から約10年間、役員を勤めたことだと思ひます。私は理事としては学校保健と労災・自賠責(自動車損害賠償責任保険)担当、副会長としては主に医師連盟を任せられました。学校保健はそれまでは内科・小児科の先生が担当したのですが、私は未経験の分野で一から先輩の指導を受けて何とか任務を遂行しました。医師連盟は政治活動が主体で、特に国会議員・県知事・県会議員の選挙等では、日本医師連盟と密接に連携し、当時は原則的に政権政党(自民党)を支持することになっていました。私は特に医系議員の選挙では候補者の車に乗せて頑張りましたが、惜しくも落選という悲劇を味わいました。

感謝して頂戴した次第です。私の経験を通じて、医師は政治に関心が薄く、選挙活動などはせず、団体としての力が弱いことを痛感しました。のりはな会会員諸氏は皆学問・技術は優秀ですが、団結力に欠けると思ひます。今後は医療人として

瑞宝双光章 叙勲によせて



下野武 (専25)

お世話になった母校を愛し、医療の崩壊を招くような政治を正し、立派なオピニオンリーダーになるべきであると反省しました。気がつくと私は今年八十歳、平均寿命を越えましてので、これからは後進の皆さんによりろしくお願い致します。

平成24年11月、文化の日発表を受けて、皇居豊明殿において、天皇陛下に拝謁、叙勲の榮譽に輝き感激をしております。今日まで関係各位、そして同窓の皆さまから、御支援御指導を頂き心から感謝申し上げます。私は昭和25年卒業、国家試験合格後、26年千葉大学第一外科に入局し、河合直次先生のご指導を頂きました。学位取得後、31年に国立小諸療養所外科医長に、33年に房総市千倉町国保七浦病院長として勤務後、39年に開業しました。時まさに新

千葉県教育委員会賞
平成21年11月10日
文部科学大臣賞を受賞しました。

また、県医師会関係で県医代議員、医師国保組合代議員を、そして印旛市郡医師会にて理事、副会長、議長を、そして四街道市内にて、医療福祉審議会長、予防接種健康被害調査委員会会長等を経て、現在印旛市郡医師会顧問として活躍しております。

市内に医療機関45を数えますが、その中で各科に19名の同窓の先生方が活躍され、各種勉強会を開催され、生涯教育の一端を担っております。そんな立派な環境の中で、医師会活動のできることに幸を感じております。

今回同時に叙勲の榮譽に輝いた、熊谷、三枝両先生も同時期第一外科に在籍しておりましたことを懐かしく思っております。同窓の皆様、御多幸と御活躍を、そして同窓会の益々の発展をお祈り申し上げます。

叙勲、褒章、その他祝事に関係された方は是非、同窓会事務室まで一報ください。

私の歩み



原 恒男 (昭27)

平成24年秋の叙勲にて、瑞宝双光章(学校保健功労)を拝受いたしました。誠に光栄の至りです。受賞は多くのみなさまに支えられてのことであり、誠に感謝に堪えません。おかげさまで内科医院開業五十年を迎えることができます。

赤石山麓、飯田市上久堅に生まれ、飯田中学校卒業後、文系進学を志したが挫折、徴兵検査も終えて進路に悩む中、縁者より医者になるなら資金援助くださるとの話があり、試しに受けた旧制松本高校理乙に入学できたのが始まりでした。

戦後の食糧難の中での寮生活や勉学、千葉医大に合格できたのは幸いでした。入学後、社会医学研究会に入会し、良い経験を積みこつて、第一内科に入局でき、入局4年目、三輪清三教授より、まだ訪れたこともない木曾への話がありました。

のちにわかつたことですが、教授の同級生、国立松本病院長だった百瀬孝男先生からのお話で、要は学生時代の資金源からの話でもありました。当初は反対されていた同じ研究室の先輩方も「君、縁は縁だよ。」の先輩の一言で賛同してくださりました。

結婚後、熊谷協同病院に派遣されましたが、2年後には、国立松本病院内科に空席ありと同院の先輩からのお話があり、松本に移りました。松本移住2年後には、養父の病死にて、木曾福島に開業せざるをえなくなりしました。

国立松本病院では、X線装置が旧態だったので更新してもらい、その手前もあつて、胃のX線診断を多く手がけました。開業後も胃のX線診断に重きを置き、テレビ装置も更新しましたが、やがてX線診断に限界を覚え、内視鏡検査に重点を移行し、大腸内視鏡検査にも挑みました。その頃より右手指皮膚に疣など角化症状が見られるようになり、長野市繁田医院(昭52)のお世話になり、皮膚ガンに

て、右第三指末節切断、BOWEN病とて、移植も数回受けました。この右手指の変化はX線防護を怠った故の障碍とはいえ、勲章と思えば良いと言ってくれた友人もいましたが、今も治療に四苦八苦しています。15年前、長男帰郷とともに、

新るのはな同窓会館

設立事業について

建物・設備等整備委員会委員長 田邊 政裕

新るのはな同窓会館の建設事業は、2012年12月末に3回目の入札が行われ、県内の建設業者に落札しました。2013年1月から工事がスタートし、現在、順調に進行しています。12月には竣工予定となっております。今回の入札は別途工事(契約後に別途工事を発注するようにして入札価格を削減する)を設定しておりますので、更に寄附金を積み増して、最終的な建築工事を留意しなければなりません。4月17日に開催された常任理事会でのはな同窓会基金よりの支弁の増額が承認されましたが、今後とも募金をいただけていない同窓生を中心に更なる寄附をお願いする次第です。

診療所新築移転し、内視鏡検査等は息子に任せることができました。今後心身の続く限りは、息子の助けを得ながらも、診療を続け、少しでも地域のお役に立つことができればと願っています。

新のはな同窓会館設立事業会募金状況報告書

平成25年3月31日現在

寄付者	千葉大学基金		みののはな同窓会寄付金		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
企業等	149	50,359,000	16	3,440,000	165	53,799,000
教職員 (元職員も含む)	191	23,374,000	121	4,190,861	312	27,564,861
同窓会会員	1,523	116,900,000	936	39,711,217	2,459	156,611,217
後援会会員	67	4,868,000	49	2,730,000	116	7,598,000
合計	1,930	195,501,000	1,122	50,072,078	3,052	245,573,078



安全祈願祭



平成24年度千葉大学医学部 卒業証書伝達式・祝辞

3月22日(金) 於 記念講堂

ののほな同窓会長 伊藤 晴夫 (昭39)

皆さん、ご卒業おめでとう御座います。ご家族の皆様のお慶びも大きいと存じます。千葉大学医学部は学問的にも社会的にも素晴らしい先輩を輩出しておりますが、これらの方々に並ぶような、さらには超えるような人物になるよう努力して頂きたいと思えます。皆さんは将来、自分が考えている以上に社会や地域に対して強い影響力を持つことになりまます。本日、多くのご家族の方々がご臨席されておりますが、このような恵まれた家庭環境に育ったことに感謝すると共に、世の中にはこのような機会に恵まれなかった方々が沢山いることを忘れないで下さい。そして、これから医療に携わる者の心構えとして、常に弱者への配慮を基本にすえて考え行動して下さい。

その規模と歴史から見ましても日本屈指の医学部同窓会です。千葉大学医学部は本年度で創立139周年を迎えます。現在、創立135周年記念事業が進行中ですが、この事業には、本日出席を賜っております後援会の皆様、すなわち卒業生のご家族の皆様からも、経済状況の厳しいなか、多額のご支援を頂きました。この席をお借りして御礼申し上げます。立派な医学部創立135周年記念誌は既に発行されました。本事業の中核である新同窓会館は、第一期工事が既に着工されました。同窓会館は、サークル活動など学生の種々の活動に必須であるだけでなく、教職員、先輩達との交流を通じた人間形成にとっても大切な場所でありまます。

ののほな同窓会には全国各地のののほな会がありまして、将来どこへ行っても、きっと皆さんの力になってもらえます。また、

皆さんの方からも積極的にそのような同窓会活動に参加して下さい。皆さんも、これからは、今度は自分達が千葉大の後輩達、あるいは母校を支援するのだ、という意識を徐々に育んで行って頂きたいと思えます。そうすることを通して、皆さんは、ますます母校を愛し懐かしむと同時に、千葉大学医学部の卒業生、同窓生であることに一層の誇りを感じて頂けるものと信じております。

以上、簡単ですがお祝いとお願いの言葉を述べさせていただきます。



★「効能又は効果」、「用法及び用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等
詳細は製品添付文書をご参照ください。

AJINOMOTO®

成分栄養剤

エントール® 配合内用剤

ELENTAL® ●薬価基準収載

消化器関連情報の配信サイト



<http://www.ajinomoto-seiyaku.co.jp/ajimed/>
先生方のお役に立てるような情報を配信する医療関係者専用の会員サイトです。



製造販売

味の素製薬株式会社

〒104-0042 東京都中央区入船二丁目1番1号

〔資料請求先〕

味の素製薬株式会社 くすり相談

☎0120-917-719

2010年4月作成
ED-JB54-0410-DNP

最終講義

癌細胞浸潤形質を演出する

接着分子CD44の役割

腫瘍病理学 張ヶ谷 健一 (慶応大・昭47)



本日は最終講義に当たり、医学研究院長から過分な紹介を賜り、有難うござい

考えます。病理学領域では癌の診断、病態解析はもつとも重要な分野の一つで、また、多くの病理学者がこの課題に取り組んできており、臨床から病理に勉強に

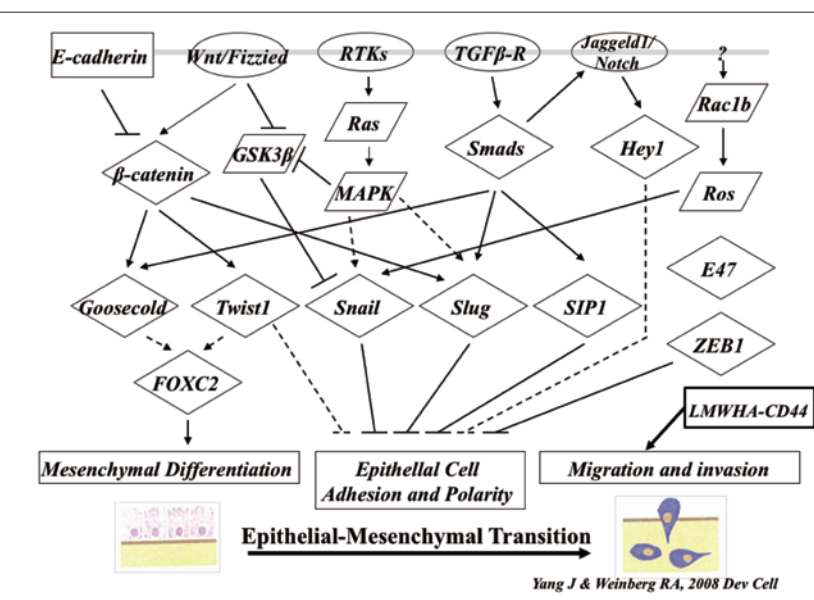
られる必要はないのですが、必ず持たなければならぬ形質は単一細胞として遊走することのできる形質であります。癌におけるEMTの起こっている局所は、癌細胞の浸潤先端部Invasive frontであります。癌細胞が好酸性の胞体を持って、紡錘形になる現象は古くから知られておりました。腫瘍病理学教室の前身である第一

知見が追加されており、ほぼ網羅されていると考えられます。ただ、NF-κBの関与に関しては欠落しています。E-cadherinは上皮細胞におけるadherens junctionの維持に重要な接着分子であり、上皮構造を維持するmaster regulatorであります。上皮系の腫瘍化においてはWnt signalingを抑制する腫瘍抑制因子であります。悪性腫瘍では早い段階から、分子発現は残っている。RhoGTPaseの干渉により、adherens junctionの維持に障害が起

転移をする局面で、細胞運動を惹起するtriggerとなる特別な機構や誘導因子が想定されますが、その存在に関してはよく理解されていません。悪性腫瘍の90%以上は上皮性由来であります。癌細胞がprogressionすると上皮細胞形態が失われ、運動能を持つ間葉系形態を獲得するようになる。癌の悪性の進行に伴ってヒアルロン酸(HA)の局在が変化するとする報告は多種の癌で報告されております。非腫瘍性組織では上皮細胞周辺にはHAは存在せず、やや離れた結合組織中に少量認められる程度です。腺管構造を消失した癌細胞では胞巣周囲にHAが増量して認められます。さらに低分化な充実性の増殖をする癌細胞では細胞周囲、細胞膜上にHAが認められます。この状況を我々はpericellular HAの局在と呼んでおります。また、分化した癌でも、浸潤先端では細胞が低分化となり癌細胞膜上にHAがありpericellular patternが観察されます。このことから悪性度の高い癌細胞はHA産生することが示唆されます。私どもはこれまでの研究によりEMTの未知の細胞運動を惹起す

るtriggerとして、低分子量HA(LMWH)-CD44の会合を考えるに至りました。この活性化されたCD44は受容体down streamで、RhoGTPase群の活性化、アクチン細胞骨格と接着斑の再構成が起こり、癌細胞のEMT機構における最も重要な癌細胞運動能が亢進するものと考えております。これからのEMTにおけるCD44の役割においてはCD44の細胞内-核内移動が一つの大きな焦点になるの

ではないかと考えております。現在までに2報論文が報告されており、CD44分子が膜上から核内に移送されて各種転写因子と複合体を作り、癌細胞の転写活性を亢進しているとの報告があります。我々が注目している23kDaHAを中心とした低分子量HAは極めて効率よくCD44の細胞質、核内移行を誘導します。この細胞質内、核内に移行したCD44の役割の解明はCD44が演出する癌浸潤・転移機



構の解明と治療戦略を立てる上に重要な情報をもたらすものと考えております。また、現在では、癌細胞がEMTを起こすことにより癌幹細胞形質を持つ細胞が生まれることを多くの人が知っています。従って、このEMTにおける癌幹細胞発生機構の解明はがん治療の根幹に連なる研究であると考えられます。このような観点からも、癌幹細胞に発現するCD44の機能もがん克服のために重要な課題です。最後に、多機能分子CD44

の研究は、これまでに広範な領域にわたり、膨大な報告があります。研究課題によって様々な機能が提唱されてきており、また、この状況はあたかも、群盲象を撫でる状況に近いものであります。CD44遺伝子欠損マウスの観察でも、軽度な障害はあるにしても、ほぼ正常に生育し、子孫を増やし、天寿を全うすることが出来ます。生理学的な生体においては重要な機能の担い手ではなく、幹細胞生物学やがん細胞生物学、感

染症の病態で思わぬ重要な機能を果たしていることが判ってきております。このような状況から、CD44分子はがんの浸潤転移における標的分子としては極めて有望な標的であるように思われます。ますますこの領域の学問が発展し、がん治療に向けた成果を期待してこの稿を終了します。

最後に、千葉大学医学研究院、並びに附属病院、そして、千葉医学の大いなるご発展を祈念しております。

疫学研究は端緒にいたばかりであり、臨床免疫学への応用にはまだ限度があった。そこで、臨床免疫学の研究をするには、基礎の免疫学を学ぶことが近道ではないかと考えるようになり、本学環境疫学研究施設免疫研究部（現在は中山俊憲教授の免疫発生学）の多田富雄教授の門下に加えていただいた。さらに、多田教授のご紹介により東京医科歯科大学難治疾患研究所人類遺伝学の笹月健彦教授からもヒトの免疫遺伝学を学ぶ機会を得た。その後米国立衛生研究所（NIH）への留学を経て昭和57年に本学の小児科に戻った。

器官由来の成分が多く含まれており特定の抗原分子は同定されていなかった。折よく甲状腺マイクロソームに含まれる甲状腺ペルオキシダーゼの研究で知られていた千葉大学薬学部細谷東一郎教授と共同研究を組ませていただき、甲状腺マイクロソーム抗原は甲状腺ペルオキシダーゼであることを明らかにすることができた（図1）。甲状腺ペルオキシダーゼは甲状腺ホルモン合成の「key enzyme」であり、現在は橋本病の診断において、抗甲状腺マイクロソーム抗体ではなく抗甲状腺ペル

オキシダーゼ抗体が測定されている。続いて、もう一つの代表的な自己免疫性甲状腺疾患であるGraves病のマウス疾患モデルの作成に取り掛かった。Graves病は甲状腺細胞膜に存在するTSH受容体に対する自己免疫応答による疾患である。そこで、マウスにTSH受容体の細胞外ドメインや合成ペプチドを免疫する実験が国内外の研究室で多く行われたが、甲状腺ホルモンの合成亢進やGraves病に対応する甲状腺の病理組織学的変化はマウスに認められなかった。私たちはTSH受容

体のタンパク高次構造が抗原として必要なのではないかと考え、甲状腺組織と同様にTSH受容体を発現した細胞をそのままマウスに免疫したところ、甲状腺ホルモンの上昇とGraves病に極めて類似した組織像が甲状腺にみられ、世界で最初のGraves病マウスモデルとして認められた。

このような自己免疫疾患についての研究に平行して、アレルギー疾患については気管支喘息や食物アレルギーを対象とした研究にも着手していたが、新美仁男教授の後を継いで教授を拝命した平成10年頃に、広島大学皮膚科学の山本昇壯教授が班長のアトピー性皮膚炎の疫学と治療ガイドラインの作成をテーマにした厚生科学研究班に加わるようになった。その後山本教授から研究班の班長を引き継いだこともあり、疫学手法に基づいたアトピー性皮膚炎の発症機序に関わる研究が主体となっていた。まずわが国におけるアトピー性皮膚炎の有症率について信頼できるデータがなかったことから、日本アレルギー学会の専門医が全国の約4万人の乳幼児および学童を健診し、アトピー性皮膚炎の有症率を調査した。さら

小児免疫・アレルギー疾患の基礎から臨床へ

小児病態学 河野陽一（昭48）



千葉大学医学部を卒業し、千葉大学の小児科に入局したのは昭和48年であり、40年ほど前のことになる。その後の経過を振り返ると、多くの人達との出会いにより自分の進む道が定まってきたように思われる。

私が入局した小児科は、久保政次教授が主宰されて

おり、アレルギー、とりわけ小児気管支喘息の病態の解明と治療法の開発に取り組まれていた。当時喘息の臨床像は明らかでなく、診断も標準化されたものとはなかった。とりわけ感染症を繰り返す乳幼児期の喘息は、ウイルスによる呼吸器感染症との鑑別が難しく、乳幼児喘息の治療の開始に多くの課題があった。また、現在と異なり喘息治療薬も極めて限られたものであり、アレルギー外来は常に多くの小児喘息患児で溢れてい

た。このような教室で小児科の初期研修を受け、自らアレルギーの臨床に興味を持つようになった。

私が学生時代を過ごした昭和40年代を振り返ると、昭和41年に石坂公成先生が「Q」を発見されアレルギー病態の解明に大きな一歩が記されるなど、免疫・アレルギー学の分野での研究活動が非常に熱してきた時期であった。一方で、マウスなどを用いた実験免疫学の進歩は目覚ましかったが、ヒトのリンパ球を用いた免

昭和57年当時の小児科は中島博徳先生が教授を務められ、平成元年からは中島教授の後を継がれて新美仁男先生が教授に就任された。小児科に戻ってから、小児自己免疫疾患と小児アレルギー疾患についての研究を考えていたが、まず臓器特異的自己免疫疾患の一つである慢性甲状腺炎（橋本病）に焦点を当て、主要な甲状腺自己抗原であるサイログロブリンと甲状腺マイクロソームに対する自己免疫応答についての研究をスタートさせた。甲状腺マイクロソームは、この分画に細胞内小

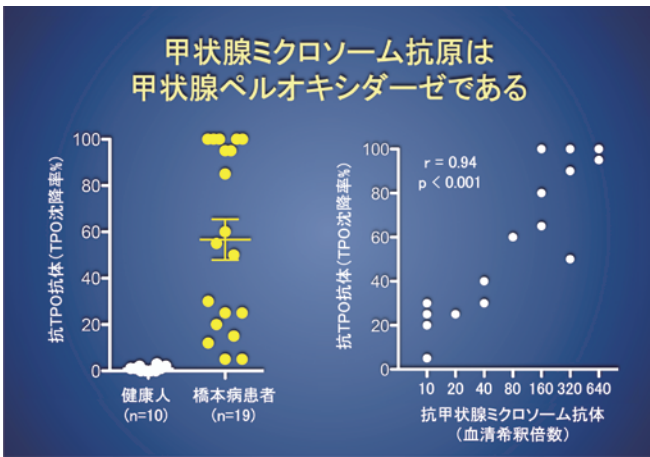


図1：甲状腺マイクロソーム抗原は甲状腺ペルオキシダーゼである

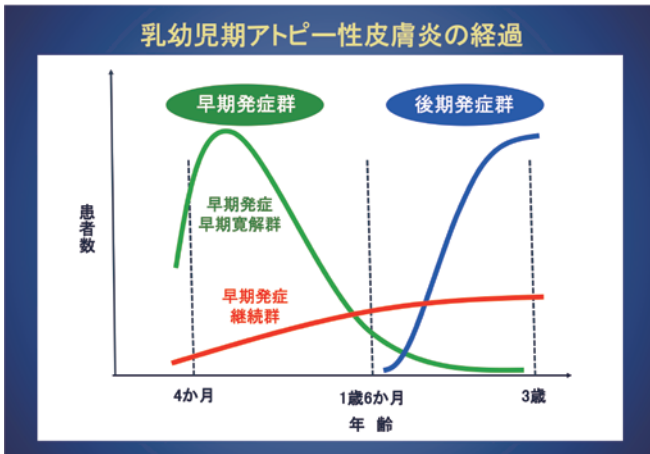


図2：乳幼児期アトピー性皮膚炎の経過

に、他大学とコホート研究を組み乳幼児期のアトピー性皮膚炎の経過を追跡したところ、多様な推移をとり生後4か月のアトピー性皮膚炎児の60%以上が1歳6か月には寛解しているなどが示され、アトピー性皮膚炎の生後4か月児と3歳児では、その患者集団が大き異なることが明らかになった(図2)。続いて食物アレルギーにアトピー性皮膚炎の発症が多いことから両者の関係を解析したところ、食物アレルギーの発症要因としてアトピー性皮膚炎が深く関与しており、外部か

らの刺激を阻止する皮膚バリア機能の低下と黄色ブドウ球菌のコロニー形成などによる局所炎症が皮膚に加わると、食物アレルギーの皮膚からの感作(経皮感作)が亢進することが判明した。すなわち、食物アレルギーの発症機序は消化管の免疫異常のみでは説明できないことになる。現在、乳児の皮膚バリア機能を保湿剤などで改善させることによりアトピー性皮膚炎や食物アレルギーの発症を抑制できるか、介入研究を実施している。観察型の疫学研究では、介入研究などにより発

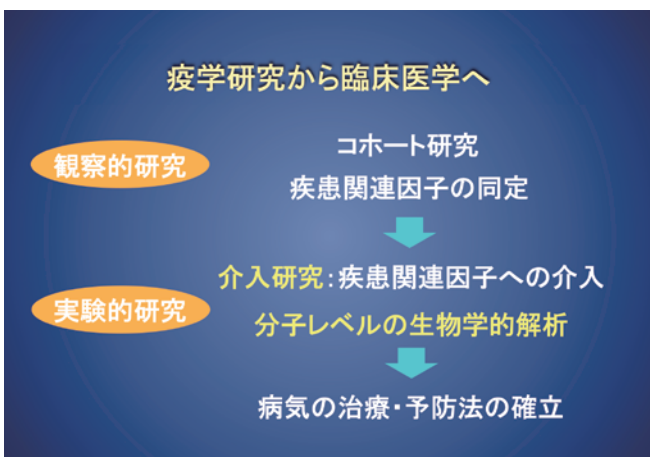


図3：疫学研究から臨床医学へ

症寄与因子の働きを実証することが重要である(図3・4)。乳児にとり母乳やミルクは、栄養源としてのみではなく、腸内細菌の形成を含めて生体機能の発達に大きな影響を及ぼす。母乳栄養は最も自然な栄養法だが、母乳栄養児にもアトピー性皮膚炎の発症をみる。この一部の母乳栄養児にアトピー性皮膚炎が発症する理由について、母乳成分の個体差から精査をすすめた。すると、アトピー性皮膚炎を発症した児が摂取した母乳の一部にはコエンザイムA

(CoA)が含まれ、CoAは「 α 」などアレルギー関連サイトカインの産生を刺激することが判明した。今後アレルギー疾患の発症と母乳やミルクとの関わりを考えるには、栄養の内容を分子レベルで解析する必要がある。また疫学研究において得られた事象について生物学のおよび生化学的研究により裏付けをすすめていくことが不可欠と言える(図3)。

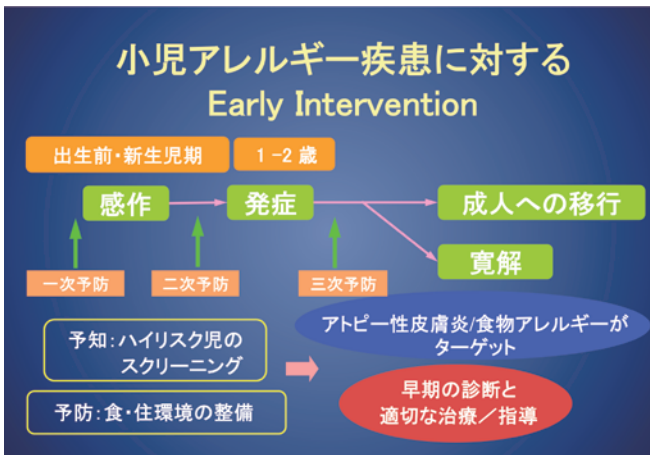


図4：小児アレルギー疾患に対する early intervention

が、コホート研究には多くの労力と長い調査期間を要し、また多大な経費を必要とする。残念なことにはわが国の疫学研究は世界的にみると遅れており、本学の学生諸君の中からわが国の疫学研究を担う研究者が現れることを期待している。

私が医学部を卒業してから研究をすすめてきた経緯等を記したが、最初に述べたように研究を進めるには、多くの人達との共同の研究体制が大きな推進力になっており、人との出会いとつながりの中で自分の研究を続けさせてもらったと実感している。

最後に、千葉大学医学部附属病院長を4年間務めさせていただいたが、その間強く感じたのは千葉大学医学部のメンバーの能力の高さとまとまりのよさだった。このような優れた人材を抱えた千葉大学医学部研究科として医学部附属病院の将来には、多くの可能性がある。若い人達にはいのはな山で過ごした時間を誇りとして、医療者として大きく育って欲しいと願っている。

Pfizer Working together for a healthier world™
より健康な世界の実現のために

様々な病気に打ち勝つため、ファイザーは世界中で新薬の研究開発に取り組んでいます。画期的な新薬の創出に加え、特許が切れた後も大切に長く使われているエスタブリッシュ医薬品を医療の現場にお届けしています。

ファイザー株式会社 www.pfizer.co.jp

東京電力福島原子力発電所 事故調査報告を提出して

高木 学校 崎 山 比早子 (昭40)



はじめに

国会東京電力福島原子力発電所事故調査委員会(国会事故調)は東日本大震災によって引き起こされた福島第一原子力発電所事故の経緯・原因を調査するため、2011年12月に国会に設置された。委員会は黒川清委員長をはじめとした10人の委員で構成され、協力調査員、事務局がこれをサポートした。多くの人の協力を得て委員会は昨年7月8日に報告書を国会に提出した。この大事故の原因調査に半年は短すぎ、積み残した課題は多いので、引き続きの調査が必要であることが述べられている。報告書は好意的に評価され、自由報道協会の「国民の知る権利部門賞」も受賞した。しかし早くも報告書は忘れさ

られているように見える。あたかも原発事故などなかったかのように、15万人以上の避難者、終わらぬ事故現場、放射能汚染から顔を背けている風潮を反映してのものだろう。人々が事故を忘れようが忘れまいが、大量の核燃料は依然として壊れた原子炉と冷却プールの中にあり、注水停止が起こればこれまで以上の規模で放射能放出が起こる危険性と背中合わせである現実には、変えようもない。現に2011年3月、菅直人元首相の要請で近藤駿介原子力委員長が作成し極秘とされた「福島第一原子力発電所の不測事態シナリオ」には1号機の水素爆発が引き金となって作業員が総退避となった場合に想定される事故の進展を予測している。その場合25kmに及ぶ範囲で避難が必要となる。このシナリオは最悪の事態ではなく、更に悪化する可能性があることは、放射能汚染により福島第一から10km離れた第二原発にある使用済み

燃料の管理が危うくなる可能性も考慮していることから想像できる。その様な事態になれば被害は地球規模に及び、多くの生物の存続が危ぶまれることになる。そのような何時終わることも知れない危険性を事故現場は抱えているのだ。

日本人は事故から何を学んだのか?

国会事故調の報告書は「事故はまだ終わっていない」「この事故は人災である」と述べている。事故が終わっていないのは上にも述べたごとく誰の目にも明らかだ。事故が人災だと断定したのは、事故前から原発の危険性を訴えてきた人々にとっては「何を今更」という感が強いかも知れない。原発の耐震強度にしろ、津波の高さにしろ、想定外などとは全く空々しく聞こえる程その危険性は長く指摘されていた。監督官庁である原子力安全保安院(保安院)、原子力安全委員会(安全委員会)もその事実は認識していたことであり、東電に改善を指示する立場にあった。なぜそれが行われなかったのか? ネットで配信された事故調公開委員会で、東電幹部、元・現保安院長、安全委員会委員長、

文部科学省、経済産業省の責任者等々に対する委員からの質問に対して言を左右にして責任回避する彼等の態度を見て背筋が寒くなる思いをされた方も多いと思う。こんないい加減な組織で、こんな人達が現に居る人々の命ばかりか未来の生命までも危険にさらす権限を握っていたのかと今更ながら恐ろしく思う。規制当局は人々の生命の安全を守るべき立場であったにも関わらず、その責任を忘れ、電気事業者の言いなりになっていた。事故の直接的原因となった耐震性バツクチエックや補強工事を全く行っていないのを知りながら見逃していた。ただし、この地震大国にある54基もの原発が、単に規制を強化すれば事故から免れるかというところ、それは考えない委員もいることは確かである。

事後安全委員会、保安院が解体され、環境省の外局組織として新たに原子力規制委員会が発足した。しかし、その5人の委員の内3人までが原子力産業と何らかのつながりを持っており、国会で承認されないままの発足であった。更に規制庁職員の大部分は元保安院職員の横滑りである。規制委員会の重大課題である大飯原発下の活断層の調査過程において規制庁と事業者との癒着が発覚し、規制側も事業者も体質は事故以前と少しも変わっていないことが判明した。また、国会事故調の調査を東電が妨害したことも明らかになったが、その言い訳もまた事故前と同様に底意用でできるものではない。これほどの事故を起こして、これまで誰も何の責任を取って居らず、原子力産業も規制側も事故から何も学んでいない。多くの国民もそれに関心を示さなくなった現実をどう考えたら良いのだろうか?

緊急被ばく医療体制について

原発事故で医師に最も関連することは緊急被ばく医療体制である。事故によって大勢の被ばく者が登場した場合、対応できる体制になっているのだろうか? 現在は、一次、二次、三次緊急被ばく医療機関が指定されている。一次で対応できない被ばく者を順次二次、三次に送るシステムである。一次医療機関に指定されている病院は全国に59病院あるがその58%が原発から20km圏内に、63%が30km圏内に位置している。すなわち事故が起これば避難区域に入ってしまう可能性が大きい。福島の事故では一般病院の入院患者を含め避難途中で60人が死亡した。被ばく重症患者は三次医療機関に送られるが、それは東日本では放医研、西日本では広島大学である。この両者の収容可能人数は10人程度で、到底大事故には対応できないであろう。また、医師に被ばく医療の教育がなされていないことも問題である。放医研で開催される医師向けの研修会に参加する医師は1年に一人いるか居ないかである。何時地震が起きても福島以上の事故が起きるかも知れない国で、現在の緊急被ばく医療体制は早急に改善されなければならない。

終わりに

ここでは紙面の関係で事故調報告の僅かしか触れることができなかつた。全文は事故調ウェブからダウンロードできまた、販売もされている。一読をお勧めしたい。



選択的DPP-4阻害剤 -糖尿病用剤-
グラクティブ錠
25mg
50mg
100mg
シタグリプチンリン酸塩水和物錠
GLACTIV®
処方せん医薬品® (注) 医師等の処方せんにより使用すること

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等、詳細は製品添付文書をご参照ください。



資料請求先
小野薬品工業株式会社
〒514-8504 大阪府中央区久太郎町1丁目8番2号

120401

なのはな同窓会各地区会長挨拶

埼玉県支部(埼玉なのはな会)の現況

埼玉県支部会長

伊藤 敏夫 (昭30)



当支部についての詳細は昨年の135周年記念誌に既に掲載させていただきました。今回は簡潔に構成と運営についての申し述べさせていただきます。

構成
会長 伊藤敏夫(昭30)
副会長 田口勝(昭34)
副会長 吉川広和(昭40)
会計 中村勉(昭52)
幹事 東部地区から5名、西部地区4名、南部12名、北部5名
監事 林田和也(昭52)
編集長 野口哲夫(昭48)
なお会長以下幹事は全員編集委員兼任。
本役員 副会長・済陽高穂(昭45)、常任理事・吉川

広和、林田和也、理事・諏訪敏一(昭43)

運営

1 定例幹事会：年1回3月。1年間の方針の提起や検討。編集会議を兼ねます。

2 定例総会：年1回8月。総会、第II部に相当する講演会、懇親会という構成です。総会は県内の4地区輪番で行われ、以前は各々の地区を持ち回っていました。

3 輪番担当地区と代表者。大宮地区：松山迪也(昭35)、浦和・川口地区：伊藤進(昭43)、熊谷地区：五月女直樹(昭49)、幸手・久喜地区：井坂茂夫(昭51)です。

4 総会：会の方針の確認や決定。報告や連絡や決裁など。ほぼ円滑です。

5 学術講演会：講師は学内に限定せず、広く学外からも招待。2名原則。最新の知識も吸収させていた

6 明していただき、極力情報

の同時化と共有化に努めています。

3 ゴルフ部：(部長 吉川広和、幹事長 林田和也)

4 今年で11回目です。

5 会長(昭27)時代に創刊。年1回6月発行、今年で14号です。誌名「埼玉なのはな」

6 ティーに富み充実している

7 と自費しています。

8 埼玉なのはな会の一

9 秋田なのはな会

秋田なのはな会の今昔

秋田なのはな会会長

戸川

清 (昭32)



このたび、地区なのはな会紹介の依頼を受けたので、長年秋田地区なのはな会の会長をされた児島三郎先生(昭23)に話を伺ったその概要を中心に紹介する。

問題点は、他支部と同じでしようか、会員の高齢化、総会出席会員の固定化と若い先生方の関心の低さです。70年以上の伝統ある埼玉なのはな会の灯を活気あるものにしたと色々思い巡らしています。

佐々木宣明先生(昭24)、真崎和夫先生(昭25専)、黒田陽三先生(昭26)、西宮芳之助先生(昭29)、飯島嘉幸先生(昭30)、最上栄蔵先生(昭34)が県立中央病院その他で、或は実地開業で就業、活躍されたが、現在は最上先生他1、2の先生以外は逝去された。

戦後初の新設国立大学医学部が昭和45年に発足したが、逐年整備で、最初に出来た基礎講座で解剖学の川村光毅助教は1年で岩手医大に教授で栄転し、寄生虫学の吉村裕之教授は3年後に母校金沢大の教授に異動された。臨床は耳鼻咽喉科だけ千葉大学から選出されたが、赴任は昭和46年であった。講座設立は昭和47年で、今野昭義先生(昭36)が助教に、私、戸川清(昭32)が教授に任命された。

ご挨拶

北陸なのはな会会長

辻 陽雄 (昭33)



昨年刊行された千葉大学医学部135周年記念誌は懐かしい昔日を偲ばせ、現在のなのはな台の見事な姿を知り、貴重な集成であり、あわせて同窓会報「なのはな」にみる皆様の活躍や会員の動静など心強く思う昨今であります。そしてここ数年なのはな同窓会は幾つかの大きな事業に着手され、士氣ますます盛んなご努力に敬意を表するものであります。

いても高齢新旧交代も如何ともし難く、現在は千葉の看護学科卒の教育スタッフ（医学部看護学科）も合わせて16名が登録されていますものの残念ながら全員一同に会するのは大変に難しい現実もあります。

不肖私が平成21年にとりあえず初代の会長を引き受けたのでありますが、本会

地域医療の改正

静岡県支部会長

佐藤

通(昭35)



山中伸弥京大教授のiPS細胞によるノーベル医学生理学賞受賞後、本人は「これからが大事な出発点であり、研究に必要な職員への費用や種々研究費が必要だ。」と結んでいました。

日本の真摯な臨床医や世界中が切望していることでしよう。しかし安倍政権の予算付けは世界に比して極めて微々たるものです。我が国の政治家の殆どは医療に関し、つまり国民の健康には如何に真剣ではないかが判ります。

の運営活動には忤ねたるもの少なからずあり、今後ともお導きをいただければ幸に存じます。2年後には北陸新幹線が開通しますの当地もより近い存在になることと期待しております。

最後になりましたが、母校千葉大学医学部およびあはな同窓会のさらなる発展を心から祈っております。

TPA問題でも、国民の医療、特に恵まれない人々には寂しいことになるでしょう。

私が日医の戦後初の医療法検討委員の時です。政治家や官僚の中から大学の診療報酬の1点を10円ではなく8円にしようという動きを察知しました。直ぐ様、目白詣でをしました。「日本の医学が世界に冠たる発展をし、日本人の寿命が伸びたのも大学の研究の賜なのです。1点8円に落とすだけでさえない大学の研究費が減少することは愚挙です。」すると田中角栄氏は理解し、即対応してくれて、今日があります。

また、これは私が地元の医師会々長時代に優生保護

法（現母性保護法）を改定し、いわゆる経済的項目を削除しようと、生長の家玉置参議員等が中心となり、元厚生大臣等の承諾をとりつけながら運動してまいりました。これは経済的な理由で育児が不可能ならば人工流産を認めるという項目を削除するので、私生児が氾濫し母体の安否にも拘わる事でした。時の稲村衆議員厚生労働委員長に相談しますと、「俺の目の黒い内は絶対国会を通さない。一応目白の言葉を貰ってきて欲しい」とのこと。田中さんに話しますと、「良家の子女が子連れで結婚式に出られますか。これは駄目だ」と吐き棄てるように言い、後日廃案となりました。これまた今日ある事由です。

先日、この稲村元代議士が、私の閉院を聞きつけて、病がちなのに熱海に来てくれました。その際この話に及び「佐藤さんは恩師中山恒明教授の教え通り、地域医療に努力し素晴らしい結果を残してきました。私もその一助を担って光栄に思っています」と。

臨床医が努力しても医療制度が低劣ですとその結果は出ません。医者が団結して医療界改正をしたいものです。

中京あはな会のあゆみ

中京あはな会会長

松井宣夫(昭38)



昭和57〜8年頃から、吉村善郎先生(昭15、千種区で眼科開業、平成元年頃逝去)を中心に、永年休止していた同窓会が納屋橋の「鳥幸」で行なわれた。その後、年1回程度行なわれた。昭和60年9月1日から松井宣夫(昭38)が名古屋市立大学医学部整形外科教授に赴任した時に、「鳥幸」で歓迎会が行われた。当時は伊藤源一先生(昭5)、伊藤先生は高齢のために専門の耳鼻科開業をやめられ、趣味の畑仕事に専念されていた。私の名古屋市長赴任間もなく、高齢のお爺さん(90歳を過ぎていた)が名古屋市大の教授室に突然来訪され、会長自ら同窓会に出席するよう案内状を持って来られた。その後、高齢の先生が多くなり、テニール席が好まれ、ヒルトン王朝で2〜3年ごとに会が開かれた。その頃、幹事は

岩間汪美先生(昭43、オリエンタル労働衛生協会、三浦利重先生(昭46、S Lグループ、消化器内科院長)で、ほぼ毎年会が続けられた。南区で内科開業中の林武夫先生(昭12、元林内科開業)もまめに出席されたが、1〜2年前に100歳近くで他界された。平成7・8年頃から、森田弘之(昭56、旧姓二石井)先生(森田シヤントアミロイドクリニク院長)が現在も幹事を継続されている。しばらくはJ R名古屋駅のセントリアの和食レストランで行われ、岡崎で婦人科開業の田那村至先生(昭25)、一宮で内科開業の米本昭彦先生(昭29)も出席されていた。最近6〜7年前からは、蛭沢克己先生(平7、名古屋大学形成外科)の勧めで、毎年6・7月に和食堂「傳」で同窓会が行われている。

教授、眼科学、赤坂で眼科医院開業)、松井宣夫(昭38、名古屋市立大学名誉教授、名古屋市総合リハビリテーションセンター理事長、日本福祉大学客員教授)、吉田行夫先生(昭44、愛知県科大学名誉教授、解剖学)、近藤克則先生(昭58、日本福祉大学福祉学部教授)その他…

有志で不定期にゴルフ、美食の会(日本一うまいフグを食べる)など親睦会も行っている。

今後の希望など…

平成23年9月現在、中京あはな会会員総数は44名。愛知県…34名、岐阜県…6名、三重県…4名からなる。東海地区(静岡・愛知・岐阜・三重県)会員総数は211名、隣接県の静岡あはな会には千葉大学の関連病院も数多く、勤務医、開業医の同門数も167名と東海地区の80%を占めており圧倒的に多く、会報も定期的に発行されている。翻ってわが中京あはな会は、理事会のある大組織静岡あはな会には到底足元にも及ばないが、少なくとも若手を含めて、更なる会員の出席と活性化が期待されることである。20

11年7月には千葉大学あはな同窓会から杉田克生教授(教育学部基礎医科学)に、あはな同窓会オンライン会報の取材のため遠路名古屋までお越しいただき、わが名古屋市総合リハビリテーションセンター、金山駅前が開業されている森田クリニクの取材後、「傳」で開催の中京あはな会にも出席いただいた。杉田教授から千葉大学医学部、あはな同窓会の近況などを伺う機会を得て、初夏の宵、久しぶりに楽しいひと時を待つことが出来た。杉田教授には遠路誠に有難うございました。

昨平成24年9月から藤田保健衛生大学医学部臓器移植科に剣待敬教授(昭58)が赴任されました。丸山道広准教授(平元)、伊藤泰平講師(千葉大院・平13)以上3名の先生方が新たに中京あはな会に加わる事を希望されており、近々歓迎会を予定しております。新進気鋭の先生方を新たにお迎えして、本会の更なる発展が期待される。

附…本文の一部は岩間汪美先生(昭43)手紙による。

各地みのはな会 だより

埼玉みのはな会

平成24年度埼玉県の同窓会総会が、平成24年8月26日「パレスホテル大宮」(埼玉県さいたま市)で開催されました。総会は、例年8月の最終日曜日に開催されており、今年も暑い日でした。総会に引き続き二題の学術講演会が開催されました。講演1は千葉大学大学院医学研究先端応用外科学教授・松原久裕先生から、「食道癌・胃癌における最新治療と今後の課題」と題してのご講演を頂きました。

講演2は、独協医科大学学長産婦人科学名誉教授・稲葉憲之先生から、「B型肝炎ウイルスは『伝搬性遅発性疾患』を惹起する―特に周産期領域における対策とその変遷―」と題してのご講演でした。

松原先生のご講演は、千葉大学外科学教室伝統の食道癌治療の変遷から最新の胸腔鏡を使用した治療法によって侵襲を最小限に抑え、入院期間を短縮でき、しかも術後成績の向上が得

られているという事でした。更には、千葉県がんセンターでの重粒子線を用いた治療を行うことで、進行癌の治療成績も向上していると言ったことでした。大学を離れて久しい会員にとっては、母校の活躍を知ることが大変に嬉しいことで感激を新たにしました。

稲葉先生のご講演は、先生の長年の研究結果から、伝搬性遅発性疾患(Transmissible Slow Developing Disease: TSD)という概念を打ち立てられ、その原因としてはウイルス、プリオン、および細菌が含まれるという。この疾患の特徴は、①キャリアの存在、②標的臓器の存在、③進行性、難治性、致死性の3条件を満たす「伝染病」であるとの事でした。現在原因別

に大別されており、婦人科領域では、母子感染や性感染によるTSDが重要であり、B型やC型肝炎やエイズなどが含まれるそうです。これらのTSDの中では、HBVやHPVの2種のみがワクチンを用いた感染予防が可能であるという事でした。自然史の研究から治療法開発までに渡る稲葉先生のご努力に敬意を払うべく

記念写真は、稲葉憲之獨協医科大学長(昭47)、松原久裕教授(昭59)を囲んで撮りました。出席者名簿より、卒業学年別に先生方の氏名(敬称略、卒年)を記します。四家正一郎(昭26)、井上幸万(昭27)、伊藤敏夫(昭30)、高橋康(昭30)、横

田俊二(昭30)、田口勝(昭34)、永田一郎(昭35)、冠木徹彦(昭40)、吉川広和(昭40)、赤井壽紀(昭43)、伊藤進(昭43)、斎藤弘司(昭43)、諏訪敏一(昭43)、済陽高穂(昭45)、大友一夫(昭46)、小川富雄(昭48)、野口哲夫(昭48)、五月女直樹(昭49)、木村道雄(昭50)、土佐寛順(昭50)、井坂茂夫(昭51)、小林彰(昭52)、中村勉(昭52)、林田和也(昭52)、上野泉(昭53)、得丸幸夫(昭53)、吉澤卓(昭53)、渡辺恒家(昭54)、植松武史(昭55)、遠藤正人(昭59)、中川宏治(昭59)、杉浦敏之(昭63)の各位でした。尚、出席した伊藤俊紀(川崎医大・平12)、野口貴志(平16)は写真には入っていません。(野口哲夫)

昭43)、総合安全管理機構から今関文夫先生(昭54)、大溪俊幸先生(平9)、潤間勸子先生(平4)、齋藤佳子先生(愛媛大・平10)、藤本浩司先生(千大院・平20)、教養学部から杉田克生先生(昭54)、フロンティアメディアイカル工学研究開発センターから下山一郎先生(昭48)、林秀樹先生(昭60)、川平洋(平4)の計10名の参加で執り行われました。齋藤学長発声のもと、まずは乾杯。10月から総合安全管理機構に赴任された大溪俊幸先生から自己紹介頂いた後、食事には舌鼓を打ちました。話題は各所属部局の現状の報告から始まり、西千葉地区の健康管理をどのように効果的に無駄なく行っていくか、学内の安全をどのように確保するか、禁煙化をどのようにすすめるか、卒業論文、修士論文の締め切り前に増える学生の精神的苦痛にどう対応するか、附属小学校、中学校の実態説明、女性スタッフが



西千葉医師の会

亥鼻地区ばかりではなく西千葉キャンパスにも同窓会が赴任していることはご存知かと思えます。そんな西千葉地区で活動する多忙な医師達が平成24年11月20日(火)、西千葉 割烹みどり

会が開催されました。参加者は齋藤康学長(新潟大・



後列：大溪俊幸(平9)、潤間勸子(平4)、川平洋(平4)、齋藤佳子(愛媛大・平10)、藤本浩司(千大院・平20) (川平洋)

信州の は な 会 平成24年度総会

平成24年6月23日(土)
長野市のホテルナガノアベニューで3年に一度の信州の は な 会 総 会 を 6 名 の 来 賓、横手幸太郎千葉大学教授(昭63)、伊藤晴夫の は な 同 窓 会 会 長 (昭39)、三枝一雄千葉県の は な 会 会 長 (昭32)、坂田早苗栃木県の は な 会 会 長 (昭34)、鈴木守群馬の は な 会 会 長 (昭39)、吉原俊雄東京の は な 会 勤 務 医 部 会 長 (昭53) を お 迎 え し、一 般 会 員 17 名 の 参 加 を も っ て 開 催 し ま し た。熊谷信夫信州の は な 会 会 長 (昭28) の 開 会 の 辞 に 始 ま り、近 況 報 告、会 計 報 告 と 続 き ま し た。の は な 同 窓 会 会 長 伊 藤 晴 夫 先 生 か ら は ご 祝 辞 と 同 窓 会 報 告 「の は な 同 窓 会 の 課 題 と 新 し い 取 り 組 み」に つ い て の お 話 を い た だ き ま し た。記 念 講 演 で は 千 葉 大 学 大 学 院 医 学 研 究 院 細 胞 治 療 内 科 学 教 授 横 手 幸 太 郎 先 生 よ り 「肥満症をとりまく最近の話」と題し肥満症についてわかりやすく講演をいただきました。同窓会の現状や最新の学問に触れ、大変有意義なひと時を過ごすことができました。総会の最後に永年に渡り信州の は

な会を支えてこられた熊谷会長より退任の意向が表明され、後任には内藤威総務会計(昭47)が推薦され満場一致で承認されました。引き続き開催された懇親会では、各出席者の自己紹介、近況報告を行い盛況のうち散会となりました。伊藤、横手両先生には山峡の山田温泉にお泊りいただき翌日帰途につかれました。今回は千葉大学の は な 同 窓 会 編 集 委 員 高 木 賢 司 氏

により信州の は な 会 総 会 と 懇 親 会 の 模 様 が 撮 影 さ れ 同 窓 会 の ホ ー ム ペ ー ジ で 閲 覧 す る こ と が で き ま す。有 益 な 講 演 と 愉 快 な 懇 親 会 の 様 子 を お 楽 し み く だ さ い。最 後 に、今 回 も 千 葉 大 学 の は な 同 窓 会 本 部 よ り 地 域 の 活 性 化 支 援 費 が 交 付 さ れ ま し た。こ の 場 を お か り し 心 よ り 御 礼 申 し 上 げ ま す。写 真 右 か ら
前 列：重 松 秀 一 (昭39)、鈴 木 守 (昭39)、原 恒 男 (昭



27)、熊谷信夫(昭28)、伊藤晴夫(昭39)、横手幸太郎(昭63)、三枝一雄(昭32)、吉原俊雄(昭53)、吉川武彦(昭36)
後 列：春 日 建 邦 (昭34)、野 口 徹 男 (昭34)、小 林 敏 生 (昭53)、宮 坂 齊 (昭42)、松 林 巖 (昭54)、清 水 俊 行 (昭56)、栗 林 士 郎 (昭39)、内 藤 威 (昭48)、栗 田 純 夫 (昭59)、秋 谷 徹 (昭50)、原 田 順 和 (昭53)、熊 谷 信 平 (山 形 大・平3) (清水俊行)

習志野の は な 会

啓蟄を過ぎて春風がおおる夕べ、習志野の は な 会 を 三 橋 稔 院 長 の 好 意 で 習 志 野 第 一 病 院 保 育 施 設 の コ ー ル ポ ニ ョ ポ ニ ョ に 開 催 し ま し た。総 会 で は 長 き に わ た っ て 会 を 主 導 し て き ま し た 栗 原 伸 夫 (昭38) が 会 長 を 辞 任 さ れ、神 崎 頼 仁 (昭46) が 第 4 代 会 長 に 選 任 さ れ ま し た。ま た、こ れ ま で 千 葉 大 学 出 身 者 に 限 定 し て き た 会 員 が よ り 地 域 で の 交 流 を ひ ろ げ る た め、千 葉 大 学 お よ び そ の 関 連 施 設 で 研 修 を 受 け た 医 師 に 拡 大 す る 旨 承 認 さ れ ま し た。
引 き 続 い て 特 別 講 演 で は 鈴 木 信 夫 名 譽 教 授 (昭47) が 「大 学 の 近 況、味 噌 と 遺

伝子」の演題でご講演をいただきました。キャンパス内の整備事業では新同窓会館が間もなく完成し、の は な 同 窓 会、猪 之 鼻 奨 学 会 の ほ か 学 生 が 合 宿 で き る 施 設 の 充 実 も 行 わ れ る、ま た 新 研 究 棟 の 建 築 に あ た り こ れ ま で 聖 地 と さ れ て い た 野 球 部 グ ラ ン ド が 縮 小 さ れ る 構 想 が あ る と の こ と に、驚 き と も に 隔 世 の 感 を 得 ま し た。ま た、味 噌 汁 を 飲 む こ と に よ り 発 がん を 促 進 す る 遺 伝 子 発 現 が 抑 制 さ れ る 知 見 を 得 た と の こ と に、皆 明 日 か ら の 3 度 の 味 噌 汁 を す す る と の 声 が 上 が り ま し た。
引 き 続 い て 懇 親 会 に う つ り ま し た。神 崎 頼 仁 は 大 和 の 国 を 旅 し て 古 の 人 と の 触 れ 合 い の 中 で、心 の 安 ら ぎ を 得 て い る。菅 野 勇 (昭47) は 臨 床 病 理 医 と し て 乳 腺 治 療 と 病 理 学 を 極 め る 中 で、ゴ ル フ に 精 進 し や が て 成 し 遂 げ る エ ー ジ シ ュ ー タ ー へ の 夢 を 馳 せ た。山 森 秀 夫 (昭47) は 済 生 会 習 志 野 病 院 院 長 と し て 年 間 3 7 0 0 台 の 救 急 車 を 受 け 入 れ て い る が、今 後 5 0 0 0 台 を 目 指 し て 行 動、個 人 的 に は 65 才 を 迎 え て、救 急 当 番 医 を 退 く。増 田 善 昭 (昭35) は 大 学 を 退 官 し て 長 ら く 地 域 医 療 に 密 着 し て 習 志 野 第 一 病 院 で



の 医 師 と し て の 生 活 を 送 っ て い る。市 川 崇 (昭55) は 内 科 医 院 を 開 業 し て そ れ ほ ど 多 忙 で は な い こ と を む し る ポ ジ テ ィ ブ に 考 え、昼 休 み の 2・5 時 間 を ラ ム サ ー ル 条 約 認 定 の 谷 津 干 渴 を 毎 日 散 策 し て 心 穏 や か に 生 活 し て い る。堀 部 和 夫 (昭52) は 医 師 会 で の 様 な 委 員 の 引 き 受 け が ス ム ー ス に い か ず、特 に 高 齢 化 し て 需 要 の 増 す 介 護 認 定 員 の 人 選 で 苦 労、地 域 医 療 と 医 師 会 の 関 係 に つ い て 話 す。
皆 若 かり し 頃 に 思 い を 忍 ば せ、ま た こ れ か ら 行 く 末 を 論 じ て あ っ と い う 間 に 時

間 が 過 ぎ て 現 実 に 戻 っ た 10 時 前 に 散 会 と な っ た。
写 真 右 か ら
前 列：大 木 健 資 (昭40)、増 田 善 昭 (昭35)、栗 原 伸 夫 (昭38)、鈴 木 信 夫 名 譽 教 授 (昭47)、神 崎 頼 仁 (昭46)、三 橋 稔 (昭35)、村 山 憲 太 (昭38)
後 列：山 本 和 夫 (昭51)、八 木 一 夫 (昭62)、鎌 田 尊 人 (信 州 大・平9)、萩 原 雅 司 (昭61)、中 村 伸 一 郎 (昭63)、鈴 木 晴 彦 (昭48)、市 川 崇 (昭55)、林 崎 勝 武 (昭44)、堀 部 和 夫 (昭52)、山 森 秀 夫 (昭47)、菅 野 勇 (昭47) (堀 部 和 夫)

松戸のものはな会

平成24年度松戸のものはな会(平成25年3月2日(土)開催、於聖徳大学10号館12Fセネ)は千葉大学医学部医学研究センター・腎臓内科学教授の横須賀收先生をお招きし、「最近の肝疾患診療の動向」と題するご講演を頂きました。

C型肝炎・B型肝炎・NAHLを中心に分かり易く解説して頂きました。遺伝子レベルでの詳細診断・治療薬剤の選択・予後の予測などが可能になって来たことを知り、かなりの出席者が驚きを隠せない表情で聴き入っていました。また、肝臓を専門としている会員も最新の知見を得ることができたこととです。横須賀教授も懇親会で旧第一内科同門の会員と旧交を温められていた様子です。

松戸のものはな会を長年支えてくださった元松戸市立病院院長篠原寛先生(群馬大・昭35)が平成24年12月9日に急逝されました。黙祷に続き、藤塚光慶先生から篠原先生のお人柄がしのばれるお話があり、飯田哲先生から篠原先生のライフワークである先天性股関節脱臼検診についての紹介



がありました。

平成12年度に創刊した「松戸のものはな会報」を本年度より出版社に依頼して冊子化しました。記念すべき初年度の第13号には、平成23年度にご講演頂いた千葉大学大学院副医学研究院長の野田公俊教授(病原細菌制御学)にご執筆をお願い

しました。同窓会報「のものはな」の本号に、松戸のものはな会報を紹介して頂きましたことは松戸のものはな会にとり大変光栄なことであり、感謝申し上げます。なお藤塚正彦先生は昨年度に引き続き、市川浦安のものはな会(幹事)からのご

出席です。近隣のものはな会との交流も継続できればと思っております。

写真右から

- 前列：北野邦孝(昭46)、小林伸行(昭41)、渡辺寛(昭41)、江原正明(昭49)、横須賀收教授、塩川喜之(昭34)、小野和則(昭51)、武井孝達(昭41)、藤塚光慶(昭43)
- 後列：渋谷潔(昭61)、飯田哲(昭62)、岡部真一郎(平2)、篠塚正彦(昭51)、長門義宣(昭58)、石島秀紀(昭60)、田代淳(昭60)、小野元子(昭51)、堂垂伸治(昭60)、安達哲史(平22)、青木俊郎(昭63)、山口卓秀(昭57)
- 撮影時不在：武田直己(平2)
- (小野和則)

栃木県のものはな会

平成25年度栃木県のものはな会は、1月27日(日)に宇都宮市大通りホテル・ニユーイタヤにて全国のものはな会、伊藤晴夫会長、群馬のものはな会・鈴木守会長、東京のものはな会・濱陽高穂会長、埼玉のものはな会・斎藤弘司代表をお迎えして開催されました。

長による千葉大学と懸案の「新のものはな同窓会館」の近況に関する御報告の後、救急集中治療医学・織田成人教授による「敗血症診療の最近のトピックス」と題する特別講演が行われました。



記念撮影の後に早乙女勇・広田勝太郎両会員の司会による懇親会となりTPPなどの論議と会員同志の近況報告の後、和気蕩々の内、PM6:00に来年度での再開を誓い閉会を致しま

した。

写真右から

- 前列：福田武隼(昭42)、種市洋(昭61)、大井利夫(昭35)、坂田早苗(昭34)、柴崎晃(昭28)、伊藤晴夫(昭39)、織田成人(昭53)、三枝一雄(昭32)、鈴木守(昭39)、濱陽高穂(昭45)、斎藤弘司(昭43)、二列目：大宮安紀彦(昭53)、布川武男(昭32)、門馬公経(昭42)、本田陸人(昭42)、星野聰(昭43)、糸井久雄(昭26)、村野俊一(昭50)、廣田勝太郎(昭55)、小池正造(昭53)
- 後列：杉田敏夫(昭50)、早乙女勇(昭48)、倉沢和宏(昭58)、崎尾秀彰(昭44)、十川康弘(昭55)、戸邊豊総(平元)、高原正信(昭57)、貝淵後光(平5)、岩本容武(平5)、山崎一馬(昭51)
- (大宮安紀彦)

お知らせ

のものはな同窓会事務局では、卒業年次別クラス名簿リスト、地域別会員リストおよび郵送用住所ラベルをご希望により作成いたします。詳細は同窓会事務局にお問い合わせください。

ク ラ ス 会

38年卒クラス会

11月3日(祝)、私たち38年卒のクラス会が帝国ホテル3階雅の間で開かれた。少し早いですが後50周年記念クラス会にしようということとが昨年決まっていた。10時半から受付を始めたところ、結構早めに出てくるのが多く、11時にはあちこちで談笑するグループが見られた。祝宴は12時からだったが、会を始める前に記念写真をとるということで、11時半に写真室へ移動。しかし、和歌山からくる玉置哲也君は、関空から搭乗予定の便が飛ばず、伊丹まで急行し羽田へ飛んできたが、残念ながら写真撮影には間に合わなかった。大木勲君は今日だけで四つ会があるとかで、写真撮影だけで次の会に出るために退場。会は、幹事の香西襄君の挨拶で始まり、まず、昨年のクラス会以後亡くなられた三井静、丹羽章、三好武美の三君に黙祷を捧げた。乾杯は最年長沖田正彦君だが相変わらず若々しい。ついで、来賓として出席を快諾して頂いた解剖学の永野俊雄名誉教授にお祝辞を賜った。また、この春に瑞宝小綬章を受章した長山忠雄君の叙勲が披露された。

つづいて、なのはな同窓会から銘々の名入りの感謝状と記念メダルが贈呈された。これは、「学生・卒業生サポートプロジェクト」の一環として卒業半世紀を経た卒業生に贈られるもので、五十年の長きにわたる医学・医療への貢献と同窓会に対する支援への感謝の意を表すものだそうです。

このあと、食事とアルコールが入り、再会した友との話に花が咲いた。浅野尚君が二曲歌を披露、クラスメイトの隠し技に感激。また、二年前から企画され完成した「卒業50年記念文集 夢幻の如く」が各人に配られ編纂を担当した木下昌君から作成の苦労話が披露された。わがクラスでは夫婦同伴が推奨されているが、このたびは、加藤、黄田、関谷、若新の四組が出席。さらに、亡くなられた野本、原、三井の三君の夫人も参加。話も尽きなかったが、あつという間に4時間過ぎ再会を約して散会した。移動せずに同じ場所です6時間近く過ごせたのは大成功だった。このたびの幹事は、香西、尾崎、木下、

加藤、栗原、沖田、三木だった。

写真右から
前列：関谷夫人、(故)三井静夫人、蘭部和子、木下(石田)敏子、香西襄、永野俊雄名誉教授、若新政史、北村温、加藤友衛夫人、(故)原紀道夫人
二列目：新堀茂、大木勲、橋二郎、黄田(黄)江庭、寺島市郎、宮下久夫、木下昌、谷修一、佐藤裕俊(博)、



沖田正彦、(故)野本高志夫人
三列目：浅野尚、大津裕司、藤本重義、栗原伸夫、長山忠雄、嶺井進、熊田正義、加藤友衛、三木亮、渡部浩二
最後列：若新政史夫人、黄田(黄)江庭夫人、野本泰正、高野正義、守矢和人、鳥羽剛、関谷信平、十河正寛、尾崎賢太郎
(加藤友衛)

42—48クラス会 (昭48)

暖かな日差しに恵まれた平成25年2月3日(日)に、市内のレストラン「ほてい家」を会場に42—48クラス会が開催された。昭和42年に入学して48年に卒業したクラスであるが、在学中に学生ストライキなどがあつた学年のために、同年の入学であっても卒業が遅れたり、上の学年から降りたりしたものも加わっているために結構大所帯となった。かく言う報告者も遅れたうちの一人である。

今年は多くのメンバーが定年ないしはその近傍にさしかかっていることもあつてか参加人数は45名にのぼり、さらに恩師の橋正道先生、永野俊雄先生のご臨席を戴いたので総勢47名となった。

まず午前10時に有志17名が病院地下一階玄関に集合して、平成24年2月に運用が始まった千葉大学大学院医学研究院附属クリニカル・スキルズ・センター(CSC)を見学した。日曜日であるにも関わらず、田辺教授がわざわざおいで下さって救急蘇生や分娩の模擬患者のデバイスをひとつひとつ丁寧に解説下さり

大変有り難かった。CSCは三部門からなり、シミュレーション・ラボ、模擬患者(SP)が参加して教育・研修を行うパフォーマンス・ラボ、献体による研究を行うアナトミー・ラボ、そして動物を使用して教育・研修を行うアニマル・ラボで構成されている。

このクリニカル・スキルズ・センターは、文部科学省特別経費「高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実」に選定された「医療安全教育のためのクリニカル・スキルズ・センター」の設置と運営「医療安全を實踐できる医療者の育成を目指して」のプロジェクトで設立されたものという。医師のみならず、全ての医療職者を対象に、系統だったシミュレーションによる教育を実施することで、医療の安全性と患者満足度を高め、患者中心の医療を実現することを目的としている。母校にこのような医療職教育の最先端の施設ができたよとは、40年前の医学生はただただ驚くばかりであった。

続いて新しく作られた東病棟を、先の病院長である河野陽一小児科教授により

ご案内戴いた。特別室から小児科病棟を見学、さらに医学部本館に移動し、学生時代には無かった看護学部

の建物を見学して、一行はそぞろあるきながら本日の会場である「ほてい家」へと向かったのであった。

「ほてい家」では予想よりも早くほとんど全員が到着したので、予定通り13時に開宴となった。開会時の進行は秋葉、途中から千葉が務めた。

ご挨拶に立たれた永野俊雄名誉教授はご自身の受験の体験や学生時代、さらに解剖学を生涯の研究領域とされた経緯を述べられた。続いて橋正道名誉教授が千葉大学医学部百年記念誌からわれわれが在学当時の学内の事件、ことに学生ストライキや一部学生による施設の封鎖事件についてメモ書きを片手に挨拶にまじえて述べられ、最後に高らかに「乾杯」を宣せられた。恩師のご挨拶を拝聴しながらも、当時のそれらの「事件」にいささかの繋がりを持つ身としては慚愧の念にたえなかつたことを告白する。

乾杯からややあつて、河野陽一小児科教授から、「大野病院の現状と将来構想」と題して講演を頂戴した。

雄大な本学の将来構想をうかがい、卒業生の一人として母校の末長い発展を願わずにはおられなかった。

その後希望者が思い思いの近況報告をおこなったが、やはり65歳前後の年齢にさしかかったこともあってか、これまでの仕事に区切りをつけて、新たな考え方で残りの人生を過ごすといった内容が多かったように思う。考えてみれば前期高齢者の一人になるのであるから、無理もないことである。主観的にはともかく、いつまでも青年でいることはできない。

今回の幹事を坂庭操先生に引き受けていただいて、今回の幹事(千葉次郎、千見寺ひろみ、秋葉哲生)は肩の荷を下ろすことができた。

今回の42-48クラス会が盛会に終始したことは、お二方の恩師を初めご参加の皆様方に心から感謝したい。さほど遠くはない時期の再会を約して、名残惜しいが16時にお開きとさせていただいた。

写真右から

前列：岩田泰子、横山淳一、内田宏子、山本義一、徳久剛史、恩師 永野俊雄先生、恩師 橘正道先生、大内美南、伊藤よしみ、坂庭操、

河野陽一、永野耕士
二列目：野口哲夫、川口英昭、木内信二、南昌平、赤松徹、金井英夫、遠藤信夫、小川富雄、秋葉哲生、後藤澄雄、小川清、広瀬彰、千葉次郎、
三列目：千見寺ひろみ、木村秀樹、小林道生、中村孝

雄、高圓博文、羽鳥文磨
最後列：安野憲一、菊地紀夫、上野正純、須崎勢至、森山紀之、旭俊臣、安東昌夫、鈴木晴彦、長谷部正晴、竹中正治、吉田秀夫、白井厚治、大槻俊夫、吉田明夫
(秋葉哲生)



外来診療棟を新築しています

患者さんに快適な受診環境をご提供するために

当院では現在、外来診療棟の南側に、新しい外来診療棟(地上5階、地下1階建)を平成26年5月末の完成予定で建築中です。より高度な医療と、快適な受診環境を患者さんにご提供するために、平成16年から進めている再開発計画の一環として行うものです。工事期間中は、ご来院の皆様にご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

＜新しい外来診療棟＞

ゆとりのある空間

- 現在の外来診療棟の約2倍の広さ
- 外来診察室の増加(154室→193室)
- 災害時に利用できるスペースを確保

がん診療の充実

- 在宅中心のがん診療の一環として、外来におけるがん化学療法をより推進するため外来化学療法室を増設(26床→40床)。

高齢者が受診しやすく

- 高齢者医療センターを新設。長寿社会のニーズに対応し、臓器別(診療科別)によらない総合的な高齢者診療を実践。

外観予想図



内装イメージ図



＜再開発計画＞

平成16年～平成23年
現在～平成26年5月末
完成後～平成27年3月
平成27年3月以降

病棟(ひがし棟・みなみ棟・にし棟)を整備
新しい外来診療棟を建築
現在の外来診療棟を改修
3.5次救急医療に対応した「高度救命救急センター」、
脳卒中患者の急増に対応した「包括的脳卒中センター」の新設など

研修プログラム

千葉大学先端応用外科の研修と将来

千葉大学大学院医学研究院
先端応用外科学
教授 松原久裕 (昭59)

最近の医療に関する話題の中心は地域医療の崩壊です。中でも外科医は減少しており、世界でも最高水準を誇る日本の外科医療が維持できなくなる心配が生じています。そのためにも若手外科医の育成は至上命題であります。当科は日本でも屈指の外科教室として知られており、他大学も含めこれまで数多くの教授を輩出しています。一方でアカデミアで活躍する外科医のみならず、地域で開業できる外科医育成にも力を入れてきました。現在の臨床研修システムが始まる前から入局後のしつかりとした研修システムが構築されてきました。入局したばかりの新人を指導教官とよばれる今で言えばシニアレジデントのトップが手取り足取り外科の初歩を教育し、一番重要な患者さんをよく診ること事から始まり各学年に応じたことまでの手術技術の術者を担当するというよ

うなことがしつかり決められ順序立ててステップアップし、誰でも一人前の外科医にするというモットーで教育が行われてきました。このシステムは臨床研修必修化により多少変更をしていますが基本的な考え方が変わっていないわけではありませぬ。外科専門医、消化器外科専門医取得、医学博士取得に向け、研修が進められるよう施設の特徴を活かした複数の関連施設への出張ならびに研究についてきちんとプログラムされています。さらに重要なことはこのようなシステムによって育てられたことに医局を構成しうるメンバーが非常に感謝しており、そのことがまた忙しい仕事のなかで時間と労力のかかる若手の指導に情熱を傾ける原動力となっています。他方、前述したようにアカデミアで活躍する外科医を育成するのも当科の重要なテーマです。常に新しいことを全

国、世界へと発信していくために研究にも大きな力を注いでいます。臨床研究、基礎研究、両者をつなぐトランスレーショナルリサーチと情熱を傾け、医学医療の進歩に役立つよう努力しています。科学的なものの考え方は非常に重要であり、それを自分のものとするところが日常の臨床においても適切な診断治療を進めてい

脳神経外科

千葉大学大学院医学研究院
脳神経外科学
教授 佐伯直勝 (昭50)

くために有益です。日本をリードする外科医、地域医療に貢献する外科医と優秀な外科医育成を行うよう努力しています。希望と情熱をもった若手医師を求めています。外科に少しでも興味があれば、遠慮せず問い合わせ、見学に来て下さい。やりがいのある外科を力を合わせて楽しく発展させていきたいと思ひます。

脳は人間の個性、その人らしさを生み出す重要な臓器です。生まれてから、誰と出会い、何をしてきたか、その全てが脳の中にインプットされ世界で唯一無二の脳を作り上げています。この脳を含めた中枢神経系の機能を直接脅かす疾患を対象とし、各個人の生活と尊厳を守るのが脳外科医の仕事です。また、脳神経外科は厚生労働省の掲げる基本診療科の一つであり、その守備範囲は単に手術に止まりません。中枢神経系に発生する疾患の予防医学、種々の診断技術、救急医療、血管内治療、薬物療法、放

射線治療からリハビリテーションまで多岐にわたっています。脳神経外科専門医に求められることは、脳を守るためにこれらを統合していく臨床力です。脳神経外科の専門医は、初期研修2年間の後、4年間の専門研修を終了して、卒後7年目に獲得します。この間の研修で私たちが重視している点が3つあります。一つ目は、全身を診れる医師になること。救急の現場においても脳が診れることは重要ですが、当然それだけでは足りません。全身に目を配り、必要な時に各臓器の専門家と連携でき

なければいけません。さらに、患者の社会的・精神的背景まで洞察する姿勢は、脳を脅かす疾患を根本から理解し、適切な診断・治療にたどりつくための重要な武器ともなります。二つ目は、常に臨床の場から問題点を見出し、生涯学習に結び付けること。今標準とされている医療が最終到達点ではありません。将来の患者により良い医療を提供することも医師の責務の一つであり、大学院や留学に関しては本人の興味・希望が最優先です。三つ目が若手医師にできるだけ多くの手術経験を積ませること。専門医獲得に必要な最低限の手術経験はもちろんのこと、4年目までに開頭術を習得し、5年目以降はクリッピング術や脳腫瘍摘出術でも積極的に執刀の機会を与えるようにしています。手術を任せられることが医師としての責任感を育て、向上心にもつながっていきます。これらの研修目標を可能にするために、千葉県内に多数存在する関連基幹病院と連携し、共同で研修を進めています。

今、脳科学は大きな発展期を迎えています。脳の機能を支えている神経幹細胞が、脳血管障害や頭部外傷

によって失われた機能の再生や認知症の治療、さらに脳腫瘍の治療にも応用される時代は近いと思われまます。脳の特定位を電気刺激することで機能を改善させる治療が実現し、電気生理学的モニタリングの応用でより高度な手術が可能になってきました。また、神経内視鏡や血管内治療などの進歩によって、より低侵襲

聖隷浜松病院

院長・千葉大学医学部臨床教授
鳥居裕一 (新潟大・昭48)

聖隷浜松病院は静岡県西部・旧浜松地域のほぼ中心にあり、社会福祉法人聖隷福祉事業団が運営する74床の病院です。浜松市は人口約80万人の政令指定都市ですが、全国で2番目に広い市域を持っています。北部は広大な山間部で長野県に接し、東は天竜川、西は浜名湖、南は遠州灘で太平洋に望んでいます。当院は1962年に、心臓外科・脳外科など高度急性期医療を担う病院として144床からスタートしました。市内には同一事業団が運営する聖隷三方原病院と、委託運営する浜松市リハビリテーション病院があります。

また千葉県佐倉市でも聖隷佐倉市民病院を運営しています。当院は早くから新生児医療に取り組み、総合周産期母子医療センターの指定を受けています。またDPCI群に分類され、地域がん診療連携拠点病院、救急救命センター、地域医療支援病院などにも指定されています。昨年11月には、日本の病院で5番目となる「Joint Commission International」の認証を受けました。現在、当院に勤務する常勤医師は初期研修医を含めて238名です。現在所属医師の出身大学は、全国医学系80大学のうち67大学にのぼり、学閥

がないのが特色です(千葉大学は6名で6番目に多い)。

当院への千葉大学から派遣または出身の医師は、総長(日本病院会会長)・堺常雄(昭45・脳外科)・呼吸器内科部長・中村秀範(山形大・昭57・呼吸器内科)・呼吸器内科主任医長・富田和宏(平4・呼吸器内科)・呼吸器内科・阿部真弓(浜松医大・平21)・穴澤梨江(平22・呼吸器内科)・鈴木優毅(岐阜大・平22、呼吸器内科)です。また初期臨床研修医としては2年目に伊藤みゆき(平23)と前田杏梨子(平24)の計3名が在籍しています。

当院では初期臨床研修医を毎年12名採用しています。毎年ほぼ50名程度の応募があり、これまで全てフルマツチしています。千葉大学出身の研修医の皆さんは全員優秀で大変評判が高く、当院は多くの方に来たいと思っています。カリキュラムでは救急科や総合診療内科を中心とした屋根瓦方



式を行なっていますが、従来どおりの7科目必修を維持し自由選択科目が3ヶ月と短いのが特徴です。体制としては、研修センター内に看護師が専従で配置され、研修医の健康面のチェックや研修医が診療した患者さんのアフターケアを行なっています。初期臨床研修制度発足時、厚労省の小委員会委員長を堺総長が担当していましたので、他施設の模範となるような体制作りがされたと思います。研修医24名全員は、病院すぐ近くの1棟借り上げアパートに住んでいます。病院の建物を改築中で、研修医室も新しくなる予定です。

横浜労災病院 初期臨床研修医制度の紹介

次世代の医療人育成の為に

院長・千葉大学医学部臨床教授

西川 哲 男 (昭47)

横浜労災病院は横浜市東部医療圏の地域中核施設として、平成3年に労災病院群の中でも最も新しく設立された病院です。病床数650床で、37診療科を有しております。横浜市港北区の新横浜駅から徒歩8分ほどの便利な場所に位置していますが、鶴見川や緑豊かな環境に囲まれた静かな環境にあります。近くには横浜国際総合競技場(日産スタジアム)もあり、当院の近くを歩いたことがある同窓会員も少なくないのではないのでしょうか。

当院の設立の趣旨として、労災病院群の中でリーディングホスピタルとして全国規模で勤労者医療を実践し、そして地域の中核施設として市民の健康をしっかりと守ることを基本理念としています。既に開院から20年以上を経て、その名に恥じない医療体制を整備してきました。その結果、市内・県内でも有数の病院として発展してきたと自負しております。現在臨床研修病院、災害医療拠点病院、地域医

療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、救命救急センターなどの指定も受け、急性期病院として横浜市北部地域を中心に診療を行っております。当院の千葉大学からの医師は、副院長(外科)・尾崎正彦(昭52)、副院長(泌尿器科、2013年4月より鹿島労災病院院長)・山口邦雄(昭53)、消化器病センター長・有我隆光(昭55)、外科部長・大島郁也(昭57)、内分泌・糖尿病センター長・大村昌夫(昭58)、救急科部長・木下弘壽(昭59)、血液内科部長・平澤晃(昭60)、リウマチ科・膠原病内科部長・北靖彦(昭62)、内分泌内科・代謝内科部長・齋藤淳(愛媛大・昭62)、泌尿器科部長・永田真樹(平3)、外科副部長・吉村清司(昭63)、外科副部長・篠藤浩一(平4)、膠原病内科副部長・藤原道雄(宮崎医大・平10)、血液内科副部長・阿部大二郎(山口大・平11)、糖尿病内科副部長・松澤陽子(平12)をはじめ、総医師数248名中32名が在籍しています。

(平成25年2月末現在)。

初期臨床研修は、開院時より既に2年間のスパーローテート方式の研修を実施してきました。その実績もあり、平成16年度の新研修制度開始時には、1学年定員15名での研修受け入れを開始しました。初年度から多くの学生(採用試験には毎年100名以上が受験)が当院での研修を希望してくれて、現在までフルマツチできています。

当院の研修プログラムの特徴は、common diseaseから先端医療まで多くの疾患を経験できること、北米型BLS方式の救命救急センターで様々な急患を、指導医の指導下で数多く経験できること、ローテートスケジュールをかなりフレキシブルに選択できること、にあるのではないかと考えています。指導医の数も多く、60名を超える厚生労働省認定の指導医資格を持った医師が、丁寧に指導しております。ただし、受け身の研修ではなく、自分から積極的に研修するように常日頃から指示しております。上級医出席のもと研修医のカンファレンスでは、自分たちでテーマを決めて、自分たちで行い、議論してもらって

います。やはり、単なる指導医による講義では身に付くものも限られますし、仲間にも教えることで理解が深まるといえます。CPCも病理診断医の指導のもと、研修医を中心として症例のまとめと、病理像のスライド化、文献考察まで任せています。2年間の研修のうちに、学会にも積極的に参加して、症例報告や、論文作成してほしいと考えております。その為に、学会の参加にあたっては、交通費等の補助を行っております。一学年15名ではありますが、千葉大学からは常に1〜3名の研修医が在籍しております。全国の大学出身者が集まり、千葉大学、横浜市立大学、東京大学からの、たすきがけ、研修医も在籍しており、多人数の研修になりますが、皆仲良く、そして切磋琢磨しながら、実ある研修生活を送っております。単に横浜市の中核施設にとどまらずに、関東、全国、そして世界に発信できる病院でありたいと願いつつ教育体制を強化しております。今後も、千葉大学から多くの研修医が当院に来ていただければ幸いです。



研修医が在籍しております。全国の大学出身者が集まり、千葉大学、横浜市立大学、東京大学からの、たすきがけ、研修医も在籍しており、多人数の研修になりますが、皆仲良く、そして切磋琢磨しながら、実ある研修生活を送っております。単に横浜市の中核施設にとどまらずに、関東、全国、そして世界に発信できる病院でありたいと願いつつ教育体制を強化しております。今後も、千葉大学から多くの研修医が当院に来ていただければ幸いです。

研修医だより

大病院での後期研修を終えて

千葉大学泌尿器科 後期研修医

新井 隆之(平22)



私は2年間の大病院での初期研修を経て、平成24年度に、母校である千葉大学の泌尿器科に入局いたしました。泌尿器科は私にとって、もともと興味のある分野ではありませんでしたが、初期研修で泌尿器科をローテーションした際に、扱う疾患の幅広さや多岐にわたる手技の多さといったものを教えていただき、非常に魅力的な科であると実感しました。また、ちょうどロボット手術が導入されつつある時期でもあり、研修病院で少しはありますが、それに触れることができたことも泌尿器科入局の後押しとなりました。

さて、今年度は後期研修医として1年間、大病院で研鑽を積ませていただきました。今回はその1年間

を振り返ってみようと思います。

大病院での研修が始まるに当たって、この1年間は雑用ばかりでなかなか手技を学ぶ機会も少ないものと覚悟しておりました。しかし、いざ働き始めてみると、最低学年としての雑務はもちろんありましたが、それ以上に泌尿器科医として充実した日々を送ることができました。その1つの要因として、大病院ならではのバックアップ体制の厚さが挙げられると思います。医師3年目になり、外勤や泌尿器科当直も始まり、1人での判断に迷う局面に何度も出くわしましたが、そういった際も上級医の先生方ほどな時間でも相談に乗ってください、時には病院に駆けつけてくださいました。また、仕事面だけではなく、仕事後は頻りに飲み会を重ね、非常に楽しい思い出がたくさんできました。(詳細は割愛させていただきますが、私たちの少

し行き過ぎた言動に対しても寛容な態度で接していただきました。)

そして何より、この1年間で、予想以上に手術を含めた手技の経験を積めたことには驚きました。当然最初は経験がなく、不安な気持ちで強い状態でしたが、上級医の先生方は手技のイロハを熱心に教えてくださり、また、「何が起きても戻拭いはしてやる」という熱い気概は非常に心強く感じました。そのような環境で研修できたことは、今後泌尿器科医として働いていくうえで少なからず自信をつけることができたのではないかと思います。

また、大病院にも先に述べたロボット手術が昨年度より導入され、最先端の医療として順調に稼働されてきております。大学では、外からも専用のモニターを使用することで手術の3D映像を見ることができ、私たちが若手にとっては、開腹手術では見ることのできない解剖学的構造や手術の手順を学ぶ絶好の機会



でした。学生が実習で回ってきた際には、それを全面に押し出して説明しておりますが、少なからず興味を持ってくれる学生がいるように感じます。しかしながら現状、泌尿器科医は千葉県において不足しており、今後、そういった小さな興味初期研修での泌尿器科選択につながり、さらには私たちの同志になってくれることを切に願います。

最後になりますが、私たちの大学での後期研修を支えてくださいました諸先生方、コメディカルのみならず、この場を借りて御礼申し上げます。

第89回千葉医学会学術大会

日時：平成25年6月18日(火) 16:10より
会場：千葉大学医学部附属病院 3階 第一講堂

特別講演 「千葉県の医事紛争処理システムは日本一」

演者：山浦 晶 先生 (千葉県立保健医療大学 学長/千葉大学 名誉教授)
座長：税所 宏光 先生 (千葉大学 名誉教授/化学療法研究所附属病院 名誉院長)



山浦 晶先生

招待講演 「脳神経外科医療 現在・未来」

演者：佐伯直勝 先生 (千葉大学大学院医学研究院 脳神経外科学 教授)
座長：加藤 誠 先生 (成田赤十字病院 院長)



佐伯直勝先生

参加手続き及び費用は不要

多くのご来場をお待ち申し上げます。

問合せ：千葉医学会 (〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学医学部内)

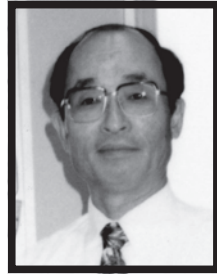
TEL：043-202-3755 FAX：043-202-3757

e-mail：info@c-med.org URL：http://www.c-med.org

追悼

故 大和田 英美 先生を偲んで

廣 島 健 三 (昭54)



故大和田英美先生は病氣療養中のところ平成24年12月6日に逝去されました。享年75歳でした。

先生は昭和12年10月22日に茨城県の瓜連町でお生まれになりました。昭和38年に千葉大学医学部を卒業され、医学部附属病院でインターンを行い、翌年に第一病理学教室(故瀧澤次郎教授)に入局されました。ラノリンの摂取によりウサギに実験的大動脈硬化症を作成し、甲状腺ホルモンが大動脈硬化を抑制することを見出し、昭和43年に学位を取得されました。昭和44年4月に医学部附属肺病研究施設病理研究部門の助手に採用され、昭和48年には文部省長期在外研究員として米国の Mayo Clinic に留学され、Woolner先生に外科病理学の指導を受けまし

た。昭和50年に講師、昭和52年に助教に昇任されました。平成6年8月に同研究部門初代の故井出源四郎教授、2代目の故林豊教授に続き、3代目の教授に就任されました。平成15年に退官され、千葉大学名誉教授の称号を受けられました。

先生が肺病研究施設にいられた当時は、大気汚染が社会問題化していました。大気汚染状態が明らかにされていた富士市へ、故林豊教授、杉林昭男先生(群大・昭38)とともに、2年間にわたり出張し、飼育期間および飼育地域の明らか

な飼育大の提供を受けて、大気汚染の気道系に及ぼす影響を病理学的に検討されました。その後二酸化窒素、およびオゾンによる呼吸器への影響について研究をされました。臨床病理学では特に肺病の病理診断に尽力をされました。同施設にいられてすぐに、病理報告書、病理標本、スライドガラスを整理し、病理診断のデータベースである「プローベ台帳」を作成されました。教授になられてから、データベースを電子化し、多くの研究者が、臨床研究を行う際の基礎となるデータベースを作成されました。私たちが病理診断のチェックを受けるため声をかけると、先生はいつでもすぐに一緒に顕微鏡を見て、指導をしてくださいました。

医学部においては、学生生活担当の学生生活委員会委員、厚生留學生部会長、剣道部部长、雄翔寮部長などを担当され、常に学生の立場に立ち、親身になり、学生の指導にあたられました。

日本肺病学会では、故林豊教授とともに肺病の組織分類、治療の組織学的効果判定基準を検討され、肺病取り扱い規約を作成されました。また、学会の財務委員会委員長、選挙管理委員会委員長を務められ、平成9年3月には西千葉キャンパスけやき会館で第118回日本肺病学会関東支部会を主催されました。評議員を16年間、理事を8年間務められ、名誉会員に推戴されました。

教室には、先生の研究、教育画面に亘る懇切なご指導と和を尊ぶお人柄を反映して、多くの研究者が集まり、穏やかで自由な雰囲気の中で研究を行いました。先生は、水戸から大きな鯨鯨を一匹買って来て、ご自身でさばかれ、教室員に鯨鍋をごちそうしてくださいました。また、毎年正月には教室員をお宅にご招待してくださり、奥様がつくられるお料理をごちそうしてくださいました。

大学退官後は、平成15年4月から5年間にわたり千葉大学のグラウンドフェローとして西千葉キャンパスの学生相談室に勤務をされました。また、週に1日は千葉労災病院で病理診断をされ、平成19年に左大腿骨の壊死を指摘されてからは車椅子が必要になりましたが、ご逝去される4週間前の11月8日までご自身で車を運転され通勤されました。私たちは先生が肝臓を患われてからは、年に1回程度、体調のいい時に千葉駅近くに集まり、会食をしました。

先生は、ご自身の病が全身に広がる不安を抱きながらも、ご自身の受けている最先端の医療に感謝をされていました。

先生は学生を愛し、その指導に勢力をそそぎ、また教室員に対しては家族同様に接してくださいました。私をはじめ医局員は先生から学問に対する真摯な姿勢と他人に対する優しさを学びました。先生にはまだまだ長生きをしてもらいたかったのですが、病には勝てませんでした。ご葬儀には肺病研究施設の同門や千葉

同窓会員著書の紹介

岡野照美(昭39) 著 詩画集「春秋」



ひいらぎ書房

伊藤 晴夫 (昭39)

大学でお付き合いのあった方々が大勢参列しました。ご葬儀の会場には、先生が京都、金沢、北海道で撮影された風景写真が飾られていました。先生から永年にわたり賜ったご指導に感謝し、ご冥福を心からお祈り申し上げます。

て詩集というより詩画集と云った方が適切と思われる。さらに、これらの内の4編は、この詩に曲をつけて町の音楽同好会で発表したいと云う要望が有りCDに収録されました。美しいメロディーとともに謳われています。このように詩画歌集と云った方がさらに良く内容を表しているのかも知れません。

岡野照美氏は千葉大学医学部を卒業後、東大の内科学局に入り、小布施で開業されております。小布施の有力者として地域への貢献が大で行政機関、教育界などから特に感謝されています。このようなお忙しい合間に詩作にも精力を傾け、長野県医師会報「長野医報」の医報詩壇に連載しておられました。以前より詩集を何冊も出版されております

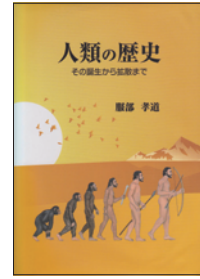
が詩画集「春秋」は詩の素晴らしさだけでなく画集としても通用する位に絵も一流です。詩では学生時代のことには直接の言及は有りませんが、私の感じでは千葉大学医学部時代へのノスタルジーが秘められていると思われました。詩集には以下の9編の詩が収められています。楊柳 花海棠、のうぜんかずら、一九四五年八月二五日、夏、狐火、時は去りゆく、夕暮雪の夜。計57ページの各ページには宮本廣文氏による水彩画が添えられていて詩を一層惹き立たせています。従っ

千葉蓮池 丸万壽司 千葉市中央区中央3-7-11 〒260-0013 TEL.043(222)3414 FAX.043(225)5335 http://www.maruman-sushi.com/ Eメール:mail@maruman-sushi.com



服部孝道(昭42) 著 人類の歴史 その誕生から拡散まで

メデイカル・アート出版
高橋 和久(昭51)



服部孝道先生には、これまで「箕田の砂浜」、「私の理解した太平洋戦争」、「人類の歴史 その誕生から拡散まで」の3冊のご著書をいただいた。いずれもハードカバーの立派な本である。「箕田の砂浜」は先生が大学在職中に書かれた学術論文以外の文章を集めたものであり、「私の理解した太平洋戦争」は膨大な資料にもとづく580ページを超える大著である。今回「紹介する」人類の歴史 その誕生から拡散まで」は、700〜600万年前頃の人類誕生から、日本人の成立までの壮大な歴史を記載したものである。本書執筆に際して検索された資料の膨大さに思いをはせ、先生のご努力の大きさに改めて敬意を表する。

本書によると、「人類の歴史にはまだよくわかっていないことが多いが、21世紀に入って新しい知見が次々と加わってきており」特に遺伝子研究による成果があがっているとのことである。本書には、アフリカに誕生した人類の祖先が、ヨーロッパ、アジア、東南アジア、オセアニア、太平洋諸島に広がり、さらにシベリアから北米、中米、南米にまで広がる壮大な経過が記載されている。これらの人類の拡大には、地球規模の気候変動が影響している。地球では、寒冷な氷期と寒さが緩む間氷期とが、それぞれ4〜10万年、1万年で繰り返され、極地での結氷による海面の低下や、逆に氷床の後退による温暖化により、人類の移動が可能になった。なお、現在の地球は間氷期にあり、暖かな秋の日差しに浴している時期とのことであり、いずれは厳しく長い氷期が訪れる。

本書には、ネアンデルタール人、クロマニヨン人などのなじみの名前も出てくるが、多くは私にとって初めて聞く名前である。本書によると、アフリカに生まれた人類の祖先は地球規模の気候変動や自然災害に大きな影響を受け絶滅の危機にさらされながら、その間隙をついて世界中に広がった。現生人類の遺伝子の多様性が極めて少ないことは、過去においてこのような極端な人口減少が起こり、我々が共通の祖先をもつようになった証である。服部先生はそのような原因の一つとして、7万4千年前のスマトラ島トバ火山の噴火をあげている。この火山の噴火は過去200万年間で最大であり、火山灰の量もピナツポ火山の700倍に達したといわれる。この結果、地球の気温は1千年間にわたり低下し、世界の人口は1万人にまで減少したという。

服部先生は、緒言において、「ヒトがいかに進化してきたのかについて知ることには、現在の人々のありようを知る鍵となり、人類の本性について科学的に理解する基礎になる」と書かれている。私には本書の要点は第12章の「日本人になった人々」にあるように思われる。服部先生は、出アフリカをした、あらゆるY染色体型型が一つの地域にみられるのは、全世界的に日本列島だけであると述べている。これは日本には、男性や子供を産ませるような侵略者が現れなかったことを意味しており、わが国の成立を考えると、わが国の成立を考えると、先生には、本書を改訂される際には、是非古代の日本が成立したこの時代についてもさらにお教え頂ければと願っている。

我々は、日常の仕事や生活に追われ、1日先、1週間先を思い悩んで過ごしている。自らの来し方行く末を思う時間さえない。本書により、我々人類がたどった壮大なドラマに思いをはせることは、忙殺される日常から開放され、心の安寧を得るのによい「薬」となる。皆様には是非ご一読することをお勧めする。

我々は、日常の仕事や生活に追われ、1日先、1週間先を思い悩んで過ごしている。自らの来し方行く末を思う時間さえない。本書により、我々人類がたどった壮大なドラマに思いをはせることは、忙殺される日常から開放され、心の安寧を得るのによい「薬」となる。皆様には是非ご一読することをお勧めする。

平成25年度

千葉県むのはな会総会・千葉大学むのはな同窓会総会 特別講演

「大学における地域医療教育の現状と課題」
筑波大学 医学医療系 地域医療教育学 教授
前野 哲博 先生

日時 平成25年6月29日(土) 午後5時より
場所 三井ガーデンホテル千葉 電話 043-224-1131

〈医療の原点は地域〉 〈地域で働く医療者は地域で育てる〉

筑波大学地域医療教育学 <http://pcmed-tsukuba.jp> では、「医療の原点は、暮らしの基盤である地域にあること」とする理念のもと、「地域で働く医療者は地域で育てる」教育を行っています。この教育では、地域医療の現場に医学生とともに教官が出かけます。教官が同行し、派遣先の診療所、病院の診療に同席し医学生の指導に当たります。そうすることで教育の質が確保されています。

講演では、地域医療教育の動向(国を挙げて推進しようとしていること)、それを受けての大学側の動き、筑波大学の事例紹介、地域の第一線で活躍される先生方への期待などについてお話しして頂きます。このような運営は、派遣先病院の経営母体であるJA、各基礎自治体からの寄付により可能となっています。大学における医師教育、さらには医学界全体の医師養成の問題として、前野先生の実践を同窓会関係の皆様へお知らせしたいと思います。多数のご参集をお願いいたします。

(文責 黒木春郎 昭和59年卒業)



千葉大学大学院
医学研究院
呼吸器病態外科学
同門会誌
開講50周年記念号

眼科学教室同窓会
2012年 第49号

会 員 か ら

山 中 寮 80 周 年 記 念 会

小 林 欣 夫 (昭 63)

山中寮80周年記念会が平成25年2月16日同窓会館にて行われました。山中寮80周年記念誌(写真左下)が昭和53年寮長で金沢大学血液情報発信学(救急医学)教授である稲葉英夫先生を編集委員長として完成したことに合わせた開催となりました。昭和36年卒の前嶋先生を筆頭に多くのOBが参加した会となりました。山中寮は昭和7年に山中湖村に開寮され、学生の自治で運営されてきました。平成15年に山中寮が建て替えられるまでは、夏の開寮に向けて寮の掃除や畳・布団干し、栈橋づくりなど様々な開寮準備を学生が行っていました。非常に大変な作業でしたが、今となっては非常に懐かしい思い出です。また、開寮している間は、長らく無医村であった山中湖村の唯一の診療所ならびに富士山7合目救護所の開設をして、山中湖村ならびに山梨県の医療に貢献してきました。これが評価され平成23年に山梨県知事から感謝状をいただきました。

また、これらの活動はOBが無償(報酬はすべて寮に寄付)で行ってきました。記念会当日は非常に寒い日で、築60年を超えた同窓会館の中の冷え込みが強かつたのですが、この古い同窓会館がまるで建て替え前の山中寮の雰囲気を出し、みな学生の頃に帰ったように昔話に花が咲きました。自己紹介ではさまざまな武勇伝も聞かせていただきました。また、80周年記念誌の中の思い出の写真のスライド上映では、当時のエピソードなどが披露され非常に盛り上がりました。昭和初期より使用されてきた山中寮は老朽化のために取り壊され、平成15年に新しい寮に建て替えられました。思い出深い旧山中寮がなくなったことを残念に思われる先生方も多いと思います。しかしながら、山中湖村全体の雰囲気は変わっても、山中寮のある区画だけは当時の面影を残す鬱蒼とした林に囲まれています。学生の自治も守られています。久しぶりに山中寮

を訪れてみてはいかがでしょうか。ようか。

写真右から

- 前列・小出義雄(昭50)、西野卓(昭47)、西島浩(昭44)、前嶋清(昭36)、徳久剛史(昭48)
- 二列目・中村真人(昭54)、岡陽一(昭56)、由佐俊和(昭51)、セレスター・ラム・ドーザー(昭51)、高田啓一(昭54)、三浦正義(昭56)、石川翼(医5年)、尾崎尚人(医2年)、三浦正敬(医5年)、糸川直樹(医4年)
- 三列目・村上康二(昭61)、露口利夫(昭59)、松尾浩三(昭55)、中川宏治(昭59)、石橋巖(昭55)、舟波裕(昭61)、小島広成(平3)、西森孝典(平7)、橋本理(平24)、菊池亮佑(医3年)
- 四列目・小玉隆裕(平20)、青木康大(平18)、田中圭(平16)、折茂政幸(平11)、沢浦宏明(昭59)、古関明彦(昭61)、中川晃一(平2)、小林欣夫(昭63)、吉村寧紘(医3年)



茨城県みの は な 会
平成24年12月1日 第4号

いばらき **みの は な**
第4号 茨城県みの は な 会
平成24年12月1日 千葉大学医学部みの は な 同窓会茨城県支部

つくばセントラル病院 脳神経外科 榎本 貴夫(昭和47年卒)

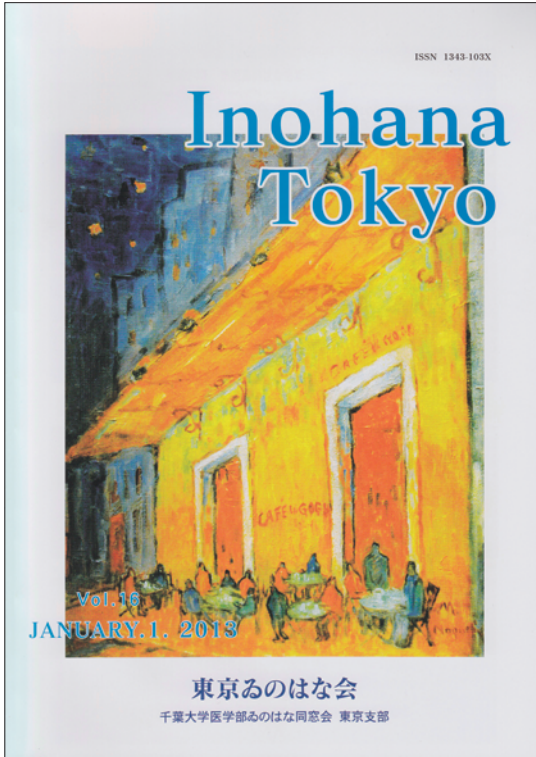
Harmony of Humanity and Advanced Medicine

目 次

巻頭言	大震災を振り返って	会長 佐藤 忠夫(昭和28年卒)	1
エッセイ	約束と国民性?	中山 宗春(昭和28年卒)	3
	白濁白費	後藤 澄夫(昭和30年卒)	5
	45年ぶりの衣飾	高瀬 靖広(昭和40年卒)	7
	水戸住人3年目	植原 英彦(昭和41年卒)	8
	スキーと私	中川 邦夫(昭和44年卒)	9
	阪手術もできるバイオリン弾きのオーケストラ生活	作野 悠士(昭和45年卒)	12
	地域の住民と菊愛好会をたちあげました!	石川 謙雄(昭和47年卒)	14
	音楽の都プラハ	大橋 教良(昭和48年卒)	16
	地球史よりエネルギー問題を考える	松前 孝幸(昭和52年卒)	18
	初めまして	山口 清直(昭和57年卒)	20
	当院臨床研修事情など	仁平 武(昭和58年卒)	21
	Lapel Pin Collection	高橋 均(平成5年卒)	23
	表紙のことば	榎本 貴夫(昭和47年卒)	28
	決算報告		29
編集後記	石川 謙雄(昭和47年卒)	30	
会員名簿		31	
みの は な 同窓会茨城県支部会則		35	

東京るのはな会

平成25年1月1日 第16号



目次

Inohana Tokyo vol.16

巻頭言	年頭のご挨拶	Page
自我と無我	清陽 高徳	2
日独交流150周年記念国際交流祭に参加して ドイツ・メルヘン街道を巡る 150 Jahre Freundschaft Deutschland-Japan	神山 一郎	7
富士山五合目まで	四家正一郎	12
柿くへば	小沢 昭司	14
近詠十三首	住吉 孝男	16
生体科学とヒトの体外受精	永野 俊雄	18
犬との余生	藤山 嘉信	20
陸上自衛隊ヘリコプター (UH-1J) 搭乗記	村瀬 靖	24
臨床現場・行政と政治	草刈 隆	26
千葉大学医学部演習部始末記	山本 弘	27
編集後記	若倉 弘毅	30

勤務医通信 vol.18

2013年、東京みのはな会勤務医部会の飛躍の年に	吉原 俊雄	33
東京女子医科大学付属八千代医療センターの 歩みと最近の状況	伊藤 達雄	34
放射線科に入学してから	伊丹 純	37
変化する都立駒込病院とともに(この10年間)	三橋 敏雄	40
カテーテル治療技術への向上心	山口 淳	45
東京みのはな会 平成24年度総会		47
予算決算		48
平成25年度みのはな会行事予定		49
東京みのはな会役割分担		49
東京みのはな会会則		50

松戸るのはな会

平成25年1月 第13号



目次

写真紹介	
松戸みのはな会	小野 和則…1
巻頭言	小野 和則…2
提言	
ミクロの世界からのメッセージ	野田 公俊…3-4
小児科医と絵本	小野 元子…5
千葉大学と漢方	
(和田正系先生と矢数格先生)	石島 秀紀…6-7
松戸市立病院に赴任して思うこと	岡部真一郎…8
自己紹介と松戸市立病院の近況の御報告	吉村光太郎…9-10
松戸市立病院小児科での日々	池原 甫…11
「地域医療に従事する消化器内科医として」	安達 哲史…12
編集後記	石島 秀紀…18



H₂受容体拮抗剤

プロテカジン錠5・10

PROTECADIN® tablet 5・10

夏目漱石 (1867~1916)
作家。胃潰瘍が持病で、43歳の時、療養先の修善寺で大吐血し、生死の境をさまつた。その後も再発を繰り返し、1916年、長編小説「明暗」の執筆半ばで、胃潰瘍のために49歳の生涯を閉じた。

薬価基準収載

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意、用法・用量に関連する使用上の注意等につきましては添付文書をご参照ください。

資料は当社医薬情報担当者にご請求ください。

製造販売元 資料請求先 (医薬情報室)

TAIHO 大鵬薬品工業株式会社

〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27
TEL.0120-20-4527 <http://www.taiho.co.jp/>

2013年3月作成

学内情報

ゐのほな同窓会支援

白衣式祝辞

平成25年1月26日(土)

於 記念講堂

ゐのほな同窓会会長 伊藤 晴 夫

白衣式を受けられる学生の皆さん、お目出とうございます。ご家族の皆様のお喜び・期待も大きいと思います。また、教職員の皆様には、日頃のご指導に対して深く感謝致します。

皆さんは4年間の基礎的な勉強を終えて、これからは、Student doctorとしての生活が始まる訳です。この言葉はstudentではあるけれどdoctorであるという良い言葉だと思えます。Doctorであるという自覚と誇りを持って卒業までの2年間、医学の本質に触れ、また高い医療技術の吸収に努めて下さい。千葉大学医学部はスタッフの質だけでなく医療設備でも本邦最高水準だと思えます。この恵まれた環境で大いに勉学に努めて頂きたいと思えます。

ゐのほな同窓会はこの白衣式には発足当初より積極的な支援を致しております。本日の白衣式のように目に

ムページを通じての積極的な参加を期待しております。

千葉大学医学部は創立後139年が経過しました。同窓会が中心となって行ってきた医学部創立135年記念事業も最終段階に来ております。このための募金に

関しましては、ここにおられる後援会の皆様方、すなわちご家族の皆様からも多額のご寄付を頂きました。

あらためて厚く御礼申し上げます。事業の中核である新ゐのほな同窓会館設立については、いよいよ着工となりまして、今年度中に竣工予定です。新同窓会館は、

サークル活動など学生の種々の活動に必須であるだけでなく、教職員、先輩達との交流を通じた人間形成の場となることにも大いに期待を寄せております。積極的に活用されることを願っております。

以上、簡単ですがお祝いとお願いの言葉を述べさせていただきます。

ホームページの充実を力を入れております。若い学生会員の皆さんの、このホー



ゐのほな同窓会支援

ゐのほな同窓会の方々へ

雄翔寮一同

この度は私たち雄翔寮の学生のために教科書を寄付していただき、本当にありがとうございます。医学書は非常に値段も高く、寮に住んでいる学生は家が貧しい人も多いので、とても役立っています。私たちは寄付していただいた本を寮の図書室に置かせていただいております。

寮生一同、立派な医師になれるように努力しますので、今後ともよろしくお願い致します。



謝 恩 会

2012年度卒業生が3月22日に卒業式を終え、教員を招待しての謝恩会が三井ガーデンホテル千葉で開催されました。全卒業生と全教授の写真が掲載された額入りの銘板が伊藤あゐのな同窓会長から学生代表に贈呈されました。これは初めての企画で、この後、銘板は今年12月に完成予定の

新あゐのな同窓会館（新同窓会館）に飾られることとなります。今後もこの企画は続けられる予定ですので、今年から卒業生の銘板が代々新同窓会館に飾られていくこととなります。

これは、あゐのな同窓会（同窓会）による学生・卒業生サポート・プロジェクトの一環として企画されました。同窓会が在校生、卒業生への支援、感謝を通して、千葉大学医学部のアイデンティティーを確立すると共に愛校心を育むことを目的にしています。卒業して千葉大学を去っても、自分と同級生、更に指導してくれた先生方の写真が大学に残っている。何年か後に（それは5年後かもしれないし、50年後かもしれないし）亥鼻を訪れた際に、この銘板

を見ることで、千葉大学医学部卒業生としてのアイデンティティーを感じていただけるのではないかと期待します。一生訪れることは無くとも、銘板がそこにあるというのを思い出すだけで、同窓生としての自覚と誇りを感じていただければいいと思います。

1 昨年からスタートした



伊藤あゐのな同窓会長から学生代表に贈呈された、全卒業生と全教授の写真入り銘板。

田邊政裕（昭49）

卒後50年を経た卒業生への感謝状贈呈もこの企画の一環です。50年に及ぶ医学・医療への貢献と同窓会に対する支援についてお祝いと感謝の意を同窓会として頭すために、記念のメダルと感謝状を贈呈しています。今後も新同窓会館の建設を契機にこのプロジェクトを更に推進していければと思います。

雑 文 雑 談 関 宿 の う どん 屋

石 出 猛 史 (昭52)

以前関宿町（現野田市）に行った折、街中に「そば屋」が見当たらず、専ら「うどん屋」の看板がかかっていた。江戸学研究家の三田村篤魚（1870～1952）によると、そばは元来、甲州（山梨県）から江戸に入ったものといわれており、江戸でそばを売り始めたのは、享保（1716～1735）の中頃からで、それまでは関西と同じでうどん屋だった。宝暦（1751～1763）あたりから、そば屋になったと記している。そば屋の看板より、うどん屋の看板のほうが旧いのだろう。

そばの品質を表すのに「二八そば」「更級」などがあるが、語源について、よく論争の種になるのが「二八そば」である。値段が2×8で16文だからという説と、つなぎが2割という説である。篤魚は2×8＝16文説をとっている。その理由として、そばはそば粉10割をもって最上とするのに、わざわざ品質の劣ったそばを表示するものかと述べている。「生そば」というの

が、そば粉10割を表すもので、江戸時代は「正直そば」と称したという。つなぎを使っている、10割そばと称して売った者がいたということであろうか。筆者は、「親馬鹿チャンリン」そば屋の風鈴、床屋の七輪」の如く、江戸ッ子の言葉遊びととらえているので、二八文説をとっている。

ば屋で、真黒い方がよく、周辺の馬方が、ぞろぞろ来て休んで食べていくので、遂に「馬方そば」になったとあり、店の名に由来しているようである。また、そばは元禄時代（1688～1704）からぼつぼつ出たもので、はじめは菓子屋で売っていた。幕末にも菓子屋で売っている所があったとも述べている。

関宿でうどん屋に入って、そばを注文した。通路を挟んでスリムな若い男女のカップルが、食事をしていた。彼「ネエ、このエビフライ食べてよ」、彼女「嫌いな」、「彼「眼がこち見えて怖いんだ」、彼女「…」。

旧幕時代、関宿は譜代大名の城下町であった。江戸からみて北方への防備用地である。宝永2年（1705）以降は、専ら久世氏（明治2年当時4万8千石）の料所となった。17世紀後半、利根川東流工事が完成し、河口が江戸湾から鹿島灘に変わった。これにより、諸藩の米が銚子から関宿（境河岸）を経て、江戸川を下り江戸に送られるようになった。久世氏からは幕府の老中が4人出ている。街道沿いに「郊外レストラン」という名の店があったが、関宿は町全体が郊外のような所であった。

関宿出身の著名な人物といえ、鈴木貫太郎（1867～1948）である。関宿藩々士で海軍大将。日清・日露戦争で軍功があり、連合艦隊司令長官・海軍々令部総長など海軍の最高職を歴任した。太平洋戦争終結時、ポツダム宣言を受諾した総理大臣として知られている。その経歴を見ると貧乏籤を引き受けられる程の、正々堂々とした腹の坐わった人物である。千葉県が生んだ傑物である。弟の孝雄（1869～1964）も陸軍大将を務めた。

前述の「そば屋の風鈴」について、やはり光雲翁の話に、江戸時代屋台をかついだ「夜鷹そば」が、「細いあんどんにお定まりの当たり矢、手拭を、とんがりかぶり」にして、風リンをチリンチリン、そばアウ「イ」とくる」とある。このことである。

課外活動団体だより

東洋医学研究会

代表 医学部3年 篠塚 仁貴

この度、東洋医学研究会(通称では「東医研」と呼ばれています)の紹介をさせていただきます。

東医研は今年で創立74年目を迎える、学内でも有数の歴史と伝統を誇るサークルです。まだ戦前の昭和14年に全国で初めて設立され、太平洋戦争による一時休会を除いて一度も途絶えることなく、脈々と受け継がれてきました。東医研の目玉の活動ともいえるべき「自由講座」では、毎年OB・OGの先生方ならびに和漢診療学講座の先生方においていただき、入門講座と演習の講義をしていただいています。こちらも戦後間もなく開講されてから今年で67回目を数えます。東医研の基盤を築き上げ、卒業後もなお多大なるご尽力をいただいている諸先輩方に深く感謝すると同時に、自身も伝統を背負う立場として

重みをひしひしと感じ、改めて身の引き締まる思いです。

東医研と一口に言っても、現在は医学部東医研と薬学部東医研の二つが存在しています。以前は別々に活動を行っていましたが、近年は交流の輪を広げようという事で、合同で活動することも多くなりました。部員は医・薬・看護あわせて40名ほどと、文科系サークルとしては大所帯となっております。運動部や他の文化系サークルと兼部する者がほとんどという、ゆるいサークルです。しかしながら私どもは活発に活動しており、その内容も多岐に渡ります。先に述べた自由講座に加え、月に1~2回程度の学習会をメインに行っていますが、漢方薬の成分分析実験やOGの先生にご指導をいただいで鍼灸実習を行うなど、体験型の活動も取り入れています。また他大学との交流として、関東圏の大学の東洋医学研究会が合同で行う「はるか

ん」という合宿セミナーにも毎年参加しており、学生同士で勉強し刺激を受け合える貴重な場となっております。

私どもは東洋医学の基礎を学ぶだけでなく、興味の赴くままに研究も行っています。最近では漢方薬と味

逸で興味深い演題が数多く集まる中、千葉大学は優秀な演題に贈られる「会頭賞」を受賞することが出来ました。研究の際に多くの面でご協力いただいた和漢診療学講座の先生方には感謝しきれませんが、一方で私どもも自身の活動に自信を持って、他大学の刺激も受けて東洋医学に対する興味関心が一層湧くなど、実

り多い研究発表となりました。東洋医学は近年その有用性が見直され注目を浴びる存在となりましたが、その

ずつと以前から東洋医学の優秀さに気づいていた諸先輩方の慧眼には、僣越ながら改めて感服させられます。私どもも恵まれた環境で東洋医学を学べることへの感謝の気持ちを忘れず、先輩方に少しでも近づけるよう日々精進していきたくと思っております。

千葉大学医学部看護学部 硬式テニス部は玄鼻キャンパスのテニスコートで活動しています。全体練習として男子部は毎週水・土曜日に、女子部は毎週火・土曜日に練習しています。2011年にコートの改修工事が行われ、凡秋谷コートから野球場とサッカー場の間にあるコートに移動してきました。オムニコート(全天候型)にもだいぶ慣れてきて、恵まれた環境でテニスができることを実感しています。現在部員は男女合わせて70名弱で初心者と経験者が半々といったところですが、お互いを高め合いながら和気藹々と活動しております。



硬式テニス部

(女子硬式庭球部・男子硬式テニス部)

医学部3年 新見 理恵

ご参加いただき、盛大な会となっており、蒼庭会の昼の部ではOBの先生方

によるダブルスが行われていますが、鋭いショットや攻めの姿勢など勉強になるところばかりで、テニスの面白さ、難しさを毎回再認識しています。写真は2012年の秋の蒼庭会での集合写真です。

千葉大学硬式テニス部では毎年春と秋に蒼庭会というOB会を開催しているのですが、毎回たくさんOBの先生方に



千葉大学は関東医科歯科リーグでは男子部・女子部共に2部リーグに在籍しています。春から夏にかけてのオンシーズンということ選手と応援が丸と違って戦っています。そして夏には山中湖にて、医学部は東医体、看護学部は看護戦が開催されます。2012年大会では東医体は男子部が4位、女子部が二回戦敗退、看護戦では下位リーグ優勝という成績を修めています。東医体・看護戦前にはお互いに応援メッセージを書き込んだ旗を送り合ったり、山中湖まで応援に行ったりしているのですが、一緒に暑い中練習してきた日々が思い出され、また、互いの応援の力の大きさを感ずることが出来ます。東医体は東日本の大学が集まる大きな大会ということで、チームとしてのいろいろな大学のカラーや、他大の強い選手のプレーを見る事ができて、毎年楽しくもあり、とても刺激的な経験となっています。

最後に、私は硬式テニス部という部活に入って本当にたくさんの方とつながりができたと感じています。同学はもちろん、大きな部活ということで、たくさん先輩、後輩と関わられたこ

とは今後の人生においても宝物となってくると思っています。自分の学年の上下学年の人たちとこんなにも多くの時間をテニスや遊びを通して一緒に過ごせる機会というのはとても貴重なものだと感じています。学年

的には折り返し地点ですが、これからも一生懸命部活に取り組み、部活に在籍しているからこそできる経験を大切にして、部活を通して自分のできることを探して行こうと思います。

硬式野球部

主務 医学部4年 太田 仁

千葉大学医学部硬式野球部は現在プレーヤーが22名、マネージャー10名の合計32名で活動しています。プレーヤーは小中高を通して野球を続けている者から初心者まで様々です。活動内容としては主に火木土曜に千葉大学亥鼻グラウンドで、春と秋のリーグ戦として夏の東医体に向けて日々練習に励んでおります。夏と冬にはオフもあり、部員同士が学年を越えて交流しています。

千葉大学は他の大学に比べ、グラウンドやバッテリーゲージなど練習に関する環境が恵まれています。グラウンドは亥鼻キャンパスに整備されており草刈りや土入れをしながら、専用のグラウンドとして使用しております。さらに昨年導入されたバッテリーゲージなど、部活動の運営では

OB・OGの方々のお力を実感することが多々あります。リーグにおきましては関東医科大学硬式野球リーグに所属しており、昨年は1部リーグで準優勝、東医体でも準優勝と好成績を収めることができました。これはやはりOB・OGの方々をはじめ多くの方々からの御支援によるものです。しかし東医体では過去5年で4度の準優勝とまだまだ勝負強いとは言えない現状ですので、この壁を乗り越えることが今年の最大の目標です。

また今秋には長らく硬式野球部同窓会会長を務めて頂きました先生が御勇退されました。これに伴う謝恩の会におきましては多くのOB・OGの方々に御出席頂き、この硬式野球部で現在活動している身として改めて責任を感しました。

これも亥鼻で最も長く続けてきたのだと考えます。大学ではもちろん学業があるため、決して十分な練習時間を確保できるわけはありません。この限られた時間の中で、自分たちで考えて野球の練習をするこ

とになります。そして大学の部活動ということでも部員の運営につきましても部員が直接関わる機会が数多くあります。こうして野球を通じて今後医療の社会に出る者としての自覚や責任感が芽生えていくと考えられます。

OB・OGの方々のお力を実感することが多々あります。リーグにおきましては関東医科大学硬式野球リーグに所属しており、昨年は1部リーグで準優勝、東医体でも準優勝と好成績を収めることができました。これはやはりOB・OGの方々をはじめ多くの方々からの御支援によるものです。しかし東医体では過去5年で4度の準優勝とまだまだ勝負強いとは言えない現状ですので、この壁を乗り越えることが今年の最大の目標です。

また今秋には長らく硬式野球部同窓会会長を務めて頂きました先生が御勇退されました。これに伴う謝恩の会におきましては多くのOB・OGの方々に御出席頂き、この硬式野球部で現在活動している身として改めて責任を感しました。



これも亥鼻で最も長く続けてきたのだと考えます。大学ではもちろん学業があるため、決して十分な練習時間を確保できるわけはありません。この限られた時間の中で、自分たちで考えて野球の練習をするこ

第107回医師国家試験成績

試験日	平成25年2月9日(土)・10日(日)・11日(月)
合格発表	平成25年3月19日(火)
受験者	104名(新卒者 99名)
合格者	99名 合格率 95.2% (新卒者 96名 合格率 97%)
参考	国立 合格者 4,131名 合格率 90.7%
	全国 合格者 7,696名 合格率 89.8%

さあ、おいしい舞台へ

すし 銚子丸

と き その季節、
その瞬間の旬を
味わっていただくために
どうぞ、おいしい舞台へ。

お近くの店舗は当店ホームページでご覧ください。 <http://www.choushimaru.co.jp>

全81店舗 千葉 32店舗 東京 20店舗 営業時間
※2013年4月19日現在 埼玉 15店舗 神奈川 14店舗 午前11時～午後10時
— 年中無休 — ※千葉駅前店のみ午後11時まで

第45回 日本医学教育学会大会について

田邊 政裕 (昭49)

日本医学教育学会を下記の要項で千葉の地で初めて開催させていただくことになりました。医学部教授会の先生方全員に実行委員になっていただき、医学部全体で実施する体制となっています。医療の質保証と改善が求められる中、医学教育の質保証も国民の強いニーズとなっています。メイン・テーマをQuality assurance of medical education—学習成果基盤型教育の導入と展開—とさせていただきました。卒前医学教育ばかりでなく専門医教育、生涯教育の研究・発表もあります。同窓会員の皆様方の日頃の研修・修練にも役立つ内容です。関係者一同大会の開催に向けて準備を進めています、ご参加いただければ幸いです。

第45回日本医学教育学会総会および学術大会案内

第45回日本医学教育学会大会

開催期日：2013年7月26日(金)～7月27日(土)

開催会場：千葉大学亥鼻キャンパス 千葉大学医学部、薬学部、看護学部
〒260-8677 千葉市中央区亥鼻1-8-1

大会長：横須賀 収

(千葉大学大学院医学研究院長・医学部長)

実行委員長：田邊 政裕(千葉大学大学院医学研究院医学部
医学教育研究室 教授)

テーマ：Quality assurance of medical education

—学習成果基盤型教育の導入と展開—

大会事務局：第45回日本医学教育学会大会 事務局

千葉大学大学院医学研究院医学部 医学教育研究室

運営事務局：〒112-0012 東京都文京区大塚3-5-10

住友成泉小石川ビル7F 株式会社サンプラネット内

TEL：03-5940-2614 FAX：03-3942-6396

E-mail：45jsme@sunpla-mcv.com

開催内容

大会プログラム

1. 大会長講演
2. 招請講演
3. 日韓医学教育学会交流招請講演
4. 市民公開講演(名誉会長講演)
5. 総会
 - 1) シンポジウム
 - 2) パネルディスカッション
 - 3) モーニングセミナー、ランチョンセミナー
 - 4) 一般演題(インターナショナル・セッションを含む)
 - i. 口演
 - ii. ポスター
 - 5) 企業展示、書籍展示、
大学展示(innovation in medical education)、
機構(組織)展示
6. プレコンgresワークショップ
(大会前日、7月25日に亥鼻キャンパスで開催)
7. 45周年公開記念シンポジウム
(大会終了後、7月28日に亥鼻キャンパスで開催)

The 45th Annual Meeting of the Japan Society for Medical Education
第45回日本医学教育学会大会

会期 2013年
7月26日(金)・27日(土)

会場 千葉大学亥鼻キャンパス
千葉大学医学部、薬学部、看護学部
〒260-8677 千葉市中央区亥鼻1-8-1

大会長 横須賀 収
(千葉大学大学院医学研究院長・医学部長)

Quality assurance of medical education
—学習成果基盤型教育の導入と展開—

演題募集期間
2013年2月5日(火)～3月26日(火)正午
<http://jsme45.umin.jp/>



begin.continue

事務局

千葉大学大学院医学研究院医学部 医学教育研究室

〒260-8677 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

TEL 043-226-2816 FAX 043-226-2816

E-mail：45jsme@sunpla-mcv.com

事務局 千葉大学大学院医学研究院医学部・医学教育研究室 実行委員長：田邊 政裕(千葉大学医学部 教授)
〒260-8677 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 TEL 043-226-2816 FAX 043-226-2816
E-mail 45jsme@sunpla-mcv.com HP <http://jsme45.umin.jp>

平成25年卒業生の卒後研修先

千葉大学医学部附属病院では、卒後研修プログラムとして、5種類（プログラムA、B、C、産婦人科、小児科）を用意している。1年目に大学病院、2年目に協力病院で研修する方式（プログラムA）、1年目に協力病院、2年目に大学病院で研修する方式（プログラムB）、1年目・2年目共に大学病院で研修する方式（プログラムC）、その他である。

また、卒後2年間の初期研修プログラムを終えた研修医を対象に後期研修医制度を立ち上げ、シニア市電との受け入れにも積極的に対応している。

研修先プログラム	1年目	2年目	人数	研修先プログラム	1年目	2年目	人数
千葉大B	千葉市立青葉病院	千葉大医学部附属病院	2	都立墨東病院	都立墨東病院	都立墨東病院	1
千葉大B	国立病院機構千葉医療センター	千葉大医学部附属病院	1	JR東京総合病院	JR東京総合病院	JR東京総合病院	1
千葉大B	君津中央病院	千葉大医学部附属病院	1	公立学校共済組合関東中央病院	公立学校共済組合関東中央病院	公立学校共済組合関東中央病院	1
千葉大B	上都賀総合病院	千葉大医学部附属病院	1	日本赤十字社医療センター	日本赤十字社医療センター	日本赤十字社医療センター	1
千葉大B	聖隷横浜病院	千葉大医学部附属病院	1	東京都健康長寿医療センター	東京都健康長寿医療センター	東京都健康長寿医療センター	1
千葉大C	千葉大医学部附属病院	千葉大医学部附属病院	1	聖路加国際病院	聖路加国際病院	聖路加国際病院	1
東大医学部附属病院B	国立病院機構災害医療センター	東大医学部附属病院	1	都立大塚病院	都立大塚病院	都立大塚病院	1
東大医学部附属病院B	がん研有明病院	東大医学部附属病院	1	都立駒込病院	都立駒込病院	都立駒込病院	1
東大医学部附属病院C	東大医学部附属病院	東大医学部附属病院	2	東京都済生会中央病院	東京都済生会中央病院	東京都済生会中央病院	1
東京医科歯科大学病院	東京医科歯科大学病院		1	練馬総合病院	練馬総合病院	練馬総合病院	1
自治医科大学附属埼玉医療センター	自治医科大学附属埼玉医療センター	自治医科大学附属埼玉医療センター	1	三井記念病院	三井記念病院	三井記念病院	1
東京女子医大八千代医療センター	東京女子医大八千代医療センター	東京女子医大八千代医療センター	3	公立昭和病院	公立昭和病院	公立昭和病院	1
東京歯科大学市川総合病院	東京歯科大学市川総合病院	東京歯科大学市川総合病院	1	千葉中央メディカルセンター	千葉中央メディカルセンター	千葉中央メディカルセンター	1
成田赤十字病院	成田赤十字病院	成田赤十字病院	6	千葉県立病院群	千葉県がんセンター		1
国立病院機構千葉医療センター	国立病院機構千葉医療センター	国立病院機構千葉医療センター	5	深谷赤十字病院	深谷赤十字病院	深谷赤十字病院	1
千葉県済生会習志野病院	千葉県済生会習志野病院	千葉県済生会習志野病院	5	済生会川口総合病院	済生会川口総合病院	済生会川口総合病院	1
君津中央病院	君津中央病院	君津中央病院	5	みさと健和病院	みさと健和病院	みさと健和病院	1
船橋市立医療センター	船橋市立医療センター	船橋市立医療センター	4	横浜市立市民病院	横浜市立市民病院	横浜市立市民病院	1
千葉市立青葉病院	千葉市立青葉病院	千葉市立青葉病院	4	横浜労災病院	横浜労災病院	横浜労災病院	1
国立国際医療研究センター	国立国際医療研究センター	国立国際医療研究センター	3	横浜栄共済病院	横浜栄共済病院	横浜栄共済病院	1
国保旭中央病院	国保旭中央病院	国保旭中央病院	3	川崎市立井田病院	川崎市立井田病院	川崎市立井田病院	1
千葉労災病院	千葉労災病院	千葉労災病院	3	東戸塚記念病院	東戸塚記念病院	東戸塚記念病院	1
松戸市立病院	松戸市立病院	松戸市立病院	2	新潟市民病院	新潟市民病院	新潟市民病院	1
東京通信病院	東京通信病院	東京通信病院	2	焼津市立総合病院	焼津市立総合病院	焼津市立総合病院	1
社会保険中央総合病院	社会保険中央総合病院	社会保険中央総合病院	2	聖隷三方原病院	聖隷三方原病院	聖隷三方原病院	1
津田沼中央総合病院	津田沼中央総合病院	津田沼中央総合病院	2	京都市立病院	京都市立病院	京都市立病院	1
千葉メディカルセンター	千葉メディカルセンター	千葉メディカルセンター	2	高知医療センター	高知医療センター	高知医療センター	1
立川相互病院	立川相互病院	立川相互病院	2	沖縄県立中部病院	沖縄県立中部病院	沖縄県立中部病院	1
国立病院機構東京医療センター	国立病院機構東京医療センター	国立病院機構東京医療センター	1				

平成25年度 医学部入学者

Table of medical school students with columns for names and department/affiliation.

平成25年度 大学院入学者

Table of graduate school students with columns for names and department/affiliation.

Table of medical school students (continued) with columns for names and department/affiliation.

Table of graduate school students (continued) with columns for names and department/affiliation.

原資太郎「腫瘍内科学」石神秀昭、井上将法、笠松伸吾、小林和史、妹尾純一、芳賀祐規、濱中紳策、林雅博、若松徹「精神医学」松浦暁子、吉村健佑「放射線医学」齋藤真「呼吸器病態外科学」稲木輝長「細胞分子医学」木下大輔「循環病態医学」岩花東吾、加藤賢、小原由香、齋藤佑一、佐藤真洋、正司俊博、若林慎一「臨床分子生物学」石田翔、喜田昂洋、小出奈央、高原利和、武内新、吉村周作「先端応用外科学」相川瑞穂、會田直弘、蔵田能裕、中野明「先端生命科学」遺伝子情報学」柴田さやか「先端化学療法学」公平誠、野口瑛美、鳩貝健、三浦智史「臨床推論学」池上亜希子、島田史生「臨床感染症学」橋本亜希「先進医療科学」放射線治療学」荻谷文子、和氣司「分子腫瘍生物学」佐藤俊平、丸喜明、養田裕行「医療行政学」服部泰之

線御機能学」中村美月「公衆衛生学」小森美穂、李瑤子、北村浩一「法医学」久保祐子「認知行動生理学」荒木謙太郎、今泉良子、河合琴美、熊谷将志、杉本元子、田中麻里、谷康弘、藤枝寿光

整形外科学 大鳥 精司(平6) (同助教より) 認知行動生理学 松澤 大輔(平12) (同助教より) 整形外科 國吉一樹(平7) (材料部助教より) 消化器内科 丸山 紀史(平2) (同助教より) 肝胆臓外科 吉富 秀幸(平2) (臓器制御 外科学助教より) 小児外科 照井 慶太(平10) (松戸市立病院より) アレルギー・膠原病内科 鈴木浩太郎(平6) (医学研究院 特任助教より) 整形外科学 佐粧 孝久(平元) (同講師より) 病原細菌制御学 八尋錦之助 (同特任准教授より) 画像診断・放射線腫瘍学 磯部 公一(平4) (附属病院講師より) 消化器・腎臓内科学 神田 達郎 (新潟大・平3) (同特任講師より)

原 竜介(平4) 放射線治療部長(新採) 外岡 亨(平9) 主任医長(新採) 救急医療センター 小林 繁樹(昭54) 病院長(センター長) 石橋 巖(昭55) 副病院長(診療部長) 稲葉 晋(院博・平15) 麻酔科部長(主任医長) 荒木 雅彦(昭60) 主任医長(麻酔科部長) 鈴木 浩二 (札幌医大・平9) 主任医長(医長) 精神科医療センター 平田 豊明(昭52) 病院長(センター長) 森山 稔弘 (弘前大・昭63) 副病院長(診療部長) 深見 悟郎(平7) 診療科部長(主任医長) こども病院 星岡 明(昭58) 医療局長(診療部長) 星野 直 感染症科部長 (主任医長) 小俣 卓(信州大・平7) 神経科部長(主任医長) 本間 澄恵(平6) 泌尿器科部長 (主任医長) 沼田 理(平9) 主任医長(医長) 村山 圭(院博・平18) 主任医長(医長)

■修士課程 原弘樹、塙真輔「遺伝子制御学」伊藤崇、影山貴弘、横山裕亮「免疫発生学」SARKAR MD. MURSHED HA「小児病態学」力石浩志、千葉浩輝、長澤耕男、山本健「整形外科学」金塚彩「耳鼻咽喉科学」鈴木智森本侑樹「形成外科学」笹

千葉県職員人事異動 がんセンター 永田 松夫(昭53) 副病院長(医療局長) 山口 武人(昭56) 副病院長(診療部長) 植田 健(平元) 医療局長 (泌尿器科部長) 中村 和貴(平9) 主任医長(医長) 岩田慎太郎(院博・平22) 主任医長(医長)

染生体防御学」KIKUCHI「細胞治療内科学」北本匠、志賀明菜、正司真弓、服部暁子、山賀政弥「臓器制御外科学」岩瀬俊明、上田淳彦、小西孝宜、鈴木謙介、千田貴志、西野仁恵、藤野真史、古川新、渡邊善寛「皮膚科学」江原瑞枝、若林正一郎「分子病態解析学」梅原有子、柿沼翔子、藤沼裕希「生殖機能病態学」曽根

濱田 千洋 張本 英男 東 達也 平山 悠仁 廣川 友美 藤谷 誠 古谷 るぶ 堀江 華奈 右田 修介 宮崎 柊子 宮永 一真 宮本 周 村島 侑子 森川 真衣 森木 麻衣 森安 理紗 八木翔太郎 山田いづみ 山本衣里奈 横田 暢 横田 翔 横山 由奈 吉岡 桜子 吉岡 友美 渡邊 広毅

平成24年度 第2回常任理事会議事要旨抜粋

日 時：平成24年11月14日
 (水) 18時より
 場 所：東京ステーション
 コンファレンス605A室
 出席者：伊藤晴夫(会長)
 大井利夫(副会長)
 済陽高穂(副会長)
 鈴木信夫(副会長)
 田中光(会計監事)
 青木謹 伊藤達雄
 岩倉弘毅 岡本和久
 小野田昌一 加部恒雄
 栗原伸夫 三枝一雄
 早乙女勇 佐藤通

1. 報告事項
 議案
 進められた。
 同会長が座長となり議事が
 行われた。

1. 予算執行状況(中間報告)について
 白澤浩理事より資料にも
 とづき、24年度の中間報告
 がされた。収入、支出とも
 に例年通りであるが、収入
 では寄付金が会報関連広告
 収入の増で予算額を上回り、
 支出では備品費、IT広報
 関連事業費で予算額を上回
 る状況であること、予備費
 は卒業生サポート事業の支
 出であること等が報告され
 た。

2. 協議事項
 (1)学外研究助成の選考結果
 について
 田邊理事より、資料にも
 とづき、今年度終了となる
 学外研究助成の選考理由と
 結果について説明があり、
 杉本晃一氏(平13)に学外
 研究助成金を授与すること
 が承認された。

千葉大学あのはな同窓会の会員総合補償制度ご加入の先生へ
 本制度の契約者は「あのはな同窓会」であり、保険証券は同
 窓会が所有しております。加入された先生には保険会社より
 「加入者票」が送付されます。加入者票は加入内容を確認する
 大切なものです。ご意向通りの内容になっているかご確認ください
 ますようお願いいたします。保険に関する事務は株式会社
 パイオニアに委託、代行されています。住所変更・契約内容変
 更・そのほか変更、あるいは、事故報告等につきましては下記
 までご連絡ください。
 株式会社 パイオニア
 TEL：0120-36-8442 FAX：0120-36-1061
 E-mail：support@mail.p-med.jp

千葉県職員より退職
 木村 秀樹(昭48)
 がんセンター
 副センター長

鈴木 亮二(昭49)
 循環器病センター
 医療局長
 幡野 和男(日本大・昭56)
 がんセンター
 放射線治療部長
 酒井 光弘(平3)
 がんセンター主任医長
 海野 洋一(新潟大・平9)
 がんセンター医長
 今暉倍敏行(平10)
 がんセンター医長
 米田みのり
 佐原病院リハビリ
 テーション科部長

(2)新あのはな同窓会館第一
 期工事について
 田邊政裕理事より資料に
 もとづき、新あのはな同窓
 会館第一期工事について報
 告された。2回の入札の不
 調を踏まえ、3回目では、
 別途工事費を更に増額し予
 定価格も増額することとし、
 入札は12月半ばとなる旨報
 告された。

3. その他
 こと等が報告された。
 (3)その他
 田邊理事より、資料にも
 とづき学生・卒業生サポー
 トプロジェクトの取り組み
 が報告された。卒業50年以
 上を経た、昭和37年、38年
 卒業の先生方へメダルと感
 謝状を贈呈したこと、学生
 への支援として平成25年3
 月卒業生と教授全員の写真
 入り名盤を作成すること等
 が報告され、出席理事より、
 次回開催について
 25年2月14日(木)開催と
 した。

田邊理事より、資料にも
 とづき、次年度は学術賞に
 変えて、社会貢献賞が創設
 される旨説明された。学術
 賞は千葉医学会等と受賞者
 が重複することもあるため、
 地域で貢献している方々へ
 の褒賞を意図したこと、周
 知を兼ね文書にて評議員と
 支部長へ推薦依頼を行った

ALIMTA
 代謝拮抗性抗悪性腫瘍剤
 創薬/地方せん医薬品(注：一部製剤の地方せんにより使用すること)
アリムタ® 注射用100mg
注射用500mg
 Alimta® Injection (注射用ベシトレキセドナトリウム水和物)
 効能・効果、「用法・用量」、「警告・禁忌を含む使用上の注意」、
 「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量に関連する
 使用上の注意」等については、添付文書をご参照ください。
 Lilly Answers リリー・アンサーズ
 日本イーライリリー株式会社
 TEL: 0120-360-605 (東京都港区南1-1-1)
 FAX: 03-5561-1730 (東京都港区南1-1-1)

公益財団法人猪之鼻奨学会お知らせ
 当公益財団への寄附は、税制上の優遇措
 置の対象となります。

平成24年度 第3回常任理事会議事要旨抜粋

日時：平成25年2月14日（木）18時より
場所：東京ステーション
コンファレンス605A室
出席者…

- 伊藤晴夫（会長）
大井利夫（副会長）
済陽高穂（副会長）
鈴木信夫（副会長）
田中光（会計監事）
税所宏光（参与）
青木謹 伊藤達雄
岩倉弘毅 岡本和久
小野田昌一 三枝一雄
坂田早苗 佐藤通
宍倉正胤 白澤浩
鈴木守 瀧口正樹
田邊政裕 角田隆文
中田義隆
（佐藤忠夫理事代理）
花輪孝雄 森豊
吉川広和 吉原俊雄
（敬称略）

伊藤晴夫会長の挨拶の後、同会長が座長となり議事が進められた。

議案

1. 報告事項

(1) 予算執行状況（中間報告）について
白澤浩理事より資料に基
づき、平成24年度の中間決

算について報告された。収支ともに例年並みの執行状況であるが、収入では、寄付金が会報関連広告収入の増で予算額を上回り、支出のうち総務費では会議費と一般管理費に余剰があること、備品費、会報誌印刷費、IT広報関連事業費で予算額を上回る状況であること等が報告された。
(2) 新のはな同窓会館第一期工事について
田邊政裕理事より資料に基づき、新のはな同窓会館第一期工事について報告された。平成24年12月第3回目の入札にて、山内工業（株）が落札し、2月18日に安全祈願祭が行われること、12月末に竣工予定であること等が説明された。
(3) 広報編集関係
鈴木信夫副会長より、同窓会報163号の発送は5月14日（火）に予定されていることが報告され、オンライン会報に関する現状が説明された。また、千葉県内の開業医の記事を千葉日報に掲載する企画が進められていること、千葉県以外の紹介も進めたい考えであること等が説明された。
(4) その他

田邊政裕理事より学生支援の一環として、今年度より卒業生と教授および同窓会役員等の写真を贈呈し、新同窓会館に掲示すること、医学部オリジナルグッズを作成し販売を始めたので同窓会のHPで広報したいこと等が報告された。

2. 協議事項

(1) 平成25年度行事予定
瀧口正樹理事より資料に基づき説明があり、以下の行事予定が承認された。
・常任理事会 平成25年4月17日（水）、11月14日（木）、平成26年2月12日（水）（水曜、木曜、交互の開催）
・総会 平成25年6月29日（土）
・会報発行 平成25年5月、9月、平成26年1月
・同窓会賞決定 平成25年4月17日（水）
(2) 平成25年度総会について
(1) により開催日程が承認され、担当は千葉県のはな会、開催場所は千葉とされた。詳細は今後検討することとされた。
(3) 役員交代について
大井利夫副会長より資料に基づき、役員改選について説明された。常任理事は各地区からの変更の申し出等を受け、会長等の候補者

の検討については現正副会長に一任することが承認された。

(4) 平成25年度予算編成
白澤理事より資料に基づき、平成25年度の予算編成にあたり、検討すべき点について説明された。のとはな同窓会賞は、学術賞に代わり社会貢献賞を予算化すること、芸術活動助成金を増額すること、同窓会活性化経費を設け、卒業祝金および新たに同窓サポートプロジェクトを予算化することなどが提案され、了承された。
(5) その他
出席理事より、同窓会の活性化について意見が述べられ、会費納入方法としてコンビニ対応の振込用紙を作る等が提案された。
また、社会貢献賞の新設に伴い、同窓会賞の選考委員の適任要件について次回改選時に検討することとした。

3. その他

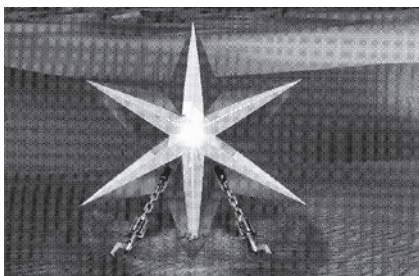
次回開催について
次回の常任理事会は平成25年4月17日（水）開催とした。



常任理事 写真左から

- 前列：田中 光（昭24）、三枝一雄（昭32）、鈴木信夫副会長（昭47）、大井利夫副会長（昭35）、伊藤晴夫会長（昭39）
済陽高穂副会長（昭45）、坂田早苗（昭34）、青木 謹（昭36）、中田義隆（昭36）、花輪孝雄（昭45）
後列：伊藤達雄（昭42）、鈴木 守（昭39）、税所宏光（昭40）、森 豊（昭37）、佐藤 通（昭35）、宍倉正胤（昭37）
岩倉弘毅（昭37）、吉川広和（昭40）、小野田昌一（昭40）、角田隆文（昭57）、白澤 浩（昭57）、田邊政裕（昭49）
瀧口正樹（昭56）、吉原俊雄（昭53）、岡本和久（平2）

於 常任理事会（2013年2月14日）



高親和性AT1レセプターブロッカー 薬価基準収載
オルメテック錠 5mg 10mg 20mg 40mg

処方せん医薬品：注意一医師等の処方せんにより使用すること
一般名/オルメサルタン メドキシミル

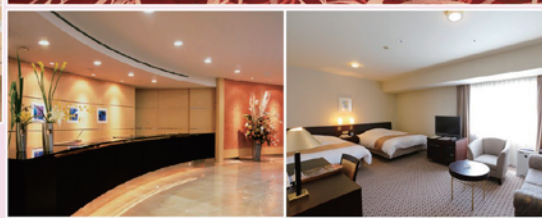
※効能・効果、用法・用量および禁忌を含む使用上の注意等については
製品添付文書をご参照ください。

製造販売元（資料請求先）
第一三共株式会社
東京都中央区日本橋本町3-5-1



仲間達との同窓会 家族のお祝い 特別な日は ミラマーレで

京成線千葉中央駅直結
「京成ホテルミラマーレ」はアクセス抜群！
優しさあふれるおもてなしで
お客様をお迎えます。



京成ホテルミラマーレは、東京ディズニーリゾート®・グッドネイバーホテルです。

京成ホテルミラマーレ

〈ご予約・お問い合わせ〉 TEL:043-222-2111
www.miramare.co.jp

オンライン会報案内

<http://www.inohana.jp/online/index.html>

みのほな 千葉大学医学部 みのほな同窓会



インターネット上動画配信を目的とするみのほな同窓会報「オンライン会報」では、諸先生方のご協力を得て、貴重なご講演などをご覧いただける番組を提供しております。どうぞ、ご供覧などにもご活用ください。一方、病院紹介番組では、千葉日报社のご協力も得て、千葉県内病院については、千葉日報紙における病院紹介記事（頼りになります街のお医者さん）への掲載も連動させております。今後、オンライン会報番組への掲載参加をお申込みしていただける先生には、同窓会本部へその旨をお知らせください。

生涯学習講座 (掲載番号)

- (1)  **小児免疫・アレルギー疾患の基礎から臨床へ**
河野陽一 (千葉大学教授)
*河野陽一教授最終講義
[2013.4.8掲載]
- (2)  **敗血症診療の最近のトピックス**
織田成人 (千葉大学大学院医学研究科救急集中治療医学 教授)
平成25年度 栃木県みのほな会総会 (2013.1.27開催) における講演
[2013.3.12掲載]
- (3)  **医工学研究会 単孔式腹腔鏡下手術における問題点をどう改善すべきか**
准教授 川平洋/写真左
高木 剛/写真右 (社会福祉法人 京都社会事業財団 西陣病院)
[2013.3.12掲載]
- (4)  **自尊感情を育てて生活習慣病を予防する 一人間の素晴らしさを子どもたちに伝えよう**
篠宮正樹 (西船内科 院長)
平成24年度千葉県学校保健研修会 (2012.11.14) における講演
[2013.3.12掲載]



高橋院長自ら手術に取り組み



社会保険船橋中央病院の高橋誠院長 間4万人が健康の厚さは以下の数字が端的に示す。健康管理は「今後も4センチは具内トックは具内トックな役割を果たしていきたい」と話す。

◆高橋誠院長のプロフィール
千葉大学医学部卒業。国立療養所下志津病院、国立習志野病院で外科勤務。松戸市立病院外科医長、船橋中央病院副院長を経て現職。日本外科学会などの認定医・指導医。

◆診療案内▽内科・小児科・新生児科など17科。▽外来受付時間 午前8時～11時▽休日 土・日曜、祝祭日、年末年始▽住所 船橋市海神6の13の10 (京成海神駅から徒歩5分)▽☎047(4333)2111。

東葛南部地域での地域医療に貢献して63年。社会保険医療の正道を歩んできた社会保険船橋中央病院は、健康管理・内視鏡・周産期・インプラントの4センターによる活動を中心に、地域住民や行政から信頼される総合病院として発展してきた。

その先頭に立つ高橋誠院長も具内屈指だ。

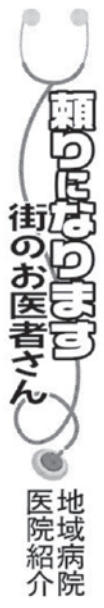
診に訪れ、内視鏡も年間1万件以上を扱う。周産期Cへの母体の救急搬送・帝王切開手術数も具内屈指だ。

足など全国的な地域医療の困窮が深まる中で、2014年4月からは独立行政法人・地域医療機能推進機構が運営する公設公営型病院に衣替え。新たに総合診療部を設置して初期診療や救急対応の充実を目指す。

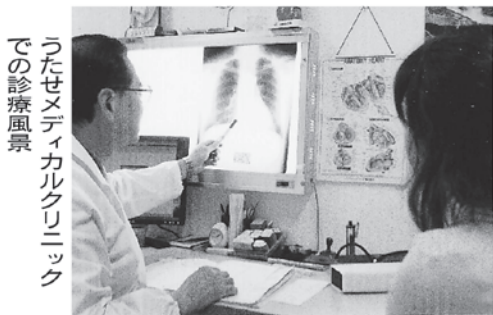
高橋院長は「今後とも4センチを軸に地域医療への中心的な役割を果たしていきたい」と話す。

社会保険船橋中央病院

4C軸に地域医療支える



	生涯学習講座			掲載日
(5)	英語語源から学ぶ科学用語	池田黎太郎	順天堂大学名誉教授/千葉大学 非常勤講師	2012.12.19
(6)	食道癌・胃癌における最新治療の今後の課題	松原 久裕	千葉大学大学院医学研究院先端応用外科 教授	2012.11.13
(7)	いつまでも若々しく生きるために	白澤 卓二	順天堂大学加齢制御医学講座 教授	2012.10.22
(8)	機能性ゼオライトによる放射線セシウム除去能力の検討	菅谷 茂	千葉大学大学院医学研究院医学研究環境影響生化学 助教	2012.10.3
(9)	放射線の基礎知識	石井 正人	千葉大学大学院医学研究院RI管理室 技術専門職員	2012.10.3
(10)	千葉大学 GMカンファレンス2012 一病歴からの臨床推論— 呈示症例1 全身痛、食欲不振	高田 俊彦	君津中央病院総合診療科 科長	2012.8.28
(11)	千葉大学 GMカンファレンス2012 一病歴からの臨床推論— 呈示症例2 発熱、倦怠感、前部胸痛、歩行時息切れ	生坂 政臣	千葉大学医学部附属病院総合診療部 教授	2012.8.28
(12)	動脈硬化と心臓病	小林 欣夫	千葉大学大学院医学研究院循環病態医科学 教授	2012.8.28
(13)	肥満症をとりまく最近の話題	横手幸太郎	千葉大学大学院医学研究院細胞治療内科学 教授	2012.8.28
(14)	医療は変わる	大島 伸一	独立行政法人国立長寿医療研究センター 総長	2012.8.15
(15)	千葉大学医学部（母校）への感謝	永野 俊雄	千葉大学 名誉教授	2012.7.24
(16)	無から有を生む生命科学探求の四十五年間 一ヒトのSOS 応答生理機能の創成および放射能汚染調査の残照—（最終講義）	鈴木 信夫	千葉大学教授（現千葉大学名誉教授）	2012.6.19
(17)	小児頭蓋顔面先天異常の最新治療とその限界	佐藤 兼重	千葉大学大学院医学研究院形成外科学 教授	2012.6.19
(18)	旅行医学：学生の旅行医学	篠塚 規	日本旅行医学会専務理事/三愛病院 副院長	2012.6.19
(19)	旅行医学：小児の旅行医学	小川 富雄	帝京大学医学部小児外科 准教授	2012.6.19
(20)	震災後の陸前高田市でのこころのケア体験から	旭 俊臣	医療法人社団弥生会旭神経内科リハビリテーション病院 院長	2012.5.7
(21)	呼吸調節研究への道 ーマイ・ウェー（最終講義）	西野 卓	千葉大学教授（現千葉大学名誉教授）	2012.4.25
(22)	薬剤部での20年間（最終講義）	北田 光一	千葉大学教授/千葉大学医学部附属病院 薬剤部長（現千葉大学名誉教授）	2012.3021
(23)	原発事故による放射能汚染と対策	鈴木 信夫	千葉大学教授（現千葉大学名誉教授）	2011.12.16



うたせメディカルクリニックでの診療風景



渡辺滋院長
うたせメディカルクリニック
千葉大学附

「最近血圧が高めになってきた」「胸のあたりに痛みを感じることが多い」「少しの動作でも息が切れる」。循環器内科の専門医に診てもらいたいが、受診までに時間がかかる大病院ではなく、手軽に相談できる医療機関がない。こんな要望に応えてくれるのが、千葉市美浜区の幕張ベイタウン内で開催する「うたせメディカルクリニック」（渡辺滋院長）だ。

◆渡辺滋院長プロフィール
千葉大学医学部卒。米国ロサンゼルス大学サンフランシスコ校心臓血管研究所研究員を経て、同大医学部循環器内科講師として主に高血圧、不整脈、動脈硬化疾患の診療に従事した。

◆診療案内 ▽内科・循環器科 ▽受付時間 8時30分～正午、14時30分～18時 ▽休診日 水・日曜日、祝祭日 ▽住所 千葉市美浜区打瀬3-14-20（JR京葉線・海浜幕張駅から徒歩15分） ▽電話 043（351）2727

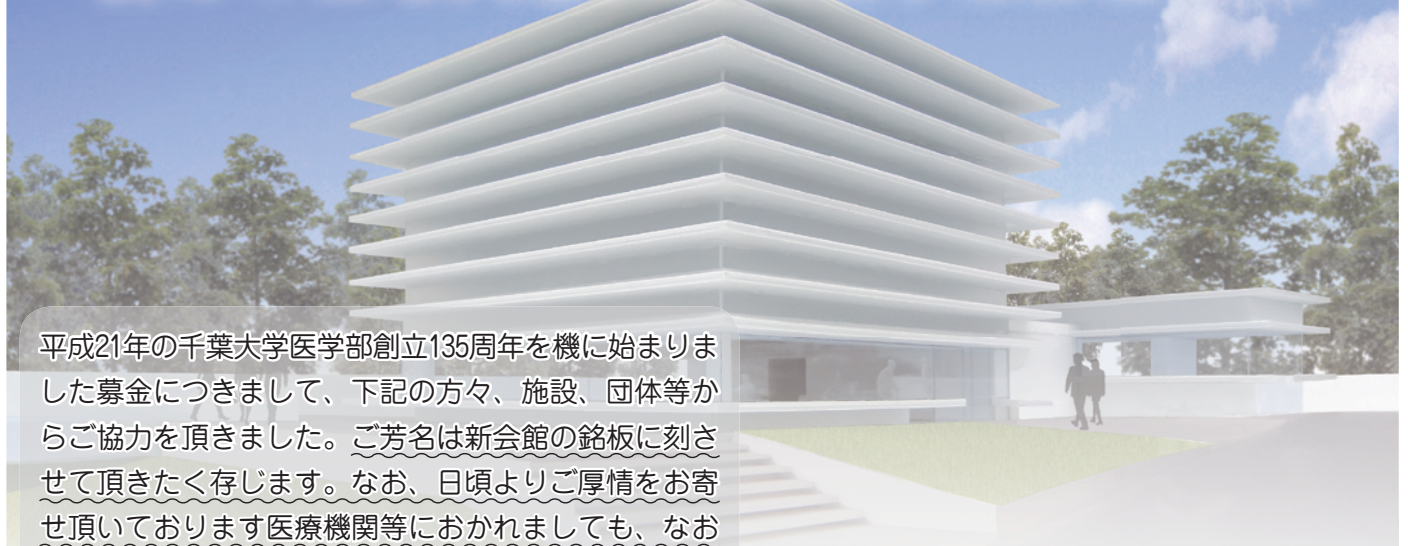
循環器疾患はおまかせ

u-tase-medical-clinic
街のお医者さん
地域病院 医院紹介

4

(平成25年4月1日現在)

新みのはな同窓会館設立事業募金状況



平成21年の千葉大学医学部創立135周年を機に始まりました募金につきまして、下記の方々、施設、団体等からご協力を頂きました。ご芳名は新会館の銘板に刻させて頂きたく存じます。なお、日頃よりご厚情をお寄せ頂いております医療機関等におかれましても、なお一層のご支援を賜れますれば誠に幸甚に存じます。

高額寄附者ご芳名

(敬称略)

300万円以上ご寄附

企業・法人等

財団法人 同仁会

200万円以上ご寄附

企業・法人等

(株) 千葉京成ホテル

鳥居薬品(株)

同窓会員

矢野浩二郎(平11)

寄附者ご芳名

(敬称略)

一般個人

片野 鈴枝

加藤 良二

久保田勤也

稲瀬 道和

進藤 輝山

医療機関

旭神経内科病院

国保旭中央病院

(医) 井上記念病院

(医) 大平会嶺井第一病院

(医) かすみクリニク

上都賀総合病院

三川鉄千葉病院

(医) 木下産婦人科医院

100万円以上ご寄附

医療機関

旭神経内科病院

(医) 大平会嶺井第一病院

三川鉄千葉病院

千葉中央メディカルセンター

(医) 船橋整形外科病院

(医) 志方記念三木クリニク

企業・法人等

アステラス製薬(株)

キッコーマン(株)

小太郎漢方製薬(株)

第一三共(株)

武田薬品工業(株)

田辺三菱製薬(株)

中外製薬(株)

(株) ツムラ

ファイザー(株)

千葉大学医学部附属病院

臨床医学研究助成会

小埜 清

医学部後援会

同窓会員

土屋 與之(昭24)

羽生富士夫(昭29)

谷嶋 俊雄(昭34)

谷嶋 つね(昭35)

加藤 昌義(昭36)

岩倉 弘毅(昭37)

企業・法人等

SMB C日興証券(株)

赤星工業(株)

旭化成ファーマ(株)

あすか製薬(株)

アステラス製薬(株)

アストラゼネカ(株)

アルフレックスファーマ(株)

石井食品(株)

(株) 石渡商事

岩瀬薬品(株)

(株) ウチダ和漢薬

栄研化学(株)

エスエス製薬(株)

(株) エスアールエル

エーザイ(株)

エース損害保険(株)

エルメッドエーザイ(株)

大塚製薬(株)

伊藤 晴夫(昭39)

今津 暉(昭40)

赤井 壽紀(昭43)

唐澤 祥人(昭43)

中村 陽子(昭44)

大西久仁彦(昭47)

旭 俊臣(昭48)

早乙女 勇(昭48)

秋葉 哲生(昭50)

福井 博行(昭56)

土屋 広明(昭57)

角田 隆文(昭57)

仲野 公一(昭63)

岡本 和久(平2)

土井 茂治(平3)

小山 虎信(公衆衛生学)

(株) 大塚製薬工場

小野薬品工業(株)

科研製薬(株)

化研生薬(株)

鹿島建設(株)

勝又自動車(株)

(株) 北原防災

キッコーマン(株)

キッセイ薬品工業(株)

杏林製薬(株)

協和醗酵工業(株)

キリンファーマ(株)

グラクソ・スミスクライン(株)

クラシエ製薬(株)

クラシエ薬品(株)

京成建設(株)

(株) ケーヨー

京業工管(株)

興和(株)

小太郎漢方製薬(株)

(株) 小山商会 千葉営業所 佐藤製菓(株) サノフィ・アベンティス(株) (株) ザ・マンハッタン (株) サラト 沢井製菓(株) 参天製菓(株) (有) サン・プランニング (株) サンリツ (株) 三和化学研究所 (株) 志学書店 シエリング・プラウ(株) 塩野義製菓(株) 白鳥製菓(株) 菅原工芸硝子(株) (株) 正文社 ゼリア新薬工業(株) 第一三共(株) 大正製菓(株) 大日本住友製菓(株) 大鵬薬品工業(株) 大カキ医科工業(株) 武田バイオ開発センター(株) 武田薬品工業(株) 田辺三菱製菓(株) (株) 千葉銀行 (株) 千葉京成ホテル 千葉中央会計事務所 千葉日産自動車(株) (株) 千葉薬品 中外製菓(株) (株) 銚子丸 塚本総業(株) (株) ツムラ 帝人ファーマ(株) テルモ(株) トーアエイヨー(株) (株) 東葛幸文堂	東京海上日動火災保険(株) 東和薬品(株) 富山化学工業(株) 鳥居薬品(株) 財団法人 同仁会 (株) ナリコー 成田山新勝寺 ニプロファーマ(株) 日興コーディアル証券(株) 日本イーライリリー(株) 日本化薬(株) 日本ケミファ(株) 日本新薬(株) 日本臓器製菓(株) 日本たばこ産業(株) 日本ペーパードライイングヘルム(株) ノバルティスファーマ(株) バイエル薬品(株) (株) パイオニア 萬有製菓(株) ファイザー(株) 東日本旅客鉄道(株) 千葉支社 富士タクシー(株) (株) 富士フィルムメディカル 扶桑薬品工業(株) プリストル・マイヤーズ(株) 古谷乳業(株) ボーソー油脂(株) (株) ほてい家 ホテルグリーンタワー幕張 ホテルニューオータニ幕張 マイラン製菓(株) 丸石製菓(株) マルホ(株) 丸万壽司 三井ガーデンホテル千葉 三井住友海上火災保険(株)	(株) ミノファージェン製菓 明治製菓(株) 持田製菓(株) (株) ヤクルト ヤマサ醤油(株) 山崎製パン(株) (株) ヤンセンファーマ ロート製菓(株) ワイズ(株) わかもと製菓(株) 千葉大学医学部 附属病院臨床医学研究助成会	浅井 俊治 安達 哲夫 新井 英雄 有里 敬代 飯田 豊 飯田 義三 井窪 保彦 池内 英男 石神 博昭 石田 和弘 和泉みどり 伊東 龍也 井上 憲二 井福 正博 岩花久仁子 海村 昌和 大橋 茂 太田 昌男 大庭 恵 緒方 一 岡本 弘子 奥山 広明 小野 文雄 小谷野 信 笠間 昭彦 片岡 清 勝俣 賢二 加藤 誠 金子 浩一 上川床総一郎 川端 基彦 菊池 敏美 北爪 秀政 木下 富夫 工藤 琢也 熊谷 武久 蔵田 昌子 黒川 道徳 小曾根卓朗 後藤 喜章 小関 洋男 小西 敏郎 小堀 清 小林 洋一 酒井 雄一 櫻井 茂 佐藤 千鶴 佐藤 恒明	下平 坦 鈴木 壽郎 須賀 秀晃 杉浦 英一 泉 卓 高浦 和彦 高橋 修 高橋 恒雄 竹本 勝己 田島 啓二 田中 清七 塚田 俊行 坪井 良真 富永 庸平 豊田 弘 豊田 浩史 永井 玉枝 中川 康 中川 洋一 中田 徹亮 名倉謙二郎 東ヶ崎邦夫 日野修一郎 平山 敏雄 広沢 邦浩 廣瀬 俊夫 藤井 康史 藤田 邦臣 堀井 宏志 前田 雅治 松岡 才二 松田 一男 松村 雅生 三田 信明 武藤大二郎 森 豊 山田 雄一 山本 幸一 与儀 実久 吉井 仁実 吉岡 雅之 吉澤 尚嗣 与芝 真彰 若松 英彦 脇田 正実 和田 正英 医学部後援会	仲村 将高 放射線医学 川田 哲也 細胞分子医学 宮城 聡 臨床分子生物学 武川 寛樹 総合診療部 大平 善之 薬剤部 石井伊都子 先端和漢診療学寄附講座 関矢 信康 地野 充時 久永 明人 循環型地域医療連携システム学 馬杉 綾子 計良 和範 病理部 谷澤 徹 千葉大医・旧助手会 事務部 清水 富雄 堀江 寛	竹蓋 莊一郎 田中 進 専18 川辺 敏 山崎 康弘 山田 悦朗 来仙 隆 昭19 井出源四郎 北澤 幸夫 清水 衛 野際 英雄 平形 義人 佐藤希志雄 専19 池 二郎 村島 正博 山崎 衛 渡辺 兼司 昭20 長田 浩 草間 隆 近内 康夫 横地 尚 渡邊 昌平 君島善次郎 専20 今島 浩 久保田亨一 鶴澤 壽 勝呂 安 昭21 石原 眞 大磯 英雄 郡山 春男 国井 光智 齋藤 豊一 佐藤 壹三 中島 浩二 萩野 裕 古江 増蔵 本間 三郎 三宅 和夫 伊佐 博夫 昭22 石郷岡 寛 神山 英明 清水 健三 千田喜久雄 新田 実男 信藤 羊一 福島 溪二 茂又 眞祐 鷺田 一博 下坂正次郎 昭23 板垣 修造 一色 重義 伊東 和人 上野 高次 海老原恒雄 九島 璋二 窪谷 満雄 齊藤 嘉一 多賀谷 讓 奈良 四郎 西堀 乙彦 平岡 眞	藤崎 隆次 前田 寛 宮崎 隆次 和田 寛 専23 梅沢 亮 大野 信次 大平 馨 柿栖 米夫 香取 郁雄 斎川 俊一 佐藤希志雄 三瓶 善康 鈴木 東洋 竹内 盈 橋本 眞 中山 重男 水沼 三郎 宮入 繁夫 昭24 石谷 治彦 大林 泰 君島善次郎 木村 康 國府田幸夫 小林 準三 佐々木宣明 鈴木 文男 鈴木 直基 高野 俊男 田中 光 月岡 道雄 土屋 與之 寺島東洋三 中島 令一 中村 和之 長澤 仁一 菱木 達明 福永 和雄 武藤 滋 専24 伊佐 博夫 石井 克巳 石井 貞一 石川 哲也 植草富二郎 太田廣三郎 大橋 平治 岡田 宏一 奥野 文雄 神山 一郎 河野 正賢 霜島 正雄 下坂正次郎 鈴木 一郎 土田 功一 徳政 義和 中村 彰 中村 瞭 中村 精男 幡野 永由 久安 徹 福山 正臣 南谷 幹夫 山川 晋吾 山口 寅三 山本 惇 昭25 佐藤 恒好
--	---	---	---	---	--	--	---

医学部後援会

医学部教職員等

同窓会員

武原 三三	高見 恒男	住吉 孝男	櫻井 稔	小沢 昭司	大濱 博利	有馬 忠正	阿部 忠夫	昭27 達	平川 達	津村 澄雄	大沢 弘和	專26 敏郎	吉田 敏郎	柳澤 文憲	西宮 脩	武井 稔	久我 哲郎	伊藤 進	阿部 定生	昭26 武夫	渡辺 武夫	山崎 義人	宮内 謙二	畑 徹	長嶋 晟	中田 秀明	竹之内 弘	下野 武	島田 光重	円城寺 栄	石毛 義治	相磯 敬明	專25 瑞世	葛田 瑞世	越後 貫誠	池田 佐嘉衛							
得本 真義	関口 和夫	橋爪 榮徳	荘司 照光	黄田 堯介	河目 堯介	井上 幸方	有田 文章			内藤 和穂	小関 芳昌	渡部 士郎	大和 祐航	細田 裕	土手 内守人	四家 正一郎	大倉 淳男	石井 邦夫			横山 宏	森川 二郎	船曳 甫	奈良 林定	中野 正義	中澤 甫計	高木 美典	嶋田 昌言	神原 昌言	市川 邦男	青木 宣昭			佐久 間光史	稲田 正實								
秋元 駿一	昭30 房治	和田 幸一	根本 幸一	中塚 正夫	島崎 淳	佐野 迪雄	鹿山 徳男	大藤 正雄	荒木 晃	昭29 晃	吉田 恭二	山田 達哉	森山 典男	本位 田泰介	長谷 川正博	戸賀 崎義治	武市 正巳	鈴木 惟義	清水 惟義	澤田 勤也	小澁 雅亮	窪田 靖夫	唐木 清一	加藤 一雄	小田 博之	上野 正和	阿部 田辰一	青木 太三郎	昭28 勝	壬生 倉勝	石橋 源三	專27 勲	渡辺 康正	本間 康正	鍋谷 欣市	中野 清幸							
浅見 敦		福島 通夫	長谷 川透	中野 練一	富岡 清海	柴田 千葉男	佐藤 忠夫	大原 一夫	有馬 道男		若杉 幹太郎	山下 泰徳	松本 龍二	平田 正雄	成田 光陽	寺嶋 克郎	平林 健六	鈴木 正剛	柴崎 晃	小山 隆一郎	熊谷 信夫	川邊 兼美	金子 敏郎	小幡 裕	奥井 勝二	石川 佳夫	秋山 龍男		磯垣 弘	渡辺 武	三橋 慎一	広田 和俊	長崎 進										
平嶋 毅	芳賀 隆一	野口 照義	戸川 清	竹内 達	高橋 幸洋	斎藤 登	柏木 正士	石川 道雄	有馬 道雄	昭32 道雄	山口 慶三	船橋 輝藏	辻 真一	香田 繁夫	海老 原一	庵原 昭一	吉原 一郎	森田 茂	南園 義一	松田 三樹雄	藤山 嘉信	永野 俊雄	中島 和彦	十束 支朗	高橋 宣光	志村 昭光	指田 和明	後藤 澄夫	小林 昭而	大坪 雄三	伊藤 敏夫	石神 一良	淺利 行男										
福田 陽	林 昌三	野本 忠雄	西村 久一	中村 常太郎	谷川 英世	高橋 恒雄	仙波 一雄	三枝 大久保	飯塚 正章	昭32 正章	山口 元	森 碧	西原 源太郎	杉山 伸子	桑原 久	小野 清四郎	上原 すゝ子	渡邊 英詩	横田 俊二	村瀬 靖	丸川 和太	古屋 大雄	野本 和男	富田 裕	滝口 光雄	高橋 良平	清水 正道	斉藤 富久	小林 健次	片山 喬	岩井 忠志	伊谷 昭幸	新井 多喜男										
横山 哲夫	山本 俊雄	谷嶋 昌宏	藤田 久彌	原 雅美	野尻 雅美	津金 澤智雄	高木 良章	清水 順三郎	坂田 早苗	倉持 正昭	遠藤 幸男	植田 仲夫	赤星 至朗	昭34 至朗	御子 柴幸男	谷川 仁男	新美 偉誉	武田 從信	高木 學治	清水 文七	石川 美智子	佐藤 俊一	近藤 洋一郎	小林 直幸	加藤 達也	岡本 一真	宇野 可一	磯野 恭子	石川 恭子	相原 茲明	昭33 康敬	和田 康敬	横尾 敦夫	牧野 耕治	藤田 真								
横山 宏	田口 柁多	矢野 光保	原沢 三男	野口 徹男	関 泰男	多田 富雄	清水 精子	塩川 喜之	齋藤 建邦	春日 研一	植村 克夫	石川 克夫	吉田 貞利	檜垣 有徳	林 國春	長崎 護	辻 陽雄	高野 光司	菅谷 健彦	嶋田 俊恒	椎名 益男	花岡 建夫	小林 みち子	金子 勇	小野 寺美津雄	新井 禮子	柏戸 正英	石川 稔生	安里 洋	依田 勇二	村上 昌利	前田 昌利											
福山 悦男	野尻 雅美	中島 滋	谷口 英夫	瀧澤 光	鈴木 博康	白石 利隆	近藤 省三	黒田 健昭	栗原 稔	川村 光毅	加藤 昌義	小野 沢君夫	岡田 信道	昭36 一夫	新井 信道	横山 孝一	谷嶋 つね	増田 善昭	松山 迪也	堀江 武	藤村 眞示	西川 侃介	永田 一郎	千野 宗之進	嶋田 裕	佐藤 嘉久	阪 信隆	草刈 敬	神田 敬	軽部 富美夫	岡田 光生	市村 公道	雨宮 浩	昭35 功	吉井 功								
藤塚 立夫	野本 義隆	中田 重雄	塚原 幸雄	谷合 明	関 幸雄	鈴木 伸典	青木 昭義	今野 雅俊	吉永 正明	栗原 敬二	北村 孝子	川村 喜市	加藤 章平	小越 章平	石下 峻一郎	山崎 英雄	村松 準	三橋 稔	真島 吉也	堀田 とし子	長谷 川鎮雄	成田 静子	中田 益允	鈴木 茂	佐藤 重明	佐藤 秀三	榊原 宏	河野 勇輔	北方 允	海保 隆夫	大井 利夫	石川 喙	山崎 修道	山崎 明昭	吉野 明昭	昭37 淳一	伊藤 文雄	伊東 治武					
林 恵美	成瀬 瑛浩	中田 周	寺嶋 二郎	楯 修一	谷 正義	高野 裕俊	佐藤 浩	畔田 和子	栗原 江庭	北村 和夫	金城 友衛	加藤 裕司	大木 敏子	穴沢 輝一	浅野 尚	昭38 義博	綿引 義博	油井 信春	山本 駿一	柳沢 健一郎	森 豊	堀口 宗徳	藤森 康行	原田 博	中山 襄	瀬川 昌明	斎藤 全彦	黒岩 璋光	小野 幸雄	安達 恵美子	伊藤 文雄	石山 淳一	昭39 憲太	渡部 浩二	村山 憲太	嶺井 進	三井 静	松井 宣夫	前嶋 清				
小島 莊明	小澤 健資	大木 昌人	漆原 敬介	青木 至	昭40 道子	米満 武広	山下 明美	山口 正敏	本村 八恵子	三浦 徹藏	深尾 立	原 輝彦	永山 恵美子	千葉 胤道	高沢 博	鈴木 守	清水 秀一	重松 秀一	坂田 晃康	今野 貞夫	古謝 景春	角張 雄二	小野 健次郎	大森 忠昭	上原 朗	飯田 義信	阿部 一憲	秋草 克彦	昭39 秀明	渡部 浩二	村山 憲太	若新 政史	宮治 誠	緑川 隆	三木 亮	藤本 重義							
税所 宏光	冠木 恭平	海老 沼光治	今津 照夫	天海 照夫		山本 弘	山下 明美	矢島 義忠	村上 信乃	万本 盛三	平形 昭代	那須 野光政	塚田 正男	高根 健	鈴木 博一	白井 鎮夫	清水 完次朗	崎山 裕康	斉藤 俊憲	木内 政寛	貝田 豊郷	岡野 照美	大塚 嘉則	瓜生 東一	伊藤 晴夫	田井 津子	鯉坂 秀明					若新 政史	宮治 誠	緑川 隆	三木 亮	藤本 重義							

辛 京碩	島 毅	曾野 文昭	高野 元昭	竹内 龍雄	角田 興一	長尾 龍郎	野口 眞利	服部 芳夫	武者 廣隆	柳沢 貫一	山田 勝巳	渡邊 攻	昭41	天羽 達郎	飯島 幸雄	大島 仁士	大塚 明彦	若新 洋子	神谷 努	桑木 綱一	小林 伸行	佐々木 徳秀	塩沢 博	白濱 龍興	鈴木 弓	高山 和夫	竹島 徹	塚本 嘉一	中島 忍	市川 清子	平澤 博之	福田 淳	溝口 勝	鎗田 努	渡辺 一男	昭42	関 三千代		
伊藤 達雄	関 隆郎	勝俣 剛志	更科 廣實	谷口 克	高部 吉庸	内藤 準哉	中島 克巳	鍋島 和夫	服部 孝道	比嘉 英磨	平賀 一陽	藤田 優	森田 喜崇子	守屋 秀繁	林 益子	渡辺 道典	昭43	青木 靖雄	赤尾 建夫	石井 豊信	一瀬 正治	岩間 汪美	太田 東吾	鹿島 孝	加藤 之康	川村 功	栗山 喬之	小山 哲夫	斎藤 弘司	佐藤 文彦	佐藤 正毅	宿谷 正毅	鈴木 秀	高山 直秀	田代 亜彦	千葉 彌幸	鳥居 雅江	仲尾 清	
大沼 直躬	片倉 透	冠木 敦子	鈴木 一郎	高崎 健	田中 弘一	宮坂 謙介	中村 紀彰	忍頂寺 龍哉	林 龍哉	日笠山 一郎	藤澤 武彦	宮本 忠昭	森田 清	安田 耕作	吉野 絃正	赤井 壽紀	足立 英雄	磯村 勝美	磯村 進	伊藤 進	網代 成子	小澤 俊	梶尾 高根	唐澤 祥人	北原 宏	久野 宗寛	神津 玲子	佐藤 英樹	佐藤 元昭	鈴木 昭一	諏訪 敏一	滝川 敏一	玉井 輝章	土田 弘基	鳥居 敏明	中嶋 弘道			
中村 宏	藤塚 光慶	舟橋 満寿子	堀井 文千代	松清 央	李 思元	和泉 佳子	和田 源司	昭44	飯塚 武秀	飯塚 登	石川 達雄	内海 武彦	岡崎 壮之	落合 靖男	河崎 純忠	高田 悦子	高刀 志行	齋藤 康榮	須藤 義賢	篠原 義賢	神津 照雄	窪田 勝也	高橋 容子	加部 恒雄	奥村 康	遠藤 晴久	石渡 堅一郎	飯塚 登	浅野 武秀	昭44	飯島 信行	横堀 直孝	横堀 直孝	和泉 佳子	伊藤 文二	伊藤 憲二	伊藤 文二	伊藤 憲二	
細山 公子	榎本 正満	木村 邦夫	腰塚 吉克	杉山 徹是	住吉 長裕	高橋 裕	千見寺 勝	天神 弘尊	中野 義澄	永岡 喜久夫	橋本 英明	花輪 孝雄	平山 博久	古川 隆男	宮原 弘次	湯原 幹男	吉田 光宏	渡部 十九六	昭46	千葉 幸恵	今田 章	内田 朝彦	大森 耕一郎	加来 俊貞	磯部 洋子	神崎 頼仁	木口 博之	久保 正夫	大川 昌権	櫻井 幸弘	鈴木 直人	高瀬 直人	多賀 学	田畑 陽一郎	丹羽 有一	濱野 頼隆	平野 和哉		
梅津 亮二	北島 忠昭	黒田 重史	堺 常雄	菅ヶ谷 純弘	高橋 正年	滝沢 淳	寺澤 捷年	伴野 悠士	中山 章	野田 宏子	長谷川 毅	林 泰	宮蘭 千代子	榎本 純子	向井 将	与儀 裕	渡辺 義二	濟陽 高穂	昭46	高瀬 直子	牛嶋 朝二	大友 一夫	荻原 奉祐	門井 隆司	金田 庸一	木澤 功	北野 邦孝	結末 温	小林 弘忠	杉本 和夫	河村 和子	高橋 誠	谷口 環子	中村 欽哉	久田 俊和	川村 ひろみ			
船津 恵一	保坂 瑛一	三浦 利重	山室 美砂子	与那 嶺和子	若林 康之	昭47	伊藤 文憲	宇津 見和郎	大岩 孝司	大西 久仁彦	尾形 実	加藤 誠	河西 九三	菊池 友允	栗原 正	菅野 勇	鈴木 光二	相馬 光弘	若山 曜子	中嶋 征男	長尾 啓一	西野 卓	檜垣 進	山森 秀夫	力武 知之	脇坂 正美	若山 芳彦	渡辺 滋	昭48	旭 俊臣	岩田 泰子	猪股 弘明	上野 正純	梅田 透	大槻 俊夫	大内 美南	兼坂 清	木内 信二	木村 秀樹
高圓 博文	小林 健一	後藤 澄雄	佐藤 展将	末石 眞	鈴木 晴彦	早乙女 勇	高安 賢一	徳久 剛史	中村 明	灘岡 壽英	野口 哲夫	野鳥 文磨	千見寺 徹	前川 岩夫	保高 由美子	守田 政彦	安野 憲一	山田 均	横山 淳一	昭49	浅井 隆善	石神 博昭	江原 正明	片桐 誠	田辺 恵美子	木村 純	五月 女直樹	佐藤 武幸	鈴木 亮二	武井 泉	田中 秀之	田中 眞	田邊 政裕	土佐 純一	西山 裕孝	野村 恭子	野村 恭子	鳩貝 文彦	
河野 陽一	小林 道生	坂口 明	白井 厚治	須崎 勢至	鈴木 洋文	高島 常夫	千葉 次郎	内藤 威	永山 洋子	内田 宏子	野村 馨	広瀬 彰	千見寺 ひろみ	保阪 重莉沙	南 昌平	森山 紀之	山路 正文	山本 義一	中尾 照逸	富谷 久雄	土佐 寛順	隆 元英	篠宮 正樹	佐野 千寿子	佐伯 直勝	後藤 信昭	木村 道雄	川口 英昭	鴨下 博	沖本 光典	大塚 裕	入江 氏康	麻生 誠二郎	秋葉 哲生	昭50	秋田 昌夫	安東 昌夫	渡辺 順子	森川 眞一
三上 恵只	弓削 一郎	秋谷 徹	安東 昌夫	上田 志朗	大森 景文	上村 公平	河内 文雄	北川 道隆	小出 義雄	後藤 信昭	佐藤 直勝	佐藤 直勝	篠宮 正樹	高橋 譲史	永瀬 譲史	戸塚 清一	内藤 正文	高橋 譲史	西山 徹	野村 文夫	増村 道雄	宮崎 道雄	森野 正明	山本 日出樹	横須賀 收	赤嶺 正裕	森本 典子	井坂 茂夫	秋田 徹	昭51	井坂 茂夫	大塚 芳克	小野 元子	鏡味 勝	川村 健二	伊古田 裕子	小松 健祐	斎藤 典男	篠塚 正彦

仲田 敦生	徳重 克彦	塚本 哲也	高良 健司	菅沢 寛健	北村由美子	石川てる代	荻野 幸伸	宇田川晃一	上田源次郎	石川 洋	新井 貞男	昭53	山田 善重	湊 明	松岡 明	堀部 和夫	福田 薫	檜前 薫	中山 大典	中沢 肇	高橋 敏信	須田 啓一	小林 純	久保田浩一	北澄 忠雄	香村 衡一	尾崎 正彦	稲田 晴生	五十嵐辰男	昭52	由佐 俊和	松村 勉	藤田 順子	紅谷 明	姫野 雄司	南波 美伸	寺野 隆	高橋 和久
中村 幸夫	得丸 勝	寺井 博	武永 文晴	鈴木 敏生	小林 泰男	川俣 成人	織田 和男	遠藤 和男	上野 泉	伊藤 公道	安 徳純		山口 孝一	松前 孝幸	升田 吉雄	古川 斎	兵頭 明夫	林田 和也	中村 勉	塚田 和美	高田 俊一	鈴木 孝雄	小林 彰	木村 正幸	香村 玲子	海宝 雄一	大迫 政智	奥野 妙子		山本 和夫	八木橋美範	松谷 正一	藤田 国伸	布施 秀樹	林 春幸	中山 朝行	寺崎 太郎	
宮崎 三忠	藤田 明	氷見 寿治	蓮沼 桂司	野田 和男	永井 将道	十川 康弘	田中 篤	須藤 義夫	柴橋 博之	斎藤 康文	久木田親重	長 雄一	植松 武史	有我 隆光	昭55	吉田 弘道	福田 幾夫	中村 真人	鶴田 好孝	田川 雅敏	角南 祐子	杉田 克生	白土 英明	篠遠 繁樹	小林 祥雄	軍司 祥雄	大内純太郎	石毛 俊行	五十嵐忠彦	昭54	渡邊 正治	若林 俊雄	吉原 卓	山澤 岩男	山上 照男	森 照男	三瀧 忠道	野々村裕子
湯口 恭利	前田 勝久	深澤 一雄	氷見 京子	橋本 尚武	長島 通	鳥居 俊男	亀井太美子	砂田 莊一	杉原 茂孝	潮平 芳樹	栗原 和男	神崎 哲人	雄賀多 聡	石橋 巖		渡辺 恒家	宮本 恒彦	林 北見	宮崎 泉	巽 浩一郎	高野 正一	鈴木 良一	杉浦 信之	近藤 直樹	小林 進	萬 伸子	今関 文夫	伊澤 英次		和田 二郎	李 元浩	吉田 英生	山口 哲生	山川 久美	塚田 純子	花岡 明宏		
岩立 康男	池田 政文	昭58	和久 真一	山口 卓秀	古川 敬芳	中村 清吾	土屋 広明	酒井 直美	角谷 明子	島田 薫	下山 真彦	小森 功夫	川島 利彦	ピアス洋子	天野 穂高	昭57	湯山 琢夫	森石 丈二	三浦 正義	松村竜太郎	福武 敏夫	堀内 博行	長谷川 潔	中村 広志	友利 秀憲	武内 重康	瀧口 正樹	平良 真人	清水 俊行	座間 秀一	高 在完	亀井 克彦	笠松 紀雄	岡 陽一	伊藤 隆	足立 武則	昭56	羅 智靖
加藤 雄一	石川 信泰		山西 友典	守月 理	幡野 雅彦	角田 隆文	丹沢 秀樹	龍野 一郎	白澤 浩	下山 直人	篠崎 克己	川島 利彦	大嶺 靖	岩井 直路		吉川 正治	森永 哲文	道永 幸治	松村千恵子	堀内 啓	福本 俊一	馬場 章	永島 薫	中島 一彰	土屋 明弘	道永 麻里	高田 博之	鈴木 裕子	繁田 美香	五島 茂之	川副 泰成	加藤 邦彦	小川 利隆	伊藤 博	伊丹 純			
鍋谷 圭宏	堂垂 伸治	豊沢 昌彦	鈴木 徳雄	古口 徳幸	窪田 敏彦	北崎 朝志	菊野 薫	岡田 秀紀	石島 洋右	有田 恭久	阿部 恭久	昭60	渡邊 和義	守矢 秀幸	村井 尚之	松原 久裕	藤本 肇	中川 宏治	田中 尚武	高梨 一紀	下山 恵美	桑原 聡	奥脇 治郎	市川 雅彦	赤倉功一郎	昭59	山崎 正志	宮副 一郎	星岡 明	深沢 毅	西村 元伸	豊崎 哲也	田島 和幸	高木 一也	品田 良之	近藤 克則	亀山 仲吉	
並木 隆雄	中 信一	豊根 知明	田邊 信宏	坂井 誠一	興村 義孝	木元 正史	北川 憲一	佐藤 典子	井上 雅子	五十嵐裕章	安藤 聡		吉田 正美	持田 晃	光永伸一郎	星野 育男	西島 由美	露口 利夫	高橋 弦	高石 聡	幸田 圭史	小野崎郁史	岡本 弦	伊豫 雅臣	磯野 史朗		山本 修一	森田 昌浩	丸山 英明	武城 剛	長門 義宣	田中 泰弘	滝口 裕一	鈴木 俊英	平井真紀子	今田 進		
松永 正訓	福田 浩之	野首 光弘	中村 道夫	田島 康夫	関川 敏彦	菅谷 啓之	志賀 英敏	佐々木 一	三枝 敬史	呉 青洋	熊谷 匡也	朝比奈真由美	江畑 龍樹	秋元 英里	青江 知彦	昭62	結城 崇夫	村上 康二	松永 保	林 偉明	西脇 哲二	長門 文子	寺内 隆司	園田 昌毅	須藤 知子	沢田 貴志	櫻本 薫	菊地 浩之	加藤 直也	香川晃太郎	今牧 瑞浦	石田 厚	石井 智浩	安達 智江	昭61	保元 明彦	森嶋 友一	林 秀樹
岡田 吉弘	大湖 和弘	老沼 文彦	石川 尚彦	安西 隆之	平2	宮内 英聡	皆川 真規	平栗 雅樹	濱野ナナ子	中島 文毅	知久 毅	高瀬 完	須藤 真児	鈴木 昌彦	真田 昌彦	金 民世	菊池 周一	植田 健	平元 絵里	渡辺 繪里	吉留 博之	萩原 雅樹	西村 美樹	中澤 亨	高谷 美成	芹澤 徹	新藤 晴彦	木村 直弘	金田 庸一	片橋 立秋	小田 健司	伊藤 宏文	石井 光子	有田 誠司	青木 俊郎	昭63	山口 浩史	
岡本 和久	小風 真	太田 真	石和田稔彦	安藤 策郎		八木 毅典	南野 徹	船橋 真名	原木 豊行	花澤 健一	手塚健太郎	田垣内祐吾	関根 郁夫	須関 馨	杉戸 一寿	佐粧 孝久	北村 伸哉	大森 繁成	渡部 良夫	横手幸太郎	清水 公一	齋藤 雅彦	小島 博之	倉持 宏明	石塚 千秋	早川 睦	平3	吉村光太郎	丸山 紀史	林 裕家	田中 保彦	鈴木 洋人	清水 栄司	石井 秀孝	安達 佳宏	木下 悟明	神川 康也	勝見 明
岸 宏久	天野 景治	平5	山本 正二	谷嶋 隆之		三橋 修	町田南海男	樋口 佳則	真広 智仁	阪井 健一	小泉 健一	加藤 里絵	遠藤 恒宏	井上 淳	石井 徹	三池 聡	松本 伸行	宍倉めぐみ	二村 静子	福山 郁修	白鳥 毅	鹿間 弘一	小島 広成	草塩 公彦	今井 直樹	天野 晋		湯浅 讓治	藤井 克則	中川 晃一	高柳 淳也	鈴木 淳也	佐藤 宏	五月女 隆	川名 秀忠	嘉藤 貴子		

鈴木 陽一 杉本 克己 平9 伊豫田 稔 志田 崇 上原 孝紀 鈴木英一郎 荻野 彰 小山 虎信 多田 裕司 露崎 俊明 木村 孝雪 工藤 逸郎 関谷 武司 奥 佳代 中村 晃 富田 美佳 河村 治清 高橋 宏 鈴木 俊作 野呂瀬一美 青才 文江 渡辺 福 大川 和子 坂本 洋石 徳永 進 原 佳奈子 星山 瑠 土居 厚夫 新津 富央 羽田 明 水野 武昭 野崎 晃 篠原 寛休 佐藤 匡司 椎葉 正史 花岡 英紀 福田 和司 照井エレナ 野口佐綾香 花岡 大資 安戸 一皓 守 正英 小野崎 晃 鈴木 弘祐 武内 重樹 嶋田 健 嶋田 健 高橋 正史 盛永 智子 藤本 善英 本橋新一郎 多田 素久 田宮 亜堂 有川 俊輔 内野 康志 麻酔学 佐藤 彌生 茂谷 久子 池上 智康 風戸 豊 耳鼻咽喉科学 岡本 美孝 鎌田慶市郎 久保田 亨 佐久間洋一 海宝 雄人 増田 真一 多田 素久 田宮 亜堂 有川 俊輔 内野 康志 麻酔学 佐藤 彌生 茂谷 久子 池上 智康 風戸 豊 耳鼻咽喉科学 岡本 美孝 鎌田慶市郎 久保田 亨 佐久間洋一 海宝 雄人 平6 鵜飼 伸一 碓井 宏和 日暮真由美 田中 政道 岡山 大 片桐 明 伊賀恵美子 高地 光世 小林 淳二 齋藤 康 清水 公子 齋藤 康 橋 昌孝 寺田 修久 小関 洋男 篠原 靖志 原田 昇 神宮 和彦 小高 謙一 笠川 隆玄 窪田 伸矢 愛波 淳子 山本 憲子 松木 悟志 呼吸器内科学 清水 栄 宮崎 瑞明 皮膚科学 小林 賢二 鈴木 啓之 腫瘍内科学 山越 隆行 三橋 麗子 元山 逸功 生命情報科学 田村 裕 心臓血管外科学 松宮 護郎 手術部 飯寄 奈保 総合診療部 生坂 政臣 薬剂部 大森 栄 北田 光一 水鳥川俊夫 吉田 元 岩田 剛和 上原 七生 岡本 明子 高本真己子 田所 重紀 桑木 共之 代謝生理学 小平 昌 神経生物学 田那村 宏 中谷 行雄 分子病態解析学 米満 博 形態形成学 年森 清隆 豊田二美枝 外山 芳郎 森山 行雄 齋藤 哲一郎 齋藤 哲一郎 伊勢川直久 伊藤 勇夫 動物病態学 小野寺 勉 葛田 憲道 小野 章弘 生水真紀夫 芳野 春生 遺伝子制御学 齊藤 隆 中島 裕史 宮武昌一郎 岩間 厚志 太田 要生 分化制御学 内田 昭夫 近藤 正大 免疫発生物学 中山 俊憲 臨床分子生物学 石山 信之 鶴澤 一弘 内山 清春 大木 保秀 小河原克訓 小野 可苗	平8 浅井 利大 阿部 敦 森谷 純治 Viscar 藤尾純子 平13 岩澤 真理 太和田彩子 平14 中村 順一 李 泓 北原 雄元 木内 夏生 環境生命医学 熱海佐保子 門田 朋子 森 千里	平7 伊藤 彰 金子 透子 木下 香 新保 正貴 西村 基 三澤 園子 宮本 牧 森 有紀 矢野浩二朗 吉住 博明 平12 長谷川宏美 幸部 吉郎 椎名 明大 立石 順久 榎木 直文 野口 美香 平20 有川 理紗 片桐 諒子 武内 祥子 松岡 歩 平21 吉原晋太郎 吉村 晶子 環境影響生化学 喜多 和子 菅谷 茂 橘 正道 環境労働衛生学 井上 雄元 木内 浩二 北原 雄元 能川 浩二 熱海佐保子 門田 朋子	平9 伊豫田 稔 志田 崇 上原 孝紀 鈴木英一郎 荻野 彰 小山 虎信 多田 裕司 露崎 俊明 木村 孝雪 工藤 逸郎 関谷 武司 奥 佳代 中村 晃 富田 美佳 河村 治清 高橋 宏 鈴木 俊作 野呂瀬一美 青才 文江 渡辺 福 大川 和子 坂本 洋石 徳永 進 原 佳奈子 星山 瑠 土居 厚夫 新津 富央 羽田 明 水野 武昭 野崎 晃 篠原 寛休 佐藤 匡司 椎葉 正史 花岡 英紀 福田 和司 照井エレナ 野口佐綾香 花岡 大資 安戸 一皓 守 正英 小野崎 晃 鈴木 弘祐 武内 重樹 嶋田 健 嶋田 健 高橋 正史 盛永 智子 藤本 善英 本橋新一郎 多田 素久 田宮 亜堂 有川 俊輔 内野 康志 麻酔学 佐藤 彌生 茂谷 久子 池上 智康 風戸 豊 耳鼻咽喉科学 岡本 美孝 鎌田慶市郎 久保田 亨 佐久間洋一 海宝 雄人 増田 真一 多田 素久 田宮 亜堂 有川 俊輔 内野 康志 麻酔学 佐藤 彌生 茂谷 久子 池上 智康 風戸 豊 耳鼻咽喉科学 岡本 美孝 鎌田慶市郎 久保田 亨 佐久間洋一 海宝 雄人 平6 鵜飼 伸一 碓井 宏和 日暮真由美 田中 政道 岡山 大 片桐 明 伊賀恵美子 高地 光世 小林 淳二 齋藤 康 清水 公子 齋藤 康 橋 昌孝 寺田 修久 小関 洋男 篠原 靖志 原田 昇 神宮 和彦 小高 謙一 笠川 隆玄 窪田 伸矢 愛波 淳子 山本 憲子 松木 悟志 呼吸器内科学 清水 栄 宮崎 瑞明 皮膚科学 小林 賢二 鈴木 啓之 腫瘍内科学 山越 隆行 三橋 麗子 元山 逸功 生命情報科学 田村 裕 心臓血管外科学 松宮 護郎 手術部 飯寄 奈保 総合診療部 生坂 政臣 薬剂部 大森 栄 北田 光一 水鳥川俊夫 吉田 元 岩田 剛和 上原 七生 岡本 明子 高本真己子 田所 重紀 桑木 共之 代謝生理学 小平 昌 神経生物学 田那村 宏 中谷 行雄 分子病態解析学 米満 博 形態形成学 年森 清隆 豊田二美枝 外山 芳郎 森山 行雄 齋藤 哲一郎 齋藤 哲一郎 伊勢川直久 伊藤 勇夫 動物病態学 小野寺 勉 葛田 憲道 小野 章弘 生水真紀夫 芳野 春生 遺伝子制御学 齊藤 隆 中島 裕史 宮武昌一郎 岩間 厚志 太田 要生 分化制御学 内田 昭夫 近藤 正大 免疫発生物学 中山 俊憲 臨床分子生物学 石山 信之 鶴澤 一弘 内山 清春 大木 保秀 小河原克訓 小野 可苗	平15 上原 孝紀 鈴木英一郎 荻野 彰 小山 虎信 多田 裕司 露崎 俊明 木村 孝雪 工藤 逸郎 関谷 武司 奥 佳代 中村 晃 富田 美佳 河村 治清 高橋 宏 鈴木 俊作 野呂瀬一美 青才 文江 渡辺 福 大川 和子 坂本 洋石 徳永 進 原 佳奈子 星山 瑠 土居 厚夫 新津 富央 羽田 明 水野 武昭 野崎 晃 篠原 寛休 佐藤 匡司 椎葉 正史 花岡 英紀 福田 和司 照井エレナ 野口佐綾香 花岡 大資 安戸 一皓 守 正英 小野崎 晃 鈴木 弘祐 武内 重樹 嶋田 健 嶋田 健 高橋 正史 盛永 智子 藤本 善英 本橋新一郎 多田 素久 田宮 亜堂 有川 俊輔 内野 康志 麻酔学 佐藤 彌生 茂谷 久子 池上 智康 風戸 豊 耳鼻咽喉科学 岡本 美孝 鎌田慶市郎 久保田 亨 佐久間洋一 海宝 雄人 増田 真一 多田 素久 田宮 亜堂 有川 俊輔 内野 康志 麻酔学 佐藤 彌生 茂谷 久子 池上 智康 風戸 豊 耳鼻咽喉科学 岡本 美孝 鎌田慶市郎 久保田 亨 佐久間洋一 海宝 雄人 平17 仙波 宏章 高瀬 正幸 野村征太郎 野村 陽子 平18 渡辺 美佳 野村 陽子 秋山 類 金井 慎一 齊藤 景子 高市 麻貴 高本真己子 田所 重紀 桑木 共之 代謝生理学 小平 昌 神経生物学 田那村 宏 中谷 行雄 分子病態解析学 米満 博 形態形成学 年森 清隆 豊田二美枝 外山 芳郎 森山 行雄 齋藤 哲一郎 齋藤 哲一郎 伊勢川直久 伊藤 勇夫 動物病態学 小野寺 勉 葛田 憲道 小野 章弘 生水真紀夫 芳野 春生 遺伝子制御学 齊藤 隆 中島 裕史 宮武昌一郎 岩間 厚志 太田 要生 分化制御学 内田 昭夫 近藤 正大 免疫発生物学 中山 俊憲 臨床分子生物学 石山 信之 鶴澤 一弘 内山 清春 大木 保秀 小河原克訓 小野 可苗	平15 上原 孝紀 鈴木英一郎 荻野 彰 小山 虎信 多田 裕司 露崎 俊明 木村 孝雪 工藤 逸郎 関谷 武司 奥 佳代 中村 晃 富田 美佳 河村 治清 高橋 宏 鈴木 俊作 野呂瀬一美 青才 文江 渡辺 福 大川 和子 坂本 洋石 徳永 進 原 佳奈子 星山 瑠 土居 厚夫 新津 富央 羽田 明 水野 武昭 野崎 晃 篠原 寛休 佐藤 匡司 椎葉 正史 花岡 英紀 福田 和司 照井エレナ 野口佐綾香 花岡 大資 安戸 一皓 守 正英 小野崎 晃 鈴木 弘祐 武内 重樹 嶋田 健 嶋田 健 高橋 正史 盛永 智子 藤本 善英 本橋新一郎 多田 素久 田宮 亜堂 有川 俊輔 内野 康志 麻酔学 佐藤 彌生 茂谷 久子 池上 智康 風戸 豊 耳鼻咽喉科学 岡本 美孝 鎌田慶市郎 久保田 亨 佐久間洋一 海宝 雄人 増田 真一 多田 素久 田宮 亜堂 有川 俊輔 内野 康志 麻酔学 佐藤 彌生 茂谷 久子 池上 智康 風戸 豊 耳鼻咽喉科学 岡本 美孝 鎌田慶市郎 久保田 亨 佐久間洋一 海宝 雄人 平17 仙波 宏章 高瀬 正幸 野村征太郎 野村 陽子 平18 渡辺 美佳 野村 陽子 秋山 類 金井 慎一 齊藤 景子 高市 麻貴 高本真己子 田所 重紀 桑木 共之 代謝生理学 小平 昌 神経生物学 田那村 宏 中谷 行雄 分子病態解析学 米満 博 形態形成学 年森 清隆 豊田二美枝 外山 芳郎 森山 行雄 齋藤 哲一郎 齋藤 哲一郎 伊勢川直久 伊藤 勇夫 動物病態学 小野寺 勉 葛田 憲道 小野 章弘 生水真紀夫 芳野 春生 遺伝子制御学 齊藤 隆 中島 裕史 宮武昌一郎 岩間 厚志 太田 要生 分化制御学 内田 昭夫 近藤 正大 免疫発生物学 中山 俊憲 臨床分子生物学 石山 信之 鶴澤 一弘 内山 清春 大木 保秀 小河原克訓 小野 可苗	平15 上原 孝紀 鈴木英一郎 荻野 彰 小山 虎信 多田 裕司 露崎 俊明 木村 孝雪 工藤 逸郎 関谷 武司 奥 佳代 中村 晃 富田 美佳 河村 治清 高橋 宏 鈴木 俊作 野呂瀬一美 青才 文江 渡辺 福 大川 和子 坂本 洋石 徳永 進 原 佳奈子 星山 瑠 土居 厚夫 新津 富央 羽田 明 水野 武昭 野崎 晃 篠原 寛休 佐藤 匡司 椎葉 正史 花岡 英紀 福田 和司 照井エレナ 野口佐綾香 花岡 大資 安戸 一皓 守 正英 小野崎 晃 鈴木 弘祐 武内 重樹 嶋田 健 嶋田 健 高橋 正史 盛永 智子 藤本 善英 本橋新一郎 多田 素久 田宮 亜堂 有川 俊輔 内野 康志 麻酔学 佐藤 彌生 茂谷 久子 池上 智康 風戸 豊 耳鼻咽喉科学 岡本 美孝 鎌田慶市郎 久保田 亨 佐久間洋一 海宝 雄人 増田 真一 多田 素久 田宮 亜堂 有川 俊輔 内野 康志 麻酔学 佐藤 彌生 茂谷 久子 池上 智康 風戸 豊 耳鼻咽喉科学 岡本 美孝 鎌田慶市郎 久保田 亨 佐久間洋一 海宝 雄人 平17 仙波 宏章 高瀬 正幸 野村征太郎 野村 陽子 平18 渡辺 美佳 野村 陽子 秋山 類 金井 慎一 齊藤 景子 高市 麻貴 高本真己子 田所 重紀 桑木 共之 代謝生理学 小平 昌 神経生物学 田那村 宏 中谷 行雄 分子病態解析学 米満 博 形態形成学 年森 清隆 豊田二美枝 外山 芳郎 森山 行雄 齋藤 哲一郎 齋藤 哲一郎 伊勢川直久 伊藤 勇夫 動物病態学 小野寺 勉 葛田 憲道 小野 章弘 生水真紀夫 芳野 春生 遺伝子制御学 齊藤 隆 中島 裕史 宮武昌一郎 岩間 厚志 太田 要生 分化制御学 内田 昭夫 近藤 正大 免疫発生物学 中山 俊憲 臨床分子生物学 石山 信之 鶴澤 一弘 内山 清春 大木 保秀 小河原克訓 小野 可苗
--	---	--	--	--	--	--

宮部 浩昭 (昭30)
 吉田 尚美 (昭29)
 三谷 真昭 (昭29)
 中村 恭二 (昭28)
 吉田 徳久 (昭27)
 松浦 博道 (昭26)
 坂本 至郎 (昭25)
 松田 三郎 (昭24)
 太田 三夫 (昭24)
 齋藤 三夫 (昭24)
 菱本 達明 (昭24)
 橋本 眞尚 (昭23)
 石原 寛敏 (昭19)
 矢野 哲 (昭18)
 朝岡 寛 (昭17)
 小林 清 (昭17)
 浜中 健夫 (昭14)

お く や み

海老原 雄一 (昭31)
 水川 和美 (昭31)
 荻野 博孝 (昭34)
 鈴木 秀三 (昭35)
 榊原 寛三 (昭35)
 瀬原 寛三 (昭35)
 松上 寛三 (昭35)
 松井 恵美子 (昭36)
 大和田 英美 (昭38)
 土屋 邦信 (昭38)
 大河 景春 (昭39)
 古謝 景春 (昭39)
 高橋 法昭 (昭49)
 賀陽 法昭 (昭49)
 中川 典明 (昭56)
 佐々木 理彦 (昭61)

新年度号をお届け致します。この原稿執筆中は、春に三日の晴れなし、で天候も定まりませんが、一雨毎にお日様も輝きを増している感じがします。お手元に届く頃は、風薫る五月、あるいはもう初夏の陽気でしょうか。本号にも、各方面のご活躍の様子が満載され、心強い限りです。巻頭には、齋藤学長から新あのはな同窓会館の完成に向けた「檄文」も寄せられております。会員諸兄弟

の志により、すでに建物本体の建設が着工されたとはいえ、資金面から、内装、調度の一部は別途工事に残さざるをえない状況です。本年12月の全面竣工に向け、伊藤晴夫同窓会長・事業会長、横須賀収新医学研究院長・医学部長を中心に鋭意努力中ですが、なお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。本会報が全面カラー化されてから、今回で第3号となります。会員皆様

瀧口正樹 (昭56)

方のご意見をもとに試行錯誤を重ね、色合いなども落ち着き馴染みやすくなってきたものと自負しております。ぜひ、さらに忌憚のないご意見をお寄せ下さい。昨冬は長く厳しかっただけ、梅雨、夏と過ごしやすいことを願うばかりですが、皆様におかれましては、ご自愛の上ご健康にてお過ごし下さい。



編集委員 写真左から
 前列：高橋和久(昭51)、横須賀収(昭50)、伊藤晴夫会長(昭39)、三木隆司(昭63)、青木謹(昭36)、鈴木信夫(昭47)
 後列：廣島健三(昭54)、栃木直文(平12)、織田成人(昭53)、坂本薫(昭51)、杉田克生(昭54)、清水栄司(平2)

千葉医学雑誌89巻1号 2013年2月

話 題

クリニカルアナトミラボはどのように誕生し、何処へ向かうのか 鈴木崇根
 日本麻酔科学会青洲賞について 西野 卓
 第112回日本外科学会定期学術集会を開催して 宮崎 勝

千葉医学会賞

転写因子p53による細胞内代謝調節機構とがんと生活習慣病 田中知明
 海外だより

メイヨークリニック留学記

Emory 大学留学記

学 会

第1236回千葉医学会例会・千葉大学大学院医学研究院腫瘍内科学例会
 第1256回千葉医学会例会・第30回神経内科学教室例会

OAP 要旨

日本人骨粗鬆症患者の脊椎圧迫骨折に対する、balloon kyphoplasty の有効性
 縄田健斗 及川泰宏 古志貴和 折田純久 山内かづ代 青木保親 石川哲大
 宮城正行 嶋田博人 鈴木 都 久保田剛 佐久間詳浩 稲毛一秀 西能 健
 中村順一 高相晶士 井上 玄 豊根知明 高橋和久 大鳥精司 高橋和久

編集後記

CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper

Original Paper

Efficacy of balloon kyphoplasty for vertebral compression fractures in Japanese patients with osteoporosis

Kento Nawata, Yasuhiro Oikawa, Takana Koshi, Sumihisa Orita
 Kazuyo Yamauchi, Yasuchika Aoki, Tetsuhiro Ishikawa, Masayuki Miyagi
 Hiroto Kamoda, Miyako Suzuki, Gou Kubota, Yoshihiro Sakuma
 Kazuhide Inage Takeshi Sainoh, Junichi Nakamura, Masashi Takaso
 Gen Inoue, Tomoaki Toyone, Kazuhisa Takahashi and Seiji Ohtori

千葉医学雑誌89巻2号 2013年4月

研究紹介

冠動脈疾患治療部 岩田 曜 藤本善英 小林欣夫

話 題

医学用語語源対話 II 杉田克生 池田黎太郎
 第25回日本外科感染症学会学術集会を振り返って 織田成人
 病原細菌のAB₂型トキシンの作用機構等に関する研究 野田公俊
 松戸の はな 会報のご紹介 野田公俊

エッセイ

文部大臣のいた刑務所 高野光司

学 会

第1253回千葉医学会例会・第36回千葉大学大学院小児外科学講座例会

OAP 要旨

大腸内視鏡検査観察時積極的体位変換法の検査後腹部膨満感の減少効果に関する検討
 山口和也 三橋佳苗 中川由紀 林 学

編集後記

田邊政裕

CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper

Original Paper

Dynamic position changes during the colonoscope withdrawal phase decrease abdominal fullness

Kazuya Yamaguchi, Kanae Mitsuhashi, Yuki Nakagawa and Manabu Hayashi

第90回千葉医学会総会開催のご案内

第89回千葉医学会学術大会

編 集 後 記